

「若手会員パワーアップ小委員会」 設立趣旨説明書

1. 「若手会員パワーアップ小委員会」設立趣旨について

1) 目的

学生や研究者、行政、公共企業体、ゼネコン及びコンサルタントなど多様な機関等に所属する①若手土木技術者の学会活動の活性化、ひいては、②学会全体の活動の活性化のため、学会事業の諸策を検討、提案し、その具体化を図ることを目的とする。

2) 期待される成果： 若手技術者に提供する場や機会など

①若手土木技術者の学会活動の活性化

- ・ アイディア・意見の交換や情報交換
- ・ 土木界のコミュニティへの参画、若手技術者のネットワーク形成
- ・ 学会活動への早期参加

②学会全体の活動の活性化

- ・ 学会活動を担う次世代の育成
- ・ 若手技術者の学会におけるステータス向上、リーダーシップの発揮

3) 活動内容

支部事業「若手土木技術者の交流サロン」成果の情報共有化と組織的な活動を推進するため、企画委員会内に「若手会員パワーアップ小委員会」を設置し、以下の事業・活動を推進する。

①若手土木技術者の学会活動の活性化

若手土木技術者による支部活動の活性化に向けた事業の展開・定着のために、以下の活動テーマに取り組む。

【小委員会の活動テーマ・内容】

- ・ 各支部における「若手土木技術者の交流サロン」ほか若手土木技術者による諸活動の情報共有、学会内外への広報
- ・ 若手土木技術者が中心となり支部活動を組織的に企画・運営し、それらに参加するための組織、事業、予算などの仕組みづくり
- ・ 各支部における事業の展開と定着
- ・ 成果・予算などの事業の評価
- ・ 支部間での事業の水平展開

②学会全体の活動の活性化

若手土木技術者による学会全体の活動の活性化、若手土木技術者のリーダーシップの発揮に向けて、以下の活動テーマに取り組む。

【小委員会の活動テーマ・内容】

- ・ 若手土木技術者のニーズの把握
- ・ 若手技術者から見た学会の中期計画(JSCE2020)、事業計画や新規事業の提案
- ・ 6 学会連携などの学会のネットワーク形成や若手土木技術者のプレゼンス向上

4) 構成・体制

- ・「若手会員パワーアップ小委員会」は、研究者、行政、公共企業体、ゼネコン及びコンサルタントなど多様な機関等に所属する 8 支部の代表 8 人と本部で選出する 7～8 名を委員とし、任期は 3 年間とする。年齢は 30 歳から 35 歳までとし、活動目的、内容等を理解し積極的に活動していただける方であれば、この限りではない。
- ・小委員長(企画委員会委員)、幹事長は、企画委員会委員長が選任する。
- ・活動支援のため、オブザーバーを配置する。
- ・忙しい年代が委員になることから、確実に有効な提案ができる体制を担保する。委員の委嘱において、所属機関に学会長から協力を直接要請するなど、委員が活動しやすい環境を構築する。

2. 「若手会員パワーアップ小委員会」の活動計画

1) 年度活動計画

①2015(平成 27)年度

- ・若手会員が積極的に学会活動に参加するための具体的方策をとりまとめた提言書を 2016 (平成 28)年 5 月末までに作成する。
- ・全国大会(2015(平成 27)年 9 月)において、研究討論会を開催する(以降、毎年開催)。

表 2015(平成 27)年度「若手会員パワーアップ小委員会」活動スケジュール(案)

	2015												2016					
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
委員選出・委嘱	●5 月 支部からの小委員会委員候補者の推薦 ●6 月 小委員会委員の選出・委嘱、小委員長の選出																	
委員会開催	●第 1 回 ●第 2 回 ●第 3 回 ●第 4 回																	
全国大会	●3/13 研究討論会企画募集 ●9/16 全国大会 研究討論会																	
学会活動の提言書	10 月 ●中間提言書まとめ 5 月 ●提言書まとめ																	

②2016 (平成 28)年度

- ・支部「若手土木技術者の交流サロン」成果の情報共有化及び本部対応事項の抽出と具体策の検討

2) 年度活動予算(2015(平成 27)年度)

- ・予算の制約を越えて、Web 会議・テレビ会議の活用など、小委員会の成果を確実にする取り組みを推進する。

表 2015(平成 27) 年度「若手会員パワーアップ小委員会」予算

項目	予算額
本部「若手会員パワーアップ小委員会」	80 万円 (委員会開催費 4 回)
参考:支部「若手土木技術者の交流サロン」	120 万円(6 支部:北海道、東北、関東、中部、中国、四国支部)

以上

「若手会員パワーアップ小委員会」の活動内容について(案)

① 若手土木技術者による支部活動の活性化

若手土木技術者による支部活動の活性化に向けた事業の展開・定着のために、以下の活動テーマに取り組む。

【小委員会の活動テーマ・内容】

- ・ 各支部における「若手土木技術者の交流サロン」ほか若手土木技術者による諸活動の情報共有、学会内外への広報
- ・ 若手土木技術者が中心となり支部活動を組織的に企画・運営し、それらに参加するための組織、事業、予算などの仕組みづくり
- ・ 各支部における事業の展開と定着
- ・ 成果・予算などの事業の評価
- ・ 支部間での事業の水平展開

【既往の各支部の組織、事業、活動】

各支部

■ 「若手土木技術者の交流サロン」

→ 参考資料 支部「若手土木技術者の交流サロン」開催状況（ページ 3～4）

事業・活動のテーマ：

- ・ アイディアの交換や研究・開発・政策などの情報交換
- ・ 学生と社会人とのキャリア・仕事・資格取得についての意見交換
- ・ テクニカルツアーなどの現場見学会の開催
- ・ コンテスト、コンペティションの開催
- ・ 学会事業の検討や提案

関西支部

■ 「ぶら・土木」

分野横断型若手土木技術者のための交流組織。「つながる、伝える、育てる、育つ」をキーワードに、若手土木技術者の交流と技術力の向上を目的として活動する土木学会関西支部の分会（ブランチ）。



企画ミーティング



～ぶらっとキャリアアップ～

資格取得を目指す若手技術者のためのミーティング



月面基地開発



阪神三宮駅改良工事現場 25 名が参加

関東支部

■ 「Student Chapter」制度 - 「どぼくカフェ」 / 予算:土木学会支部活性化事業

学生会員の主体的な活動を促進するために設置した制度。各大学・高専専攻科単位で Student Chapter を立ち上げることができ、関東支部は各活動に対して申請に基づき補助。平成 26 年は 3 つの活動主体あり。



「地震発生時いち早く新幹線を止める」をテーマに、
(公財)鉄道総合技術研究所より講演



司会は、船橋部会の学生



飲み物やお菓子を食べながら気軽にお話

■ 広報部会 コンクリートカヌー大会

土木の主材料によるコンクリートでカヌーを作り、ものづくりの楽しさを実感してもらうために、コンクリートカヌー大会を開催。2014 年 8 月、20 回目の開催。



事前審査



練習時間:他の艇に負けられません



決勝

②学会全体の活動の活性化

若手土木技術者による学会全体の活動の活性化、若手土木技術者のリーダーシップの発揮に向けて、以下の活動テーマに取り組む。

【小委員会の活動テーマ・内容】

- ・ 若手土木技術者のニーズの把握
- ・ 若手技術者から見た学会の中期計画(JSCE2020)、事業計画や新規事業の提案
- ・ 6 学会連携などの学会のネットワーク形成や若手土木技術者のプレゼンス向上

以上

参考資料 支部「若手土木技術者の交流サロン」開催状況

支部	年月日	場所	テーマ等	アイディアの交換や研究・開発・政策の情報交換	学生と社会人とのキャリア・仕事についての意見交換	テクニカルツアーなどの現場見学会の開催	その他：コンテストやコンペティションの開催	学会事業の検討や提案
北海道	2014 0202	札幌コンベンションセンター	・ 北海道の現況について ・ 土木学会創立について ・ 将来に伝えたい技術とはどのような技術か。 ・ 将来、土木技術者としてどのように社会に貢献したいか	○				
	2015 0131	室蘭工業大学	・ 「土木学会のイメージアップ戦略」 - 土木学会北海道支部の支部活性化 WG への提案	○				○
東北	2013 1127	東北支部	・ 土木技術者となって良かったこと ・ やりがいを感じていること ・ 将来土木技術者になってやりたいこと ・ いま、勉強していること	○	○			
	2014 0306	同上	同上	○	○			
	2014 0418	エル・ソーラ仙台	・ どのようにしたら土木の面白さ、素晴らしさ、技術力を一般市民の方々に知っていただけるか	○	○			
	2014 1010 ～1011	仙台湾南部海岸堤防 他	・ 女性対象 2014 年度現場見学会のご案内 ～東日本大震災仙台沿岸部復旧工事現場～	○	○	○		
	2014 1122	にぎわい交流館あう	・ 秋田ランチ： 行政、コンサル、施工業の各立場からの土木の仕事の全体的な流れと仕事内容	○	○			
関東	2013 0314	宇都宮大学	・ 日本のみらい予想 ・ 土木・土木技術者のあり方、役割	○				
	2013 1002	土木学会講堂	・ 若手土木技術者による講演と対話 ・ 土木学会創立について ・ 将来ビジョンに関する意見交換 - 低炭素とエネルギー、国土利用/街づくり、交通	○	○			
	2014 0313	まちなかキャンパス長岡	・ 将来ビジョンに関する意見交換 - 低炭素・エネルギー、国土利用・まちづくり	○				
	2014 1031	土木学会講堂	・ 将来ビジョンに関する意見交換	○				
	2015 0305	東海大学	・ ゼネコン、コンサルの仕事、キャリアについて		○			
中部	2013 1031 ほか	大同大学	・ 将来必要となる技術 ・ 土木技術者のあるべき姿と役割	○				
中国	2014 0531	松江工業高等専門学校	・ 次世代の土木技術者が描く未来社会と“私の貢献”	○	○			
四国	2014 0531	徳島大学	・ 四国における土木の将来像と私たちの役割 - ー土木学会将来ビジョンを踏まえてー	○	○			

北海道支部 20150131 土木学会のイメージアップ戦略



東北支部 20131127～20141122



「土木とアニメでエンタメを生み出す、
建設業の広報



学生と社会人の女子会



女性対象 2014 年度現場見学会のご案内
～ 東日本大震災 仙台沿岸部復旧工事現場 ～

関東支部 20130314～20150305



土木学会入会 会員証授与



私の社会人経験 と My Project



ビデオレター 土木学会のなりたち



中国支部 20140531 次世代の土木技術者が描く未来社会と“私の貢献”



四国支部 20140531 四国における土木の将来像と私たちの役割



“私の研究テーマ” など 4 名の中堅研究者によるプレゼン

2015 年 4 月 23 日

北海道支部	}	各支部長 殿
東北支部		
関東支部		
中部支部		
関西支部		
中国支部		
四国支部		
西部支部		

土木学会企画委員会
委員長 小林 潔司

「若手会員パワーアップ小委員会」委員候補の推薦について（お願い）

拝 啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より企画委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび企画委員会内に「若手会員パワーアップ小委員会」を設置することになりました。

この小委員会は、土木学会創立 100 周年記念事業として各支部において実施していただきました「若手土木技術者の交流サロン」の 2015 年度以降の継続実施に際し、活動成果等の情報共有をはかるとともに、若手土木技術者の学会活動の活性化、ひいては学会全体の活動の活性化に向けた取り組みを強化する目的で設置するものです。

小委員会の構成は、支部推薦委員 8 名と本部推薦委員 7～8 名を予定しております。

つきましては、下記により支部ごとに 1 名、小委員会委員候補を推薦していただきたくお願い申し上げます。

敬具

記

1.委員名称：若手会員パワーアップ小委員会委員

2.委員任期：2015 年度から 2017 年度の 3 か年

3.委員会開催頻度：年 4 回程度（旅費支給）

4.委員年齢：2015 年 4 月 1 日時点で 30 才～35 才

なお、小委員会設置趣旨書に示す活動目的、内容等を理解し積極的に活動していただける方であれば、この年齢範囲外でもかまいません。

5.具体的な委員会活動内容等：小委員会設置趣旨書参照

6.推薦期限等：5 月 29 日（金）までに、委員候補者の氏名、性別、年齢

（2015 年 4 月 1 日現在）、所属組織と役職、メールアドレス、委員委嘱状宛先を「7. 連絡先」までメールで連絡。

7.連絡先（本件担当）

（公社）土木学会 事務局会員・企画課 勝濱良博

Tel：03-3355-3435 Fax：03-5379-2769

E-mail:katsuhama@jsce.or.jp

A-4 掲示板・Twitter による土木学会活動に関するアンケート

- 掲示板投稿 Q1
- 掲示板投稿 Q2
- 掲示板まとめ Q2
- 当日用 Twitter

テーマ1：あなたにとって土木学会とは？

001:(無題) 投稿者:k

様々な情報取得の場。

土木技術者として、入会必須な環境。

002:あなたにとって土木学会とは？ 投稿者：入社7年目(鹿島建設)

「身近にあるが忙しいと深くかわからない存在」というのが本音です。業務の異動時期などゆとりのあるときには、「土木の今のトレンド」をうかむという意味で、土木学会誌を読んでいます。現場勤務ですと、学会自体は遠い存在です。

003:(無題) 投稿者：入社6年目(鹿島建設)

ほぼ接点がないのが現状です。FaceBOOKで登録してますがたまに見る程度です。もっと現場業務に即した(といっても色々な現場があり正直難しいとは思いますが...)というより、現場にいる人間が「さすが土木学会、こういった情報がほしかった」という風になればいいかと思います。

テーマ1：あなたにとって土木学会とは？

004:私にとっての土木学会！？ 投稿者：Kodok
土木学会もそれほど悪くありません。

005:(無題) 投稿者：kjm08

論文発表の場。

個人としては、それ以上の価値が見いだせない。

学会誌から有益情報を得られることがあるが、執筆している方は若手とかけ離れた立場が多いため、抵抗もある。

006:私にとっての土木学会 投稿者：28歳

“土木技術者としての必要な知識や見識を深める場

テーマ1：あなたにとって土木学会とは？

007：あなたにとって土木学会とは？ 投稿者：鹿島

大学時代は論文や学会等を積極的に活用していたが、現状「施工者」としての立場から見ただけで、学会にしても学会誌にしても、業務とは少しかけ離れた内容のものが多く、以前に比べ興味が薄れていった感がある。特に学会誌だが、土木といっても幅広いジャンル（立場や工種）があるので、例えば月ごとに、発注者（国・民間）、施工者（ゼネコンから地元建設会社まで）、コンサル等にフォーカスした内容にしたり、工種に絞った内容にすれば、個人的には興味が湧くし、土木を知らない人や志す人、就職に悩む人にも有益な情報源になるのでは？

008：A1, A2 投稿者：建設業10年次

Q1：あなたにとって土木学会とは？

- ・工事・設計の基準をつくる場
- ・研究発表の場

Q2：イベント参加できない人・社会人にととの土木学会のメリット

- ・月刊誌を読むこと、だけになっているには費用が高い...
- ・メリット、というか通達による加入ノルマ、

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

009:(無題) 投稿者:建設業11年目

現場にいる環境では、「土木学会＝月1回の学会誌を送付してくれる機関」といった感じ。あまり接点を感じることがないように思います。

010:(無題) 投稿者:土木屋11年目

現場だとそうですね。大規模プロジェクトを担当していると時期は土木学会賞や論文発表で接点がありましたが、バリアフリー等小規模工事を担当している時期は学会誌と請求書を貰うだけの、全くの受け身でした。

011:あなたにとって土木学会とは？ 投稿者:OKUSANN

普段、学術的な仕事をしていないので、研究したり、論文を書いたりしたいよな・・・というモチベーションを維持するための団体であり、学会誌はそのツールとして活用させていただいています！

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

012:(無題) 投稿者:土木屋

大規模現場が終わると学会へ投稿したり、発表する機会を得ることがあるが、普段はなかなか学会誌以外で接する機会はない。学会誌を通じて、「学術土木を学ぶ場」でしょうか？

あとは学生時代のほうがお世話になっていたので、「土木界の変化のバロメーター」といったところでしょうか！？

<http://matome.naver.jp/odai/2142339754288186701>₃

013:土木学会とは 投稿者:ゼネコン4年目

土木技術者の集いの場

そこでのコミュニティや学会、論文を通して技術を発信し、知識を得て、議論をし、進化していける場所であると考えます。

014:(無題) 投稿者:土木屋39年目

企業を離れ、一個人として活動できる場。多様な人と出会い、純粋に議論できる場。

テーマ1：あなたにとって土木学会とは？

015:(無題) 投稿者：建設業10年目

本社部門にいるときは、学会発表や講習会、委員会に参加する機会もたまにあるが、現場にいるときは、学会誌が送られてくる(けどほとんど読まない)だけです。

どちらにせよ、会社からの呼びかけもあり「とりあえず入会している」という感じで、12,000円分のメリットはあまり感じません。

14

016:自己研鑽のための有効なツール 投稿者：コンサルタント21年目

論文の発表、委員会への参加などを通じた自己研鑽の有効なツールではないかと考えています。アメリカの土木学会(ASCE)の様に、土木界のロビー団体としての機能も持つことができれば、更に存在価値が増すのではないかと思います。

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

017:土木学会とは 投稿者:藤田

老後の社会貢献活動の舞台です。現在、66歳でコンサルタント委員
会BC研究小委員会委員長、日本初の「土木の語り部」です。

<http://oniashi.sunnyday.jp/>

018:土木技術者集団 投稿者:ゼネコン40代

業種や年代を超えて土木技術者が集まる場だと思えます。

技術者が集まって行動することで、土木界全体や、土木以外の社会全体に貢献できると思います。

019:学会 投稿者:大学の研究員二年目(29歳)

- ・"学"を共通の目的として，産官学が集える場所を提供してくれる組織．
- ・本学会の論文誌に論文が掲載されると，大学の土木科の先生から研究者として認識される．

020:(無題) 投稿者:コンサル40代

土木技術者の自己(アイデンティティ)が確認できるところ

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

021:関係の構築は本人次第 投稿者:鹿島建設 森口智聡

何にでも共通して言えますが、どんな素晴らしい組織やシステムであっても、それを活用するかどうかは本人次第だと思います。

土木関係者にとって、最大規模であり最高の権威を持っている組織である事実は間違いなく、年代や業種を超えた方々と交流できる場であり、最新から過去のものまで幅広い知識を得ることができるところでもあると思います。

土木に関係する全ての人にとって、常時絶対必要であり常時利益享受できるもの(それは不可能だから)ではないとは思いますが、必要時に深く関わり、業務上あまり必要でない時には浅く関わる等、自分の現状に合った活用が出来れば良いと思います。

土木学会は、一朝一夕で組織できるものではなく、継続と歴史があってこそ規模と権威が維持できると考えるため、土木業界に携わっていく上で必要な状況がある以上、その活動にある程度の協力が必要であると思います。

会費がやや高いというような感想等もありますが、学会運営への意見はQ2で記載します。

テーマ1：あなたにとって土木学会とは？

022:情報収集の場 投稿者：建設業1年目メール

土木学会は建設業界で働く方にとっての情報収集の場であると考えます。情報収集の場は学会への参加や学会誌等、人により異なると思います。ですが、他社の動向や取り組みを知る良い機会であると考えます。しかし、学会に参加されない方にとっては少し物足りない部分もあると感じます。学会誌にもっと多数の土木に関する情報や論文を掲載した方が良いと感じます。

001 土木学会が与えられるメリットは？ 投稿者：入社7年目（鹿島建設）

イベントに参加できない会員に対して、イベントの内容の要約版を土木学会誌の序盤のページに載せるなど、短時間で要点だけ把握できるコンテンツがほしいです。土木学会誌自身も、仕事が繁忙時期には目を通せないので、トピック・要点だけでも1ページにまとまっているページがあってもいいと思います。

就職を機に退会する人に対しては、イベント参加時に「旧会員」という枠をつくって、何かメリットをつけることができるかもしれません（例えば、イベント参加費が割り引かれるなど）。

002 土木学会が与えられるメリット 投稿者：28歳 建設業

本部・支部のイベントに参加できない会員に対しては、それらの内容をFACEBOOKに投稿したり、動画配信したりすることによって、学会がより身近な存在だと感じられる場を提供できる。

就職を機に退会する人のほとんどは、土木系以外の会社就職し、今後、土木との関わりはないものと考えている。一方で、昨今の土木業界には、インフラの維持管理をはじめ、他業種（電機や食品など）の企業が勢力的に参入・研究開発を実施している。また、土木工事ひとつとっても、発注者や金融機関とお金の流れなどは、いまいちよくわからないし、興味深いものだと思う。以上のように、土木と他業種との関わりについて、土木学会誌やセミナーなどでわかりやすく（面白く）紹介していくことによって、土木学会や土木を魅力的で身近な学会だと感じさせることができるのではないか？

003土木学会誌 投稿者：nk

自分も本部や支部のイベントにほとんど参加せず、関わるのは全国大会のみです。そうなると普段、土木学会と触れ合うのは学会誌のみになります。この学会誌の内容は文章がとても硬く、非常に読みづらく感じています。毎回、学会誌の内容を読破している会員はまわりにはほとんどおりません。逆に日経コンストラクションなどは読みやすいせいか、よく読まれています。学会誌が読みやすくなれば、それを手に取る会員が増え、土木学会から発信される情報がより伝わりやすくなり、会員のメリットも増え、ひいては就職を機に高い人も減るのではと考えます。

19

004土木学会が与えられるメリット 投稿者：鹿島

「就職を機に退会する人」とは、言い換えると「業務上、土木学会の発信する情報が不要である、あるいはその情報に興味がない人」ということだと思います。こういった人たちが興味を持つ情報を発信することが必要で、それは即ち、土木関係ではない一般の方たちも興味を持ち身近に感じる「土木」を発信・提供することにつながると思う。まずは、一般の方が土木に触れ、興味を持つ情報や機会を提供する場を増やし、次に、その場において、一般の方に対して会員・元会員にメリットを付与する、というステップで考えてはどうだろうか。

005メルリット 投稿者：土木屋11年目

土木技術者自身が土木学会からの情報に魅力を感じない一方で、一般の方が大人の社会見学として土木に関心を持ってくださるのは嬉しいですね。

子持ちとしては、子連れ見学会を増やしてほしいです。安全に関する懸念もありますが、土木の英才教育を是非！

006土木学会誌 投稿者：土木屋11年目

私は、土木学会誌は知り合いが載っている時だけ読んでいます。

その点で100周年の様々な方からの一言コメントは良かったですよね。

(コメント者の所属先が限定されてはいましたが...)

学会誌だけでなく、ネット環境を活用して裾野を広く気軽に情報交換できる場があると思います。

007(無題) 投稿者：kjm08

イベントに参加できない会員に対しては、インターネットによるライブ配信をしたらどうか。

008メルリットが少ない！？ 投稿者：土木屋

私も会社からの要請がなければ、学会に再入会していなかったと思う。言い換えれば、日々の業務と学会活動(学会誌)とは依然として距離があると感じる。

学会が日経コンストラクションの訳にもいかないと思うので、インターネットを活用して土木を世に広める活動を行っていただきたい。土木が世間に浸透することで、土木学会員として土木のコアにいるものにとっても意味が増すと思う。

他方、久しぶりに学会誌に目を通してみると、懐かしい顔ぶれが投稿などとして、昔なじみの方の活躍は励みになる。

009(無題) 投稿者：土木屋39年目

1.講演・様々な情報などをインターネット配信

2.HO上の「なんでも相談室」の整備・充実

3.学生向けロールモデルの提示

4.NPOなど地域に根差した団体への支援など、学会がやるべきことを拡充していけば、学生会員や土木OBにもメルリットが実感できるのではないか。

010(無題) 投稿者:建設業10年目

技術士やコンクリート技士などの資格に関する講義のweb配信などがあれば、イベントなどに参加できない会員でもメリットを感じられるのでは。

(その分、講義をする人へのインセンティブが必要ではある)

最近では土木系学科を卒業しても、他業界に就職する学生さんが多い。

他業界に移る人は学会費を半額にして「サポート会員」のような立場にするなどして継続してもらい、異業種交流で人脈や知識の幅を広げられるような試みがあれば良いと思う

011やはり交流の機会が一番！ 投稿者:コンサルタント21年目

以前は、いつでも論文を投稿できるように、また、海外滞在が長かったこともあって、学会誌などを通じて日本の土木界の情報入手を目的として、学会員を続けていました。しかし、委員会活動などに参加するようになった今は、産官学の専門が異なる分野の方々と交流でき、視野を広げることができることこそ、土木学会のメリットではないかと考えています。ただし、現状では、こういった機会が会員全てに与えられている訳ではないと感じています。

012「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に 投稿者:藤田 俊英

現在はメリットと云うより土木学会は本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に情報発信する手段を持ってません、よね。

013(無題) 投稿者:k

土木の最新技術を伝えること。
これまでの技術、成果を伝えること。

014土木技術者としての誇りと自覚を持てる場 投稿者:ゼネコン40代

土木学会の会員が積極的に活動することで、積極的に活動できない会員や、もともと会員だった土木技術者も、土木という分野の有用性や社会への貢献度合いを間接的に知ることができ
る(といいなと思います。)

土木学会で活動する会員がそれぞれ会員であることを誇りに思っていて活動できていれば、おの
ずと周囲に認められ、間接的なメリットも増えてくるのではないかな、と思います。

土木学会に求めるものは、人それぞれ異なります。

イベントへ参加し技術者同士の交流の場として活用する方も多いと思いますが、学生や若手にとっては営業活動や交流は自分の現状の業務に直接に影響しないため、費用や時間を掛けてイベントに参加したいという人は少ないと思います。そのため、業務を抜けてイベントに参加するという環境も整ってない状況かと思います。もちろん、若いうちからそういう意識の高い人はイベントにも積極的に参加すれば良いと思いますが、大半の若手にとっては、会費が高い割に直接的なメリットを感じるものが少なく、またとつぎにくい印象が大きいのではないかと思います。土木学会が"若手"に与えられるメリットについて、思いつくままに個人的な考えを記載しますので、活用できそうなものがあれば、ご検討ください。

- ・学生の就職活動に対し、土木学会としての立場から各業種を公平に分析し、情報提供する場を設ける。就活担当者を選任し各学校を訪問する、大規模セミナーを開催する等。

- ・その際に、今後の土木学会の組織の活用の仕方等もアドバイスする。困った時に相談できる部署を土木学会に設置する。

- ・土木離れを防ぐため、イメージアップ広報を行う。女性技術者の幅広い採用。

- ・若手会員の会費を安くし、まずは会員を増やすことに重点を置く。現状、直接的なメリットに対し会費が割高で、会費ありきのイメージが先行し入会に二の足を踏む。会員になる価値を見いだせれば、年次が上がり会費が上がっても退会しないかと思えます。

- ・土木学会の組織に若手部門を作り、若手のみの活動の場も作る。運営側も若手が担当し、土木学会を身近にする。

- ・支部ごとの若手会の開催。参加費負担を軽減し、社用として参加できる環境を作る。営業というより、官民学から幹事を募り交流の場が作れば、参加した若手も価値を見いだせる。

- ・資格試験対策等、直近に役に立つ情報を提供する。書籍、講義(サテライト含む)等を土木学会会員価格(会費を別に払っているため)で購入できるようにする。合格者の声や、質問、対策等を記載できるページを開設する。

- ・技術を調べることができるデータベースを整理し、キーワード(工法、発注者、施工者等)で簡単に検索できるシステムを構築する。

016土木学会が与えるメリット 投稿者：建設業1年目メール

学会等に参加できない方にとってはただ年会費を納入するだけになってしまっていると感じます。参加できない方のためにも学会誌を充実させる必要があると思います。例えば、各社や大学が現在取り組んでいることを紹介できる範囲内で紹介することや研究論文を多数掲載すること、部門別に講座等を学会誌を通して行う等の工夫が必要である。

017知識を得られる場所 投稿者：大学の研究員二年目(29歳)

おす、学会員であったことがある人は、学会の存在、大まかな活動内容を知っているので、"土木学会で何か知識が得られるかも"という機会に出くわした時に、土木学会の入り口に再度戻れるというメリットがあると思います。よって、土木学会はその存在、活動などをHP, facebookなどで紹介し続けることで、"知識を得たくなったら帰っておいで"という安心感を元会員に提供できていると思います。学会のプログラム、論文のタイトル一覧などはweb上で閲覧できますし、必要があれば再度入会することも容易いと思います。

tweet案	文字数
建設現場の持つ圧倒的なスケール感は若者のチャレンジ精神を強く刺激してきたし、自ら手がけた完成品が半永久的に国民生活そして国民の命を守っていくのだという誇りを覚えずにはいられない。【土木学会論説2007.8 山本卓朗氏】#若手PU	116
科学技術の進歩は土木の世界にも大きな変化をもたらしている。例えば、機械化・自動化はもとより組織強化プラスチック等の新素材の活用など、若い土木技術者のチャレンジを待っている新領域が着実に広がっている。【土木学会論説2007.8 山本卓朗氏】#若手PU	125
土木の本来的な魅力は時代が変わっても不変である。であれば、土木を目指す若者にとって魅力ある建設業に再生することは、さほど難しいことではないであろう。【土木学会論説2007.8 山本卓朗氏】#若手PU	101
次世代人材育成には産官の教育参画が必須であり、建設分野の資格を魅力的な職業資格に育成し、建設分野が総力を挙げて有為な次世代人材を集める努力をすることが必要である。【土木学会論説2008.3 日下部治氏】#若手PU	108
現場のゆとりを実現するの、地球環境に取り組むのも健全な企業経営あつての話であり、特に若い技術者から見た建設業の魅力を取り戻す重要ステップであると考え。【土木学会論説2008.5 山本卓朗氏】#若手PU	104
今、凄まじいまでの公務員叩きであり、土木叩きである。これらにより、若い人達の土木離れが急速に進んでいると聞く。【土木学会論説2008.6 青木俊樹氏】#若手PU	82
若き人達が土木の本来の素晴らしさを経験しないままに、これから遠ざかることは、当人にとっても社会にとっても、また、今の時代のみならず次の世代にとっても大きな損失である。【土木学会論説2008.6 青木俊樹氏】#若手PU	110
土木分野ばかりでなく、これからの我が国をどのようにしていくべきかを考えることははなはだ大切である。その場合に年配の学識者の意見がマスコミなどによく取り上げられているが、二十歳前後に人々の意見をあまり耳にすることはない。【土木学会論説2008.10 魚本健人氏】#若手PU	137
わが国の若者の科学技術に対する興味や職業としての関心、未来に向けての夢や期待感といった意識は、諸外国との比較において、かなり低いようである。【土木学会論説2008.11 堀正幸氏】#若手PU	97
その要因はいろいろと考えられるが、わが国の若者は、現状をすでに満足のできる成熟した社会と感じ、更なる発展の必要性をあまり感じていないから、と言われている。【土木学会論説2008.11 堀正幸氏】#若手PU	104
土木・建設分野においては、技術者の確保のものが困難となるばかりではなく、重要なインフラの品質確保や安全性など信頼性に影響を与えることになりかねない。次代を担う人材の育成について、真剣な取り組みをすべき時期にきている。【土木学会論説2008.10 堀正幸氏】#若手PU	136
人材の育成や環境づくりの取り組みの一つは、各地で行われている子供達への教育・啓蒙活動である。【土木学会論説2008.10 堀正幸氏】#若手PU	73
自然や自然現象について学んだり、各種設備や建設現場の開放を通じて、土木分野についての正しい理解、ものづくりに対する興味や設備の持っている本当の意義を知る貴重な機会となっている。【土木学会論説2008.10 堀正幸氏】#若手PU	115
土木の将来ビジョンとその成果を、社会にも次世代を担う若者にも、広く発信していく努力が必要である。そのことが若い世代の新たな知的興味や魅力をひきつけることにつながっていくものと思う。【土木学会論説2008.10 堀正幸氏】#若手PU	117
土木技術者が何を期待され、貢献できるのか、を具体的に示すビジョンを社会に明らかにしておくことが必要である。このことが、次世代の人材育成とその確保につながる最大の方策であろう。【土木学会論説2008.10 堀正幸氏】#若手PU	114
最近のマスメディア等に、時々、日本の若い世代あるいは学生の内向志向を危惧する議論が載る。国際的な課題に興味を示さない、日常的な個人の小さな生活に埋没している等等である。【土木学会論説2009.2 大垣慎一郎氏】#若手PU	112
しかし、私の関連分野、環境工学、都市工学、あるいは、社会基盤工学分野の大学生、院生は、国際的な仕事に興味を持つ学生が少なくない。「近頃の若い者は」式の十把ひとからげの論は、いつの時代も誤りである。【土木学会論説2009.2 大垣慎一郎氏】#若手PU	126
国内の課題解決の重要性を強調しすぎると、土木あるいは社会基盤に関する分野は国内のみを向いている、と若い人に印象づけてしまう心配がある。世界で働きたい若い人は、この職業分野では自分の将来が狭くなる、と誤解するのではない。【土木学会論説2009.2 大垣慎一郎氏】#若手PU	138
いまの日本の若い世代も、かつての時代の青年達と同じく、あるいはより現実的に世界での活躍の希望を持っている。【土木学会論説2009.2 大垣慎一郎氏】#若手PU	81
日本の社会のさまざまな分野の中で、社会資本整備に関わる分野の行政や産業界など全体のシステムが、世界に雄飛しようとする若い世代へ、その大きな受け皿を提供しなければならない。【土木学会論文集2009.2 大垣慎一郎氏】#若手PU	114
学部4年や修士2年生にも、どのような仕事をしたいか、と問うてみた。約50名の回答はさすがに1年生のそれより多様であるが、あえてそれをくれば、一つは「ものづくり」、いま一つは「まちづくり」といえる。【土木学会論説2009.3 佐々木葉氏】#若手PU	127
そしてほとんどの回答に、「世の中のためになる仕事をしたい」という意図が読み取れる。頼もしい限りである。若者は、ものづくりやまちづくりを通して社会に貢献する仕事をしたいと考えているのだ。【土木学会論説2009.3 佐々木葉氏】#若手PU	119
一方、「ああ、国民のための仕事がしたい」という言葉が、期せずして複数の国家公務員の口から漏れるのを聞いた。【土木学会論説2009.3 佐々木葉氏】#若手PU	80
コンクリートや機械だけが見えるても技術者が見えない産業は、若者には魅力がないのではないだろうか。【土木学会論説2010.2 大島一哉氏】#若手PU	75
責任と権利は何を生むか。仕事に対する誇りか、設計への意気込みか。それに加え、土木構造物の設計を志す若い世代の期待に応えることにつながると信じたい。【土木学会論説2010.9 島津翔氏】#若手PU	99
論説委員としてではなく、土木にかかわる若手の一人として申したい。「最近土木に興味を持つ学生が少なくなった」と嘆く声をよく聞く。事実、土木系学科を卒業して、土木に関連する業種へ就職する学生が少なくなったのは確かだろう。【土木学会論説2010.9 島津翔氏】#若手PU	135
一方で、それでも就職先として土木分野を選んだ高い志を持った若手は筆者の周りにもたくさんいる。【土木学会論説2010.9 島津翔氏】#若手PU	72
土木学会は「産官学SOCIETY」である。この最適な場を通じて、産官学パートナーシップ精神で「100年の大計」なる青木ビジョンが策定され、土木学会が活性化し、学会関係者、特に若い技術者に夢と希望を与えて頂けることを祈念したい。【土木学会論説2011.2 谷口博昭氏】#若手PU	140
若い世代の建設離れは、将来の不安、処遇や就業環境の悪化、企業のリストラなどが主な原因と言われている。【土木学会論説2014.6 木村洋行氏】#若手PU	77
その中で、最近の記事に「建設業に魅力 17年ぶりに過半数」という記事があった。アンケート結果で、建設会社の社員(組合員)の過半数が自分の職業に魅力ありの票を投じたという。【土木学会論説2014.6 木村洋行氏】#若手PU	112
我々の仕事の魅力のある業種として存在するためには、残業時間が大幅に削減されていなければならない。特に若い世代に対しては尚更である。週休2日制の定着、そして平日の晩は自由に時間を使えるような就業環境、これらは必須である。【土木学会論説2014.6 木村洋行氏】#若手PU	136
50年前は、どんなきつい仕事でも、泥まみれになって、必死にこなすマインドが発注者・受注者双方に充満していた。これから50年先はどうであろうか。私はそれを期待するのは無理だと思う。【土木学会論説2014.6 木村洋行氏】#若手PU	116
世の中に対してオープンに、かつ計画的に、スマートに作る時代だと思う。そのためには、「ゆとり」のある工期・工程の設定が極めて重要である。そのことが土木の魅力を高め、若い土木技術者の確保につながると考えられる。【土木学会論説2014.6 木村洋行氏】#若手PU	130
会員増強活動おかげで現在は(土木学会員は)39,000近くになっています。電子情報通信学会、日本機械学会や日本建築学会などの大学会は減少傾向にあり、今や会員総数では逆転し、土木学会は自動車技術会に次ぐ工学系の学会になっています。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	141
土木学会は委員会活動、年次学術講演会、シンポジウム、論文集などを通じて、研究活動を発表し、他の会員の研究活動を知る、学ぶ場でした。土木学会での活動がなければ現在の自分はありません。大変な意思を感じています。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	129
今から思えば、多くの方とのつながりが出来たということが学会の最大のメリットでした。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	68
会員の中で論文集やシンポジウム、年次学術講演会などに関係しているのはごく一部で、多くの会員は学会との接点は土木学会誌のみというのが状況だと思います。そういう方にとって土木学会はどういう意味があるのでしょうか?【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	131
土木学会というのはそもそも土木を共通とした同志、仲間集まり、同好会なのです。「学会」という用語に引きずられ、我々は少し「学」にこだわらずにいるように思います。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	108
土木学会には調査研究委員会が非常にたくさんあり、年次学術講演会もほとんどが研究発表の場になっています。それも東京が中心です。實務に携わっている会員が関心を持つ集まりは驚くほど少ないのではないのでしょうか?【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	128
私は、ごく普通の会員が集まり、お互いに啓発できる、集いの場をたくさん、各地に作る必要だと考えています。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	81
アクセスという面からは、支部や小さい分会等の単位の会員の場を作っていくのがよいでしょう。そういう意味で、支部活動がより重要になります。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	95
会員が所属する組織を離れ、一個人としてフラットに集いに参加し、啓発され、成長し、人とのネットワークが形成され、学会員であることのメリットを感じる、これが私の学会のイメージです。【土木学会論説2014.7 藤野陽三氏】#若手PU	116
50年後の国土への戦略を考えた場合、この担い手のなる土木技術者の育成が非常に重要な課題であることは論をまたない。将来の土木技術者には、土木に対する深い理解力と洞察力、そして愛情が求められると筆者は考えている。【土木学会論説2015.4 二羽淳一郎氏】#若手PU	132
工学部卒の減少率を生産年齢人口と比較すると2倍、土木建築工学卒は5倍である。いずれにしても生産年齢は2015年から急激に減少することもあり、担い手の確保は厳しい状況である。【土木学会論説2015.8 村田和夫氏】#若手PU	114
建設コンサルタンツ協会の調査では中途退職者の30%が他産業に就職しており、その理由の一つが長時間労働である。就業中の人材を離職させずに育成することが課題である。【土木学会論説2015.8 村田和夫氏】#若手PU	107
新たな建設生産システムの構築など産官学を上げて効率化と人材育成に取り組む必要がある。関係者相互の交流を柔軟に進め、優秀な若者達の活躍を支援するのも一案であろう。【土木学会論説2015.8 村田和夫氏】#若手PU	107

A-4 掲示板・Twitter による土木学会活動に関するアンケート

- 掲示板投稿 Q1
- 掲示板投稿 Q2
- 掲示板まとめ Q2
- 当日用 Twitter

tweet案	文字数
各支部では、若手会員を対象とした活動・イベント等を実施しています。100周年記念事業「若手技術者の交流サロン」が5支部で、キャリア支援および発表会が各3支部で、見学会が2支部で、研修、講演会、競技会が各1支部で実施されています。#若手PU	121
各支部では、北海道支部「VISIT事業」、関東支部「土木カフェ」、「コンクリートカヌー大会」、関西支部「ぶら土木」、「大規模土木プロジェクト実地研修」、中国支部「企業による技術紹介」、西部支部「日本-韓国-台湾ジョイントセミナー」などが開催されています。#若手PU	134
北海道支部「VISIT事業」を受け、学生会員が若手技術者との意見交換を特に期待しているという意見が出ました。#若手PU	61
若手会員全般に関する各支部での課題として、門戸開放について6支部、会員数について5支部、活動継続について3支部、他に広報活動、活動メリット明確化、他学会との連携、職場の理解促進について各1支部から挙げられました。#若手PU	113
支部活動の門戸開放については、支部幹部などに推薦していただくことが多い、もっと多くの大学から参加を促す必要がある、活動に参加していない若手会員に対しての取組みが必要などの意見が出ました。#若手PU	100
会員数については、学生会員数が少なく会員数は横ばい傾向、若手会員が少ない、学生会員数はH21以降減少傾向などの意見が出ました。#若手PU	70
活動継続については、イベント事前準備の労力を考えると毎年開催は困難、活動継続のため中心的若手技術者が必要、更なる支部活動活性化には困難が伴うなどの意見が出ました。#若手PU	88
広報活動については、PRがうまくいっておらず学会員となるメリットが十分に伝わっていないという意見が出ました。#若手PU	61
活動メリット明確化については、メリットが十分伝わっておらず、就職後会員を継続する学生会員が少ないという意見が出ました。#若手PU	66
他学会との連携については、会員増加や活動活性化に他学会との連携が必要だという意見が出ました。#若手PU	53
職場の理解促進については、講演会等と異なり支部活動は職場を休んでの参加となるため参加しにくいという意見が出ました。 #若手PU	65
若手会員の活性化に関して土木学会に期待することとして、活動メリットの明確化、広報活動、イベント、人的交流、門戸開放、学会運営効率化、職場の理解促進が挙げられました。#若手PU	89
活動メリットの明確化については、土木学会は研究発表の場であり学会を通じて何が出来るとはよくわからない、多忙な若手会員に活動に携わってもらう何らかのメリットが必要であるなどの意見が出ました。#若手PU	101
広報活動については、学会誌等を通じて若手会員へ活動内容の広報や情報共有を図る必要があるなどの意見が出ました。#若手PU	61
イベントについては、学生を巻き込んだイベントの実施、仕事上の立場を超えた交流の場の提供、土木技術者になる前から興味を持ってもらう仕掛けづくりを、などの意見が出ました。#若手PU	90
人的交流については、土木学会が学校・学生と実社会との接点となること、若手の強みを生かした協働の場づくりを、などの意見が出ました。#若手PU	71
今後当小委員会で議論したい内容としては、土木学会を通じて何が出来るとは、若手技術者の人的ネットワーク構築について、土木に興味を持ってもらう仕掛けづくり、若手ならではの学と実務の融合、所属組織からのバックアップの必要性などが挙げられました。#若手PU	126

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

001:(無題) 投稿者:k

様々な情報取得の場。

土木技術者として、入会必須な環境。

002:あなたにとって土木学会とは？ 投稿者:入社7年目(鹿島建設)

「身近にあるが忙しいと深くかかわらない存在」というのが本音です。業務の異動時期などゆとりのあるときには、「土木の今のトレンド」をつかむという意味で、土木学会誌を読んでいます。現場勤務ですと、学会自体は遠い存在です。

003:(無題) 投稿者:入社6年目(鹿島建設)

ほぼ接点がないのが現状です。FaceBOOKで登録してましたがたまに見る程度です。もっと現場業務に即した(といっても色々な現場があり正直難しいとは思いますが...)というより、現場にいる人間が「さすが土木学会、こういった情報がほしかった」という風になればいいかと思います。

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

004:私にとっての土木学会！？ 投稿者:Kodok
土木学会もそれほど悪くありません。

005:(無題) 投稿者:kjm08

論文発表の場。

個人としては、それ以上の価値が見いだせない。

学会誌から有益情報を得られることがあるが、執筆している方は若手とかけ離れた立場が多いため、抵抗もある。

006:私にとっての土木学会 投稿者:28歳
“土木技術者としての必要な知識や見識を深める場

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

007:あなたにとって土木学会とは？ 投稿者:鹿島

大学時代は論文や学会等を積極的に活用していたが、現状「施工者」としての立場から見ただけで、学会にしても学会誌にしても、業務とは少しかけ離れた内容のものが多く、以前に比べ興味が薄れていった感がある。特に学会誌だが、土木といっても幅広いジャンル(立場や職種)があるので、例えば月ごとに、発注者(国・民間)、施工者(ゼネコンから地元建設会社まで)、コンサル等にフォーカスした内容にしたり、工種に絞った内容にすれば、個人的には興味が湧くし、土木を知らない人や志す人、就職に悩む人にも有益な情報源になるのでは？

008:A1, A2 投稿者:建設業10年次

Q1:あなたにとって土木学会とは？

- ・工事・設計の基準をつくる場
- ・研究発表の場

Q2:イベント参加できない人・社会人にととの土木学会のメリット

- ・月刊誌を読むこと、だけになっているには費用が高い・・・
- ・メリット、というか通達による加入ノルマ、、

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

009:(無題) 投稿者:建設業11年目

現場にいる環境では、「土木学会＝月1回の学会誌を送付してくれる機関」といった感じ。あまり接点を感じることがないと思います。

010:(無題) 投稿者:土木屋11年目

現場だとそうですね。大規模プロジェクトを担当していると時期は土木学会賞や論文発表で接点がありましたが、バリアフリー等小規模工事を担当している時期は学会誌と請求書を貰うだけの、全くの受け身でした。

011:あなたにとって土木学会とは？ 投稿者:OKUSANN

普段、学術的な仕事をしていないので、研究したり、論文を書いたりしたいよな・・・というモチベーションを維持するための団体であり、学会誌はそのツールとして活用させていただいています！

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

012:(無題) 投稿者:土木屋

大規模現場が終わると学会へ投稿したり、発表する機会を得ることがあるが、普段はなかなか学会誌以外で接する機会はない。学会誌を通じて、「学術土木を学ぶ場」でしょうか？

あとは学生時代のほうがお世話になっていたので、「土木界の変化のバロメーター」といったところでしょうか！？

<http://matome.naver.jp/odai/2142339754288186701>

013:土木学会とは 投稿者:ゼネコン4年目

土木技術者の集いの場

そこでのコミュニティや学会、論文を通して技術を発信し、知識を得て、議論をし、進化していける場所であると考えます。

014:(無題) 投稿者:土木屋39年目

企業を離れ、一個人として活動できる場。多様な人と出会い、純粋に議論できる場。

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

015:(無題) 投稿者:建設業10年目

本社部門にいるときは、学会発表や講習会、委員会に参加する機会もたまにあるが、現場にいるときは、学会誌が送られてくる(けどほとんど読まない)だけです。

どちらにせよ、会社からの呼びかけもあり「とりあえず入会している」という感じで、12,000円分のメリットはあまり感じません。

016:自己研鑽のための有効なツール 投稿者:コンサルタント21年目

論文の発表、委員会への参加などを通じた自己研鑽の有効なツールではないかと考えています。アメリカの土木学会(ASCE)の様に、土木界のロビー団体としての機能も持つことができれば、更に存在価値が増すのではないかと思います。

テーマ1: あなたにとって土木学会とは？

017:土木学会とは 投稿者:藤田

老後の社会貢献活動の舞台です。現在、66歳でコンサルタント委員
会BC研究小委員会委員長、日本初の「土木の語り部」です。

<http://oniashi.sunnyday.jp/>

018:土木技術者集団 投稿者:ゼネコン40代

業種や年代を超えて土木技術者が集まる場だと思っています。
技術者が集まって行動することで、土木界全体や、土木以外の社会全
体に貢献できると思います。

019:学会 投稿者:大学の研究員二年目(29歳)

- ・"学"を共通の目的として、産官学が集える場所を提供してくれる組織。
- ・本学会の論文誌に論文が掲載されると、大学の土木科の先生から
研究者として認識される。

020:(無題) 投稿者:コンサル40代

土木技術者の自己(アイデンティティ)が確認できるところ

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

021:関係の構築は本人次第 投稿者:鹿島建設 森口智聡

何にでも共通して言えますが、どんな素晴らしい組織やシステムであつても、それを活用するかどうかは本人次第だと思います。

土木関係者にとって、最大規模であり最高の権威を持っている組織である事実は間違いなく、年代や業種を超えた方々と交流できる場であり、最新から過去のものまで幅広い知識を得ることができる場でもあると思います。

土木に関係する全ての人にとって、常時絶対必要であり常時利益享受できるもの(それは不可能だから)ではないとは思いますが、必要な時に深く関わり、業務上あまり必要でない時には浅く関わる等、自分の現状に合った活用が出来れば良いと思っています。

土木学会は、一朝一夕で組織できるものではなく、継続と歴史があつてこそ規模と権威が維持できると考えるため、土木業界に携わつていく上で必要な状況がある以上、その活動にある程度の協力が必要であると思います。

会費がやや高いというような感想等もありますが、学会運営への意見はQ2で記載します。

テーマ1:あなたにとって土木学会とは？

022:情報収集の場 投稿者:建設業1年目メール

土木学会は建設業界で働く方にとっての情報収集の場であると考えます。情報収集の場は学会への参加や学会誌等、人により異なると思います。ですが、他社の動向や取り組みを知る良い機会であると考えます。しかし、学会に参加されない方にとっては少し物足りない部分もあると感じます。学会誌にもっと多数の土木に関する情報や論文を掲載した方が良いと感じます。

001 土木学会が与えられるメリットは？ 投稿者：入社7年目（鹿島建設）

イベントに参加できない会員に対して、イベントの内容の要約版を土木学会誌の序盤のページに載せるなど、短時間で要点だけ把握できるコンテンツがほしいです。土木学会誌自身も、仕事が繁忙時期には目を通せないで、トピック・要点だけでも1ページにまとまっているページがあってもいいと思います。

就職を機に退会する人に対しては、イベント参加時に「旧会員」という枠をつくって、何かメリットをつけることができるかもしれません（例えば、イベント参加費が割り引かれるなど）。

002 土木学会が与えられるメリット 投稿者：28歳 建設業

本部・支部のイベントに参加できない会員に対しては、それらの内容をFACEBOOKに投稿したり、動画配信したりすることによって、学会がより身近な存在だと感じられる場を提供できる。

就職を機に退会する人のほとんどは、土木系以外の会社就職し、今後、土木との関わりはないものと考えている。一方で、昨今の土木業界には、インフラの維持管理をはじめ、他業種（電機や食品など）の企業が勢力的に参入・研究開発を実施している。また、土木工事ひとつとっても、発注者や金融機関とお金の流れなどは、いまいちよくわからないし、興味深いものだと思う。以上のように、土木と他業種との関わりについて、土木学会誌やセミナーなどでわかりやすく（面白く）紹介していくことによって、土木学会や土木を魅力的で身近な学会だと感じさせることができるのではないかと。

003土木学会誌 投稿者：nk

自分も本部や支部のイベントにほとんど参加せず、関わるのは全国大会のみです。そうなると普段、土木学会と触れ合うのは学会誌のみになります。この学会誌の内容は文章がとても硬く、非常に読みづらく感じています。毎回、学会誌の内容を読破している会員はまわりにはほとんどおりません。逆に日経コンストラクションなどは読みやすいせいか、よく読まれています。学会誌が読みやすくなれば、それを手に取る会員が増え、土木学会から発信される情報がより伝わりやすくなり、会員のメリットも増え、ひいては就職を機に高い人も減るのではと考えます。

004土木学会が与えられるメリット 投稿者：鹿島

「就職を機に退会する人」とは、言い換えると「業務上、土木学会の発信する情報が不要である、あるいはその情報に興味がない人」ということだと思います。こういった人たちが興味を持つ情報を発信することが必要で、それは即ち、土木関係ではない一般の方たちも興味を持ち身近に感じる「土木」を発信・提供することにつながると思う。まずは、一般の方が土木に触れ、興味を持つ情報や機会を提供する場を増やし、次に、その場において、一般の方に対して会員・元会員にメリットを付与する、というステップで考えてはどうだろうか。

005メルिट 投稿者：土木屋11年目

土木技術者自身が土木学会からの情報に魅力を感じない一方で、一般の方が大人の社会見学として土木に関心を持ってくださるのは嬉しいですね。

子持ちとしては、子連れ見学会を増やしてほしいです。安全に関する懸念もありますが、土木の英才教育を是非！

006土木学会誌 投稿者：土木屋11年目

私は、土木学会誌は知り合いが載っている時だけ読んでいます。

その点で100周年の様々な方からの一言コメントは良かったですよね。

(コメント者の所属先が限定されてはいましたが...)

学会誌だけでなく、ネット環境を活用して裾野を広く気軽に情報交換できる場があると思います。

007(無題) 投稿者：kjm08

イベントに参加できない会員に対しては、インターネットによるライブ配信をしたらどうか。

008メリットが少ない！？ 投稿者：土木屋

私も会社からの要請がなければ、学会に再入会していなかったと思う。言い換えれば、日々の業務と学会活動(学会誌)とは依然として距離があると感じる。

学会が日経コンストラクションのなる訳にもいかないので、インターネットを活用して土木を世に広める活動を行っていただきたい。土木が世間に浸透することで、土木学会員として土木のコアにいるものにとっても意味が増すと思う。

他方、久しぶりに学会誌に目を通してみると、懐かしい顔ぶれが投稿などとして、昔なじみの方の活躍は励みになる。

009(無題) 投稿者：土木屋39年目

- 1.講演・様々な情報などをインターネット配信
- 2.HO上の「なんでも相談室」の整備・充実
- 3.学生向けロールモデルの提示
- 4.NPOなど地域に根差した団体への支援など、学会がやるべきことを拡充していけば、学生会員や土木OBにもメリットが実感できるのではないか。

010(無題) 投稿者：建設業10年目

技術士やコンクリート技士などの資格に関する講義のweb配信などがあれば、イベントなどに参加できない会員でもメリットを感じられるのでは。

(その分、講義をする人へのインセンティブが必要ではある)

最近土木系学科を卒業しても、他業界に就職する学生さんが多い。

他業界に移る人は学会費を半額にして「サポート会員」のような立場にするなどして継続してもらい、異業種交流で人脈や知識の幅を広げられるような試みがあれば良いと思う

011やはり交流の機会が一番！ 投稿者：コンサルタント21年目

以前は、いつでも論文を投稿できるように、また、海外滞在が長かったこともあって、学会誌などを通じて日本の土木界の情報入手を目的として、学会員を続けていました。しかし、委員会活動などに参加するようになった今は、産官学の専門が異なる分野の方々と交流でき、視野を広げることができることこそ、土木学会のメリットではないかと考えています。ただし、現状では、こういった機会が会員全てに与えられている訳ではないと感じています。

012「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に 投稿者：藤田 俊英

現在はメリットと云うより土木学会は本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に情報発信する手段を持ってません、よね。

013(無題) 投稿者:k

土木の最新技術を伝えること。
これまでの技術、成果を伝えること。

014土木技術者としての誇りと自覚を持てる場 投稿者:ゼネコン40代

土木学会の会員が積極的に活動することで、積極的に活動できない会員や、もともと会員だった土木技術者も、土木という分野の有用性や社会への貢献度合いを間接的に知ることができるといいなと思います。)

土木学会で活動する会員がそれぞれ会員であることを誇りに思っていて活動できていけば、おのずと周囲に認められ、間接的なメリットも増えてくるのではないかな、と思います。

土木学会に求めるものは、人それぞれ異なると思います。

イベントへ参加し技術者同士の交流の場として活用する方も多いと思いますが、学生や若手にとっては営業活動や交流は自分の現状の業務に直接に影響しないため、費用や時間を掛けてイベントに参加したいという人は少ないと思います。そのため、業務を抜けてイベントに参加するという環境も整っていない状況かと思っています。もちろん、若いうちからそういう意識の高い人はイベントにも積極的に参加すれば良いと思いますが、大半の若手にとっては、会費が高い割に直接的なメリットを感じるものが少なく、またとつづきにくい印象が大きいのではないかと思います。土木学会が"若手"に与えられるメリットについて、思いつくままに個人的な考えを記載しますので、活用できそうなものがあれば、ご検討ください。

- ・学生の就職活動に対し、土木学会としての立場から各業種を公平に分析し、情報提供する場を設ける。就活担当者を選任し各学校を訪問する、大規模セミナーを開催する等。
- ・その際に、今後の土木学会の組織の活用の仕方等もアドバイスする。困った時に相談できる部署を土木学会に設置する。
- ・土木離れを防ぐため、イメージアップ広報を行う。女性技術者の幅広い採用。
- ・若手会員の会費を安くし、まずは会員を増やすことに重点を置く。現状、直接的なメリットに対し会費が割高で、会費ありきのイメージが先行し入会に二の足を踏む。会員になる価値を見いだせれば、年次が上がり会費が上がっても退会しないかと思えます。
- ・土木学会の組織に若手部門を作り、若手のみの活動の場も作る。運営側も若手が担当し、土木学会を身近にする。
- ・支部ごとの若手会の開催。参加費負担を軽減し、社用として参加できる環境を作る。営業というより、官民学から幹事を募り交流の場が作れば、参加した若手も価値を見いだせる。
- ・資格試験対策等、直近に役に立つ情報を提供する。書籍、講義（サテライト含む）等を土木学会会員価格（会費を別に払っているため）で購入できるようにする。合格者の声や、質問、対策等を記載できるページを開設する。
- ・技術を調べることができるデータベースを整理し、キーワード（工法、発注者、施工者等）で簡単に検索できるシステムを構築する。

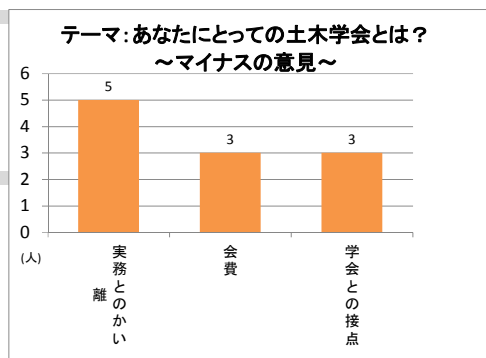
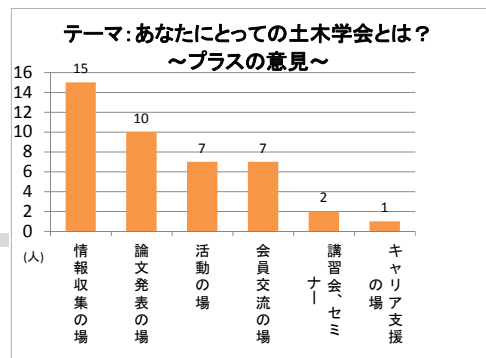
016土木学会が与えるメリット 投稿者：建設業1年目メール

学会等に参加できない方にとってはただ年会費を納入するだけになってしまっていると感じます。参加できない方のためにも学会誌を充実させる必要があると思います。例えば、各社や大学が現在取り組んでいることを紹介できる範囲内で紹介することや研究論文を多数掲載すること、部門別に講座等を学会誌を通して行う等の工夫が必要である。

017知識を得られる場所 投稿者：大学の研究員二年目(29歳)

まず、学会員であったことがある人は、学会の存在、大まかな活動内容を知っているので、"土木学会で何か知識が得られるかも"という機会に出くわした時に、土木学会の入り口に再度戻れるというメリットがあると思います。よって、土木学会はその存在、活動などをHP, facebookなどで紹介し続けることで、"知識を得たくなったら帰っておいで"という安心感を元会員に提供できていると思います。学会のプログラム、論文のタイトル一覧などはweb上で閲覧できますし、必要があれば再度入会することも容易いと思います。

Q1 私にとって土木学会とは								
No	投稿者	職種	年代	マイナスの意見	プラスの意見	キーワード	タイトル	内容
1	k				情報収集の場			様々な情報取得の場。土木技術者として、入会必須な環境。
2	入社7年目 (鹿島建設)	建設業	7年目		情報収集の場	土木学会誌	あなたにとって土木学会とは？	「身近にあるが代しいと深くかかわらない存在」というのが本音です。業務の異動時期などゆとりのあるときには、「土木の今のトレンド」意味で、土木学会誌を読んでいます。
3	入社6年目 (鹿島建設)	建設業	6年目	実務とのかい離 実務とのかい離				ほぼ毎週読んで、学会自体は遠い存在です。 現場勤務で土木学会誌は遠い存在です。 もっと現場業務に即した内容でも色々な現場があり正直難しいとは思いますが…というより、現場にいない人間が「さすが土木学会が良かった」といふ風に思われるくらいです。
4	Kodok				情報収集の場		私にとっての土木学会！？	土木学会もそれほど悪くありません。
5	kjm08				論文発表の場	土木学会誌		論文発表の場。個人としては、それ以上の価値が見いだせない。
6	28歳 建設業	建設業	28歳		情報収集の場		私にとっての土木学会	学会誌から有益情報を得られることがあるが、執筆している方は若手とかけ離れた立場が多いため、抵抗もある。
7	鹿島	建設業		実務とのかい離	論文発表の場	土木学会誌	あなたにとって土木学会とは？	土木技術者としての必要な知識や見聞を得る場 特に学会誌だが、土木といっても幅広いジャンル(立場や工程)があるので、例えば月ごとに、発注者(国・民間)、施工者(ゼネコン)まで、コンサル等にフォーカスした内容にしたり、工種に絞った内容にすれば、個人的には興味は湧くし、土木を知らない人や志すにも有益な情報源になるのでは？
8	建設業10年次	建設業	10年次		活動の場		A1, A2	Q1: あなたにとって土木学会とは？ ・工事・設計の現場をつくる場 ・研究発表の場
9	建設業11年目	建設業	11年目	実務とのかい離	情報収集の場	土木学会誌		Q2: イベント参加できない人・社会人にとっての土木学会のメリット ・月刊誌を読むこと、だけになっているには費用が高い ・メリット、というが通達による加入ノルマ、
10	土木屋11年目	土木屋	11年目	実務とのかい離	論文発表の場			現場にいない人にとっては、土木学会誌を送付してくれる機関」といった感じ。
11	OKUSANN				情報収集の場	土木学会誌	あなたにとって土木学会とは？	現場だとそうずね、大規模プロジェクトを担当している時期は土木学会賞や論文発表で接点がありましたが、バリアフリー等小規模になる時期は学会誌と請求書を買うだけの、全くの受け身でした。
12	土木屋	土木屋			論文発表の場			普段、学術的な仕事をしていないので、研究したり、論文を書いたりしたいよな…というモチベーションを維持するための団体であり、ツールとして活用させていただいています！
13	ゼネコン4年	ゼネコン	4年目		会員交流の場		土木学会とは	大規模現場が終わると学会へ投稿したり、発表する機会を得ることがあるが、普段はなかなか学会誌以外で接する機会はない。学術土木を学ぶ場」でしょうか？
14	土木屋39年目	土木屋	39年目		活動の場			あとは学生時代のほうがお世話になっていたので、「土木界の変化のバロメーター」といったところでしょうか？ http://matome.naver.jp/odai/2142339754288186701
15	建設業10年目	建設業	10年目		論文発表の場	土木学会誌		土木技術者の集いの場。そこでコミュニティや学会、論文を通して技術を発信し、知識を得て、議論をし、進化していける場所である企業を離れ、一個人として活動できる場。
16	コンサルタント21年目	コンサルタント	21年目		論文発表の場		自己研鑽のための有効なツール	多様な人と出会い、経路に議論できる場。
17	藤田 俊英	コンサルタント委員会BC研究小委員会委員長	66歳		活動の場	土木学会とは		本社部門にいるときは、学会発表や講習会、委員会に参加する機会もたまにあるが、現場にいたときは、学会誌が送られてくる(けい)だけだ。
18	ゼネコン40代	ゼネコン	40代		会員交流の場	土木技術者集団		どちらによ、会社からの呼びかけもあり「とりあえず入会している」という感じで、12,000円分のメリットはあまり感じません。
19	大学の研究員二年目(29歳)	大学の研究員	29歳	学会との接点	論文発表の場	学会		論文の発表 委員会への参加などを通じた自己研鑽の有効なツールではないかと考えています。
20	コンサル40代	コンサル	40代		活動の場			「学」を共通の目的として、産官学が集える場所を提供してくれる組織 本学会の論文誌に論文が掲載されると、大学の土木科の先生から研究者として認識される
21	鹿島建設森口智聡	建設業			情報収集の場		関係の構築は本人次第	土木技術者の自己(アイデンティティ)が確認できること 何にでも共通して言えるが、どんな素晴らしい組織やシステムであっても、それを活用するかどうかは本人次第だと思います。
22	建設業1年目	建設業	1年目		論文発表の場	土木学会誌	情報収集の場	土木関係者にとって、最大規模であり最高の権威を持っている組織である事実は間違いない、年代や業種を超えた方々と交流でき、から過去のものまで幅広い知識を得ることがある場でもあると思います。
23	コンサル20代	コンサル	20代		活動の場			土木に関係する全ての人にとって、常時絶対必要であり常時利益享受できるもの(それは不可能だから)ではないとは思いますが、が、業界上あまり必要でない時には迷く関わる等、自分の現状に合った活用が出来れば良いと思っています。
24	建設コンサル32歳男	建設コンサル	32歳	学会との接点	論文発表の場		私にとっての土木学会	土木学会は、一朝一夕で組織できるものではなく、継続と歴史があってこそ規模と権威が維持できると考えるため、土木業界に携わった状況がある以上、その活動にある程度の協力が必要であると思います。
25	20代 ゼネコン	ゼネコン	20代		論文発表の場			会員がやや高いというような感想等もありますが、学会運営への意見はQ2で記載します。
26	ゼネコン21年目	ゼネコン	21年目		論文発表の場			土木学会は建設業界で働く方にとっての情報収集の場であると考えます。情報収集の場は学会への参加や学会誌等、人により異なり、他社の動向や取り組みを知る良い機会であると考えます。
27	土木屋11年目	土木屋	11年目		論文発表の場			しかし、学会に参加できない方にとっては少し物足りない部分もあると感じます。学会誌にもっと多数の土木に関する情報や論文を」と感じます。
28	ゼネコン21年目	ゼネコン	21年目		論文発表の場			個人的にはこれまでに関わったことがないので遠い存在ですが、技術者のコミュニティ・情報収集の場になっているというイメージです
29	ゼネコン5年目	ゼネコン	5年目		論文発表の場	土木学会誌		大学時代は土木学会で開催されるセミナーや講演会に多く参加させてもらい、とても勉強になったのを見ています。また、土木誌i表も非常に勉強しましたがよい経験になったと思っています。ただ、社会人になってからは興味を惹かれる講演会などがあったてもなことが難しく参加できておりません。土木学会はいろいろな方と交流でき、勉強するのには素晴らしい場だと思っていますので、時間に参加していければと思います。



マイナスの意見	回答数	割合
実務とのかい離	5	17.2%
会費	3	10.3%
学会との接点	3	10.3%

プラスの意見	回答数	割合
情報収集の場	15	51.7%
論文発表の場	10	34.5%
活動の場	7	24.1%
会員交流の場	7	24.1%
講習会、セミナー	2	6.9%
キャリア支援の場	1	3.4%

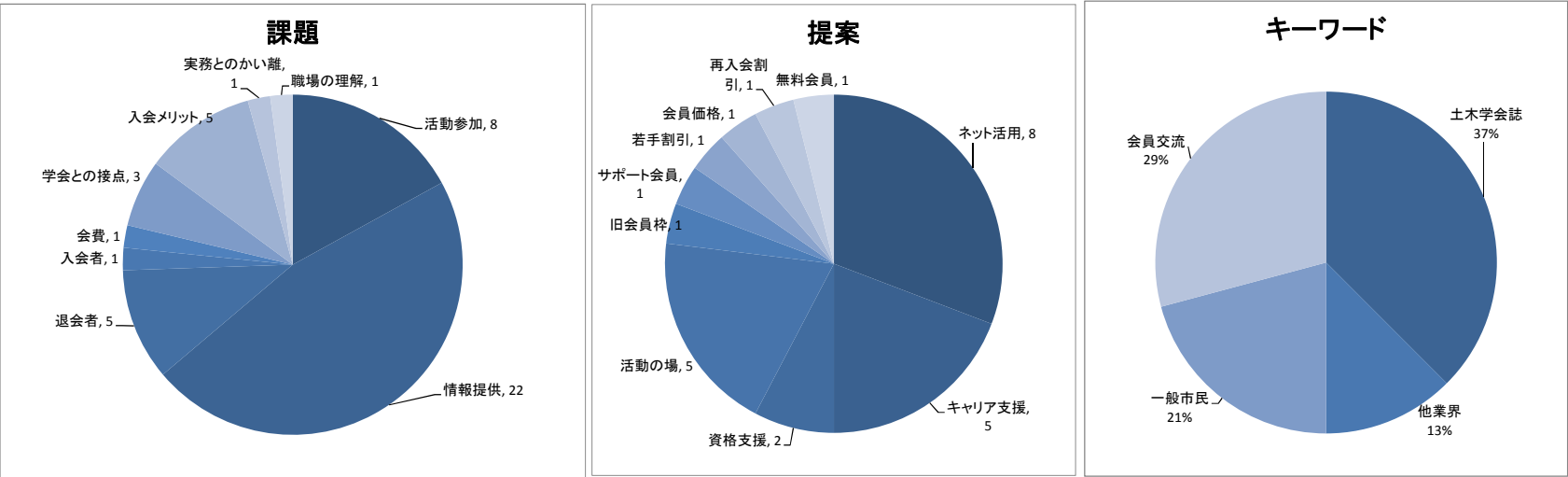
キーワード	回答数	割合
土木学会誌	9	31.0%
他業界	0	0.0%
一般市民	0	0.0%
会員交流	0	0.0%

Q2									
No	投稿者	職種	年代	課題	提案	キーワード	タイトル	内容	
1	入社7年目（鹿島建設）	建設業	7年目	活動参加 情報提供 退会者	まとめ作成 まとめ作成 旧会員枠	土木学会誌 土木学会誌		イベントに参加できない会員に対して、イベントの内容の要約版を土木学会誌の序盤のページに掲載するなど、短時間で要点だけ把握できるコンテンツがほしいです。 土木学会誌自身も、仕事が繁忙時期には目を通せない中で、トピック・要点だけでも1ページにまとまっているページがあってもいいと思います。 就職を機に退会する人に対しては、イベント参加時に「旧会員」という枠をつくって、何かメリットをつけることができるかもしれません（例えば、イベント参加費が割り引かれるなど）。	
2	28歳 建設業	建設業	28歳	情報提供 学会との接点	ネット活用			本部・支部のイベントに参加できない会員に対しては、それらの内容をFACEBOOKに投稿したり、動画配信したりすることによって、学会がより身近な存在だと感じられる場を提供できる。 就職を機に退会する人のほとんどは、土木系以外の会社に就職し、今後、土木との関わりはないものと考えている。 一方で、昨今の土木業界には、インフラの維持管理をはじめ、他業種（電機や食品など）の企業が勢力的に参入・研究開発を実施している。 また、土木工事ひとつとっても、発注者や金融機関とお金の流れなどは、いまいよくわからないし、興味深いものだと思う。 以上のように、土木と他業種との関わりについて、土木学会誌やセミナーなどでわかりやすく（面白く）紹介していくことによって、土木学会や土木を魅力的で身近な学会だと感じさせることができるのではないかな？	
3	nk			学会との接点 学会との接点 情報提供 情報提供 情報提供		全国大会 土木学会誌 土木学会誌 土木学会誌 土木学会誌		自分も本部や支部のイベントにほとんど参加せず、関わるのは全国大会のみです。 そうなると普段、土木学会と触れ合うのは学会誌のみになります。 この学会誌の内容は文章がとてもしんどく、非常に読みづらく感じています。 毎回、学会誌の内容を読破している会員はまわりにはほとんどおりません。逆に日経コンストラクションなどは読みやすいせいか、よく読まれています。 学会誌が読みやすくなれば、それを手に取る会員が増え、土木学会から発信される情報がより伝わりやすくなり、会員のメリットも増え、ひいては就職を機に退会する人も減るのではと考えます。	
4	鹿島	建設業		退会者 情報提供 情報提供		一般市民 一般市民 一般市民		「就職を機に退会する人」とは、言い換えると「業務上、土木学会の発信する情報が不要である、あるいはその情報に興味がない人」ということだと思う。 こういった人たちが興味を持つ情報を発信することが必要で、それは即ち、土木関係ではない一般の方たちも興味を持ち身近に感じる「土木」を発信・提供することに繋がると思う。 一般の方が土木に触れ、興味を持つ情報や機会を提供する場を増やし、次に、その場において、一般の方に対して会員・元会員にメリットを付与する、というステップで考えてはどうだろうか。 土木技術者自身が土木学会からの情報に魅力を感じない一方で、一般の方が大人の社会見学として土木に関心を持ってくださるのは嬉しいですよね。	
5	土木屋11年目		11年目		イベント			手持ちとしては、子連れ見学会を増やしてほしいです。安全に関する懸念もあると思いますが、土木の英才教育を是非！ 私は、土木学会誌は知り合いが載っている時だけ読んでいます。その点で100周年の様々な方からの一言コメントは良かったですよね。（コメント者の所属先が限定されてはいましたが…）	
6	土木屋11年目		11年目	情報提供 情報提供	ネット活用 ネット活用	土木学会誌		学会誌だけでなく、ネット環境を活用して裾野を広く気軽に情報交換できる場があるといいと思います。	
7	kjm08			活動参加 入会メリット	ネット活用			イベントに参加できない会員に対しては、インターネットによるライブ配信をしたらどうか。 私も会社からの要請がなければ、学会に再入会してはいなかったと思う。	
8	土木屋			実務とのかい離 情報提供 情報提供 情報提供 情報提供 情報提供	ネット活用			言い換えれば、日々の業務と学会活動(学会誌)とは依然として距離があると感じる。 学会が日経コンストラクションになる訳にもいかないと思うので、インターネットを活用して土木を世に広める活動を行っていただきたい。 土木が世間に浸透することで、土木学会員として土木のコアにいるものにとっても旨味が増すと思う。 他方、久しぶりに学会誌に目を通してみると、懐かしい顔ぶれが投稿などしていて、昔なじみの方の活躍は励みになる。	
10	土木屋39年目		39年目	情報提供 情報提供	ネット活用 ネット活用	会員交流		講演・様々な情報などをインターネット配信 HP上の「なんでも相談室」の整備・充実 学生向けロールモデルの提示	
11	建設業10年目	建設業	10年目	入会メリット 資格支援 入会者 退会者	ネット活用 キャリア支援 サポート会員			NPOなど地域に根差した団体への支援など、学会がやるべきことを拡充していけば、学生会員や土木OBにもメリットが実感できるのではないかな。 技術士やコンクリート技士などの資格に関する講義のweb配信などがあれば、イベントなどに参加できない会員でもメリットを感じられるのでは。（その分、講義をする人へのインセンティブが必要ではあ	
12	ンサルタント21年	コンサル タント	21年目			論文投稿 会員交流		他業界に移る人は学会費を半額にして「サポート会員」のような立場にするなどで継続してもらい、異業種交流で人脈や知識の幅を広げられるような試みがあれば良いと思う。 以前は、いつでも論文を投稿できるように、また、海外滞在が長かったこともあって、学会誌などを通じて日本の土木界の情報入手を目的として、学生会員を続けていました。 しかし、委員会活動などに参加するようになった今は、産官学の専門が異なる分野の方々と交流でき、視野を広げることができることこそ、土木学会のメリットではないかと考えています。	
13	藤田 俊英			活動参加 情報提供				ただし、現状では、こういった機会が会員全てに与えられていない訳ではないと感じています。 現在はメリットと云うより土木学会は本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に情報発信する手段を持ってません。よね。	
14	k			情報提供				土木の最新技術を伝えること。これまでの技術、成果を伝えること。 土木学会の会員が積極的に活動することで、積極的に活動できない会員や、もともと会員だった土木技術者も、土木という分野の有用性や社会への貢献度合いを間接的に知ることができる(といいなと思います。)	
15	ゼネコン40代	建設業	40代	活動参加 入会メリット				土木学会で活動する会員がそれぞれ会員であることを誇りに思っていて活動できている、おのずと周囲に認められ、間接的なメリットも増えてくるのではないかな、と思います。 土木学会に求めるものは、人それぞれ異なると思います。	
16	島建設 森口智聡	建設業		活動参加 活動参加 活動参加 キャリア支援 キャリア支援 若手会員 会費 入会メリット		一般市民		イベントへ参加し技術者同士の交流の場として活用する方も多いと思いますが、学生や若手にとっては営業活動や交流は自分の現状の業務に直接に影響しないため、費用や時間を掛けてイベントに参加したいという人は少ないと思います。 そのため、業務を抜けてイベントに参加するという環境も整っていない状況かと思います。 もちろん、若いうちからそういう意識の高い人はイベントにも積極的に参加すれば良いと思いますが、大半の若手にとっては、会費が高い割に直接的なメリットを感じる事が少なく、またとっつきにくい印象が大きいのではないかなと思います。 学生の就職活動に対し、土木学会としての立場から各業種を公平に分析し、情報提供する場を設ける。就活担当者を選任し各学校を訪問する、大規模セミナーを開催する等。 その際に、今後の土木学会の組織の活用の仕方等もアドバイスする。困った時に相談できる部署を土木学会に設置する。 土木離れを防ぐため、イメージアップ広報を行う。女性技術者の幅広い採用。 若手会員の会費を安くし、まずは会員を増やすことに重点を置く。 現状、直接的なメリットに対し会費が割高で、会費ありきのイメージが先行し入会に二の足を踏む。 会員になる価値を見いだせば、年次が上がり会費が上がっても退会しないかと思っています。 土木学会の組織に若手部門を作り、若手のみの活動の場も作る。 運営側も若手が担当し、土木学会を 身近にする。 支部ごとの若手会の開催。 参加費負担を軽減し、社用として参加できる環境を作る。 営業というより、官民学から幹事を募り交流の場が作れば、参加した若手も価値を見いだせる。	
17	建設業1年目	建設業	1年目	活動参加 情報提供 情報提供		会員交流 土木学会誌		資格試験対策等、直前に役に立つ情報を提供する。 書籍、講義(サテライト含む)等を土木学会会員価格(会費を別に払っているため)で購入できるようにする。 合格者の声や、質問、対策等を記載できるページを開設する。 技術を調べることができるデータベースを整理し、キーワード(工法、発注者、施工者等)で簡単に検索できるシステムを構築する。 学会等に参加できない方にとってはただ年会費を納入するだけになってしまっていると感じます。	
18	大学研究員2年目(29歳)	大学	2年目	情報提供 情報提供 情報提供		学会HP facebook		参加できない方のためにも学会誌を充実させる必要があると思います。 例えば、各社や大学が現在取り組んでいることを紹介できる範囲内で紹介することや研究論文を多数掲載すること、部門別に講座等を学会誌を通して行う等の工夫が必要である。 まず、学会員であったことがある人は、学会の存在、大まかな活動内容を知っている中で、“土木学会で何か知識が得られるかも”という機会に出くわした時に、土木学会の入り口に再度戻れるというメリットがあると思います。 よって、土木学会はその存在、活動などをHP、facebookなどで紹介し続けることで、“知識を得たくなったら帰っておいで”という安心感を元会員に提供できていると思います。 学会のプログラム、論文のタイトル一覧などはweb上で閲覧できますし、必要があれば再度入会することも容易いと思います。	
19	20代ゼネコン	建設業	20代	退会者	再入会割引			(1)本部・支部に参加できない会員:facebookで気軽に活動を知ることができる。 (2)退会する会員へ:現段階ではメリットが思い浮かばない。そこで、再加入する場合に会員登録費を割引できるようにしてはどうかなと思う。	
20	建設コンサル32歳	コンサル	32歳	退会者	キャリア支援 無料会員			近年、プロポーザルではCPD要件が追加されることが多くなってきました。そのため、講演会等を録画して後日会員専用ページで閲覧するとCPD登録ができるなど、Webラーニング等の充実してほしいです。 退会者をつなぎとめるという意味では、無料会員は一つの方法ではないかと思っています。	
21	ゼネコン5年目	建設業	5年目					学会から与えるサービスは、通常の有料会員と差をつけるなどの対応が必要かと思いますが	

課題	
活動参加	8
情報提供	22
退会者	5
入会者	1
会費	1
学会との接点	3
入会メリット	5
実務とのかい離	1
職場の理解	1

提案	
ネット活用	8
キャリア支援	5
資格支援	2
活動の場	5
旧会員枠	1
サポート会員	1
若手割引	1
会員価格	1
再入会割引	1
無料会員	1

キーワード	
土木学会誌	9
他業界	3
一般市民	5
会員交流	7

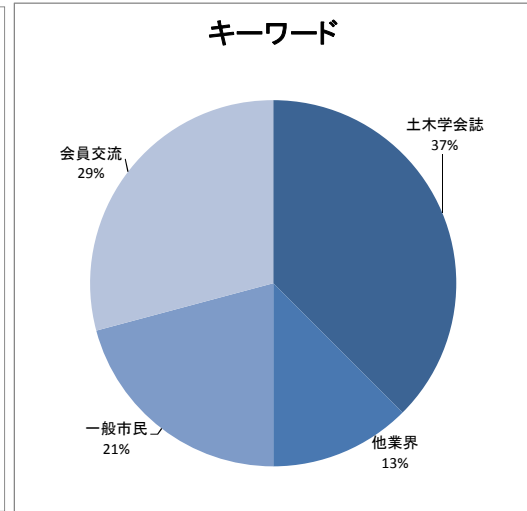
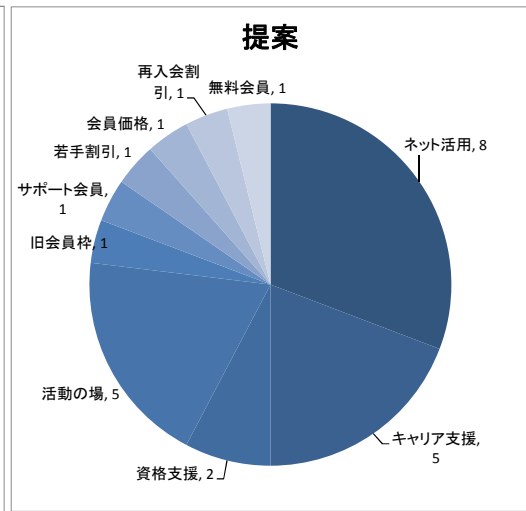
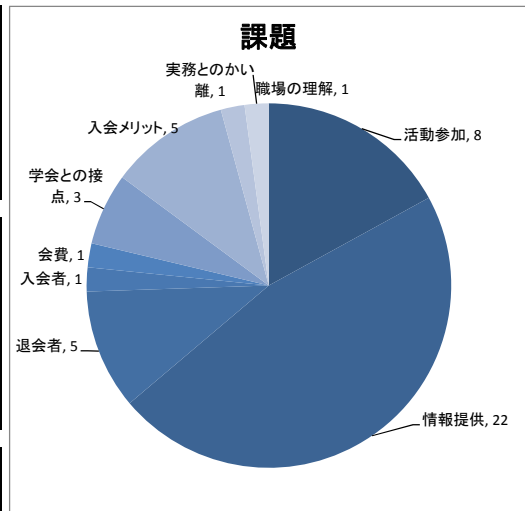


Q2[illegible]

課題	
活動参加	8
情報提供	22
退会者	5
入会者	1
会費	1
学会との接点	3
入会メリット	5
実務とのかい離	
職場の理解	1

提案	
ネット活用	8
キャリア支援	5
資格支援	2
活動の場	5
旧会員枠	1
サボート会員	1
若手割引	1
会員価格	1
再入会割引	1
無料会員	1

キーワード	
土木学会誌	9
他業界	3
一般市民	5
会員交流	7



土木学会全国大会 研究討論会【研 03】

「若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進」の展望

- 日 時 平成 27 年 9 月 16 日（水）14:40－16:40
- 会 場 岡山大学 一般教育棟 ABC 等研 03, A32 講義室（VI－6 会場）
- 企 画 企画委員会 若手会員パワーアップ小委員会
- 座 長 中村光（名古屋大学大学院工学研究科教授）
- テーマ 「あなたにとって土木学会とは？」
「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して、土木学会が与えられるメリットは？」

プログラム

1. 小委員会の活動方針 橋本麻未（鹿島建設株式会社）
 - －若手会員パワーアップ小委員会とは
 - －土木学会員であることの価値
2. 支部活動の報告
 - －北海道支部「Visit 事業」 中山直智（日本工営株式会社）
 - －西部支部「ツタエルドボク Café」 杉田幸浩（西日本高速道路株式会社）
3. 他学会の取組 山口敦（東京大学大学院）
 - －風工学と風力エネルギー分野における若手の取り組み
4. 海外学会の取組 櫻庭浩樹（国立研究開発法人土木研究所）
 - －ASCE（American Society of Civil Engineers）の取組例
5. パネルディスカッション
 - －「あなたにとっての土木学会は？」
 - －「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して、土木学会が与えられるメリットは？」をテーマに

登壇者：1.～4.発表者

廣瀬典昭土木学会会長、阪田憲次岡山大学名誉教授（元土木学会会長）にも
会場にお越しいただく予定です！

事前及び討論会中に掲示板・Twitter によるご意見を募集します！！

Q1 「あなたにとっての土木学会は？」

Q2 「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して、土木学会が与えられるメリットは？」

会員・非会員・年齢問いません。詳しくはこちらをご覧ください↓

<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/5>

以上

<議事録>

中村企画幹事長による挨拶

プログラムの流れ

資料確認

若手会員パワーアップ小委員会の設立の経緯

パネルディスカッションにて会場との関連な討議を

JECE2015 について

顧客の再定義

討論中に意見収集

「あなたにとっての土木学会は？」

「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して、
土木学会が与えられるメリットは？」

Tweeter や掲示板等、オンラインにて意見を挙げる

1. 小委員会の活動方針（橋本委員長）

小委員会の目的

100 周年記念事業「若手土木技術者の交流サロン」の継続・延長

さまざまな組織・主体から委員が参加

土木学会会員の特典（**JSCE** ホームページより）

これらの項目が本当に達成できているのか？

学会に積極的に参加できない人にとってどうなのか？

活性化のために必要なこと

関係者の分類，会員と非会員，①から④の分類

非会員や，参加されない人たち

何らかの形で関係をしている人たち

2. 支部活動の取組

北海道支部の取組紹介（中山委員）

発表の経緯

学会の意義とは？

発表の場以外の価値を与えていることを示す

「**VISIT** 事業」とは

学生の職場訪問・見学会

少人数の学生で実施・見学会の後懇親会開催

通常の見学会より，密な関係を築ける

非会員の学生も参加可能

事業の目的

就職活動・進路決定への貢献

学生会員の会員継続

学生に実施したアンケートを根拠に

入会に対するメリットを整備できるように事業を立ち上げた

実施概要説明

平成 20 年から 27 年までの訪問先

多くは工事現場など

「正会員と学生会員が一体となって実施」していることが特徴

学生広報委員による広報活動など

実施のメリット

企業の PR 効果：イメージアップに繋がる

優秀な人材の発掘：どのような学生が希望しているかを明らかに

専門課程の科目サポート

学生の就業館・就労意識の形成・向上

事業の課題

授業との兼ね合い

金銭的・時間的負担の軽減

ニーズをくみ取るなどの+αで会員増強に

西部支部の取組紹介（杉田委員）

ツタエルドボク Café の紹介

山王公園地下の雨水貯留値を「地下神殿」と見立てて、子供達を対象に見学会実施

コンクリート板に乗り比べて実感、コンクリート人形を作成

50 組限定公募に 529 組の応募、報道などメディアの感度が高い

イベントを主催した、「ツタエルドボク研究分科会」

KABSE 内の分科会、産学官の土木技術者と有志者数名

子供向け以外にも、市民向け、高校生向け、市役所向けなど、様々に実施

業務多忙な年度末に、防災を意識するために実施

半年の準備を経て、様々な調整を手弁当で行う

本来業務に忙殺される委員がどうしてこのような活動ができる？

片山氏と NEXCO 西日本の若手女性技術者

ツタエルことでモチベーション向上に→活動を「楽しむ」

委員自らが企画・運営の自由度の高い活動

少人数の WG で、活躍の機会と成功体験を提供

若手に少ない社外との交流の実現

ただし、上司への理解が不可欠である

今回の内容は若手会員 PU 委員会に役立つはず！！

3. 他学会の取組

風工学会の取組紹介（山口先生）

風工学会の説明

土木・建築・気象・電気・機械学会の掛け持ちが多い

1976 年に「風工学研究会」立ち上げ、2009 年「若手スクール」開始

若手スクール

当時の会長（藤野陽三先生）の発案

懇親会・講義・見学会

社会人が主要な対象者（一部博士・修士学生有り）

2013 年の実績：東北大学流体研究所

2014 年：東京スカイツリー

2015 年：神戸大学，理化学研究所「京」

実施して良かったこと

普段交流する機会のない会員間の交流の場になった

「偉い」先生がいない場で若い会員同士で進研に議論できる場となった

「上」からのスタートであったが、「下」の自主性を生み出した

風力エネルギー分野

風力エネルギー協会から風力エネルギー学会に（2,3 年前）

民間主導で若手が活躍する業界

IEA wind 機関にて様々な活躍が

20 代，30 代が中心に活躍している

4，海外学会の取組

ASCE の取組紹介（櫻庭委員）

若手会員グループの Handbook が一番の特徴

JSCE と ASCE の共通点・相違点

地域ごとに支部組織があるのは同じ

ASCE には 130 の若手会員グループが存在する

Student Chapter は 285 もある

Younger member groups の活動実績

土木技術への親しみ，職業能力の育成，など

教育に関する奉仕活動：小中学生を対象とした土木技術紹介

シンポジウムの開催：リーダーシップ向上のシンポジウム

Student Chapter の活動促進：鋼橋のコンペやコンクリートカヌーなど

Young members Handbook について

目的，活動，計画，賞など，幅広い内容

規約の制定，役員の選出を義務づけている

活動の種類：技術，ネットワーク，実務体制維持・社会奉仕の 4 つ

年間の基本的な活動例が明示されている

Section/Branch の活動の中で，若手会員への積極的参加が奨励されている

若手会員を対象とした論文コンテストなど，賞関係も充実

体制の維持がうまくいかない場合のケース例を示して，運営の参考に役立てる

5．パネルディスカッション

コーディネーター：中村企画幹事長

パネラー：橋本委員長，中山委員，杉田委員，山口先生，櫻庭委員

中村：

まず報告を聞いての意見を

中村：

ASCE では若手が作ろうと思えば、YMG を立ち上げられる？

櫻庭：

若手同士で規約を決めて、引き継ぎなどうまく行っている

システムだけでなくネットワークが活きている

中村：

では、初めの質問へ

「あなたにとっての土木学会は？」

廣瀬会長や、阪田元会長にも聞きたいですねえ(笑)

廣瀬：

私はコンサルタントの人間、学問の人間ではない

就職して、土木学会やめようとは思わなかったが、特に何もしていない

40 歳頃になって、参加するようになった。大学の先生や役所の人と会話ができる、という点が魅力的だった。また、年をとるごとに、若い人に貢献できるように、との思いが出てきた。そのため、会費は高いとは思わない。若い人が闊達に自分で将来を考えて活動することを奨励したい。明日の基調講演で「どう若手を育てるか」を話すつもり。積極性を育てるために土木学会がどう役にたつのか。

ASCE の取組がありましたが、若手を促進する部門が正式にあるのは、ヨーロッパのコンサルタント協会も同じように、積極的に取り組んでいる。JSCE はやっと最近そのようになってきた。

橋本：

この PU 委員会も、上からいわれて作ったモノ。これをきっかけに若手発の企画が出てくれば幸い。

阪田：

大学 2 年生の時に、ある日先生から土木学会に強制的に入れられた。それから止めていないため、これらを通じて考えること。聞くことは「土木学会に入って何のメリットがある？」とあるが、私はいつも「メリットがほしいなら止めて下さい」と答える。JSCE は Society。これは利益団体ではなく、成長するための Society である。会費を払うだけの値打ちはあるのか、と聞かれれば、そんな高いモノではない。お金や利益でなく、組織していることを誇りに思って、取組を進めてほしい。若手に望みたいのは、「若いから良い」ではなく、小林秀雄のいったように、「青年であるということは、環境に対する投影力が、環境に対する影響力より大きい」。皆さんがパワーアップすると同時に、組織としてパワーアップすると非常にありがたい。

中村：

フロアからも意見を。

清水：

まず一つ、土木業界内でのネットワークを得られる場。もう一つは、社会貢献を実現して活躍できる・

感じられる場，である．これを実現するにはとても時間がかかった．社会人になってから会員をやめて，8年たって，当時の会長との意見交換会に参加するために復会したのがきっかけ．このようなきっかけを作る場を我々で構築していけば．

中村：

パネルで一番若いのは，中山さん？

10年選手の意見を

中山：

学生の頃に発表の場を有効活用していたが，就職して止めて，先日復会した．現在小委員会の活動をしていて，ネットワークの構築に価値を感じている．なにかのきっかけで，こういう会に参加すると，楽しいな，って思える．

中村：

山口先生に，規模が異なると感覚も異なる？

山口：

やはり違いますね．風工学会は400人程度のため，一度の学会でみんな顔を合わせる．ほとんどの発表会を見ることができる．その場にいないと，失うことが大きい．明示的にメリットはないかもしれないが，止めていることのデメリットは大きい．それは大学にいるからかもしれないが．

中村：

西部支部ではやりたいこと，元気なことをしているようだが

杉田：

紹介した片山さんが楽しんでやっている．が，人によってはついて行くのが大変な人もいようだ．大変ではあるが，頑張った分だけ，世間に貢献できる意義を実感できる．私も出戻り組であるが，復会したからこそ，逆に理解できたことも多い．知らない，があつたから重要性を知ることができた．

中村：

フロアからはどうでしょう．好きなことで良い．

高橋：

役所の人間ですが，なかなか役所から来るのは難しい．国交省クラスなら良いでしょうが，地方自治体はなかなか困難．役所は参加費を出してくれないため，全てが自己負担で参加しないといけない．会費も参加費も高い．これではなかなか参加しようと思えない．大阪市内の土木系職員130人にきいたところ，5%しか会員ではない．産官学で連携を，という中で，地方公務員は置いて行かれている印象が．我々もできる限り参加したいが，実態として参加できないのが現状．

中村：

国土交通省の方はどうでしょう？

_____：

会員を継続しているのも上司に言われたため．発表に来たのも上司命令．しかし，来てみると面白い！様々な分野の話を聞くのは非常に興味深い．しかし，周りはほとんど入っていない．自分としても，ど

うして会員であるのかを強く発言できるとは言えない。参加したからこそわかることも多いし、この場を共有できるのは素晴らしい。

中村：

ここで田代次期会長もいらしたので、お話を聞いてもよろしいでしょうか

田代：

私は現場ばかりをやってきたため、土木学会は少し距離を感じていた。ダムが専門ですが、岩盤力学委員会で、実務的な内容をまとめていくことから土木学会に入った。やはり土木学会の一員にならなくては、と思っていった。これまでの経験は非常に役に立ったが、なにかきっかけがなければ会員を続けるのは難しい。この垣根を越えるためには、この若手が組織に入ってくる、ということが重要である。これまでは土木は男の世界であったが、これからは土木もスマートにやってはどうか。プレキャストや ICT など、新しい取組を若手中心で進めてほしい。3K な印象でなく、明るいスマートな印象を、これからの若手に構築してもらいたい。今日の会はその意味で非常に重要である。

中村：

おっしゃるとおりで、この会は委員長を女性が担っている。

橋本：

確かにその通りで、今や3K から6K とまでいわれる。風工学会は小さいメリットを活かしている。土木学会は大きいからこそ、何のメリットがあるのか。これはネットワークの広さ、懐の深さに繋がるのでは。さまざまな業界と繋がれるのがやはりメリット。

加藤（大成建設）：

私も委員会活動を続けていますが、全国大会の際の、場の提供性は大きい。大臣が来られたこともあるし、会社に閉じこもっているだけでは得られない経験を。やはり、会員を強制されている部分もあるが。私が、これから入社する若手に、土木学会に入ろうと促せれる、勧められるためにはどうしていくと良いのか。

中村：

その内容に絡めて、上司の理解が少ない、という部分もありますが。

上司といえば、廣瀬会長はいかがでしょう。

廣瀬：

会社によっても異なるでしょう。コンサルは比較的学術に近い内容をしているため、とがめることはあり得ない。ただし会社の規模などから、難しい部分もある。役所の人は難しそう。公務と学が関係していることを改めて説明するのも必要なかわからないが、これはもしかしたら我々の使命ではないのか。

中村：

ゼネコンからはいかがでしょう。

田代：

たしかに、ある種、壁が高いように感じる。自分のためにも、自分の会社だけでなく、広く人を知っていくことが重要。広がった分だけ得られるモノが多いのだが、まだまだ我々も十分ではないのだろう

か。会員をふやすには「あの人も入っている、あの人も入っている」という状況を増やすことが重要。そうした積み重ねが会員である事のメリットにつながるはずである。

中村：

「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して、土木学会が与えられるメリットは？」に移りましょう。

水谷：

私は土木学会を10年程度。ただ、少し特殊である。メインは第1部門であるが、第2部門や第5部門も参加してきた。その成果として、今回は3つも座長をしている。私がしてきたいろんな分野を見てきたのが、まさにメリット。風工学会は深い議論ができるが、土木学会ほど幅広いつながりができるのが重要。隣のドアをたたけば、新しい内容を知れる。うまく利用すると良い。

中村：

ここには会員の人も多いが、止めてから復会した人はどうでしょう。

杉田：

学生の時に、発表をしていた。ただ、研究発表以外でつながりがなかったため、やめてしまった。社内にも特定の方は会員であるし、学会で報告しているが、その逆の方もたくさんいた。支社長が支部長をするため復会したら、いろんな活動・取組をしていることを知った。例えば、土木の日のイベントでも、様々なことをしている。委員会のお願いの場合、普段なら声を掛けられない大学の先生などに声を掛けられる。これは非常に大きい。

中村：

中山さんも復会組ですね、いかがでしょう。

中山：

若い人の参加は現状では難しい部分もある。上司に理解してもらえているが、業務が忙しい現状があるため、心苦しい部分もある。今はITなど広報が比較的容易になっている部分があるため、うまく利用したら良い。

中村：

ITといえば、私News Letterの担当ですが、ホームページは受動的であるため、Twitterなど、拡散的な方が若者にはちょうど良い。ここにひとり学生がいますがいかがでしょう。

大野：

学生もそうですし、土木女子のつながりも重要。名古屋大学の土木系教室は、積極的に懇親会をしていて、女子の結束が固い。全国大会でも、このようなつながりが維持されていると、就職してからも参加する機会が増えると思う。

中村：

女性、という視点もそうですし、マイノリティの視点が大切ですね。

橋本：

女子もそうですし、地方もたくさんある。支部の活動すら遠い方も多い。実質的に遠いのか距離的に遠いのか、それぞれであるが、さまざまな方がいる。全国大会の参加者はおおよそ延べ2万人程度、ではのこりの方は来っていない？女性もそうですし、さまざまな細分化で参加を促進していくのが大事なターゲットである。

高橋：

私は自転車の小さな委員会に入っていました。そこには自転車を専門とした先生・研究者・コンサルの方がおられた。そこでは、非常に勉強になり、役に立った。土木学会は大きすぎるので、全国大会は一部だけでも満額の参加費が取られる。研究者や大学の先生はテーマが高尚すぎて、なかなか役所からはとっつきにくい。

中村：

山口先生の専門性は高いと思いますがいかがですか

山口：

確かに、何かに特化していくのもひとつである。どうすればよいのか。地域で閉じるのも一つではあるが、それもクローズドになってしまう。しかし一度会うということは重要。国際会議でも、あったことがない人と会うことは重要。一度直接会うと、それ以降はテレビ電話でもメールでも、あとは何とでもなる。

中村：

研究関連で土建ということで櫻庭さんはどうですか、ASCE も含めて

櫻庭：

ここでのキーワードは愛着であると思います。会に参加して、発表して議論して、重ねることで愛着がわく。土木学会自体は大きいので、小さなスケールで継続すると愛着がわきやすいのでは。ここに行けば彼に会える

杉田さんの上司：

杉田さんが「私が出るので来てほしい」と聞いてきました。会社の杉田君と今日の杉田君は全く異なる。話の流ちょうさがことなる。私も就職して土木学会をやめた。範囲が広すぎるため、トンネルに内容を絞ったこともあって退会した。最近に復会したのは、人材育成などには大きな学会が重要であるのではと思った。強制的なだけではなく、えさをまかないと行けないのでは、という考えもたてた。

NEXCO6 社では、学会員の数は首都高に次ぐ第2位までのびた。学会で発表することを部下に勧めるといやがる。しかし行った部下と話すと、自分の技術の高さの再認識ができた、と言っていた。子会社で技術を外に販売することをしているが、そこで発表させると商談に繋がった。土木学会に入ると、社内育成と商談につながる、という長所を私は強調したい。

中村：

ここにいる、元・現・次期学会長に話を聞いてみましょう。

阪田：

メリットは与えられるモノでなく自ら勝ち取るモノ。学会に入ることが大前提。また名大の学生が言ったようにドボジョの会はとても力を入れている。その活動がわれわれに刺激を与える。これが全体として学会が活性化する形なのでは。

廣瀬：

自分で考えて、自分で行動して、先を想像して。やる気がなければ進まない。自分で参加することが重要。これに対する支援は、今の学会はとても積極的。一方、地方にいる土木技術者についてだが、地域の価値をもって（土木遺産など）、全国大会で報告をしてもらうととても価値が出てくるのでは。常に中央を向くのではなく、自分でうまく学会を使ってほしい。

田代：

自分が土木学会長になることが土木学会の良さの一つではないか。現場を大事にする数少ない学会であり、そういった技術者が話せる場所を多く用意することが、学界全体の活性化が生まれるのでは。他の学会とは異なり、現場を持つ若手が活躍できる場を提供しつつ、外でも活躍できる人材を育てていけるのが良さであろう。積極的な若手には会費を会社が負担することも重要であるとする。

橋本：

みなさん、ありがとうございました。みなさんそれぞれ意見をお持ちであると思います。

今日は会員にとってのメリットを議論しました。しかし、非会員や社会の皆さんにも貢献、役に立つことを考えていく必要がある。メリットが何かを継続的に考えていくことが重要である。周りを巻き込んで、楽しく活動していきましょう。

アンケートを書いて、テーブルにおいていって下さい。今日の内容は **Web** で公開していますので、どんどん書き込んで下さい。

企画委員会 若手会員パワーアップ小委員会 活動方針

橋本 麻未
若手会員パワーアップ小委員会 委員長
(鹿島建設)

2015年9月16日（水） 第70回年次学術講演会（岡山）



若手会員パワーアップ・アツプ小委員会とは



小委員会の目的

100周年記念事業「若手土木技術者の交流サロン」の継続事業として、

若手土木技術者の学会活動の活性化
→**学会全体の活動の活性化**

のため、学会事業の諸策を検討，提案して
具体化を図る。

小委員会のメンバー構成

1. 執行部 (4名)
2. 支部選定委員 (7名)
3. 本部委員 (5名)

建設コンサルタント	5	JR	1
学校・学会	3	地方公共団体	1
建設業	2	協会	1
高速道路会社関係	2	官庁・独立行政法人	1

活性化のために必要なこと



「会員の特典」

1. 新しい知識の習得とネットワークづくりに役立ちます

土木学会誌、刊行物会員割引、土木図書館蔵書閲覧、全国大会・講演会などでの発表・参加、学会論文デジタルコンテンツ閲覧、海外26協定学協会行事の情報入手、委員会参加による専門家との交流、最新ニュース配信

2. 自己啓発に役立ちます

CPD（継続教育）単位の取得、土木学会賞等の表彰制度

3. 社会的信用が得られます

災害等の発生時の調査団派遣、科学的根拠と合意形成に基づいた社会基盤整備や地球温暖化の対策への提言など、白々の活動を行うことによる、土木技術者としての社会的信用の獲得

4. 充実した支部活動により身近でさまざまな特典が得られます

全国8支部独自のさまざまな情報・プログラムの提供、一般向けのプログラムを通じた地域の教育・文化活動への貢献

5. 自己啓発のための経済的負担が軽減されます

非会員と比べて年会費の約2倍の特典が得られる

本当にお得？

項目	会員	非会員	差額
会費	12,000円	0円	△12,000円
学会誌	0円	1,800円×12冊／年	21,600円
オンラインジャーナル閲覧	4,000円	閲覧不可	
全国大会参加費	10,000円	20,000円	10,000円
講習会参加費	5,000円	7,000円	2,000円
学会出版物購入	6,240円+0円	6,930円+590円	1,280円
土木図書館利用	無料	400円	400円
土木学会CPDシステム使用料 (年間)	無料	6,000円	6,000円
合計	33,240円	62,520円	29,280円

※土木学会HP「土木学会入会案内 会員の特典」より 7

活性化のために必要なこと

対象者の分類

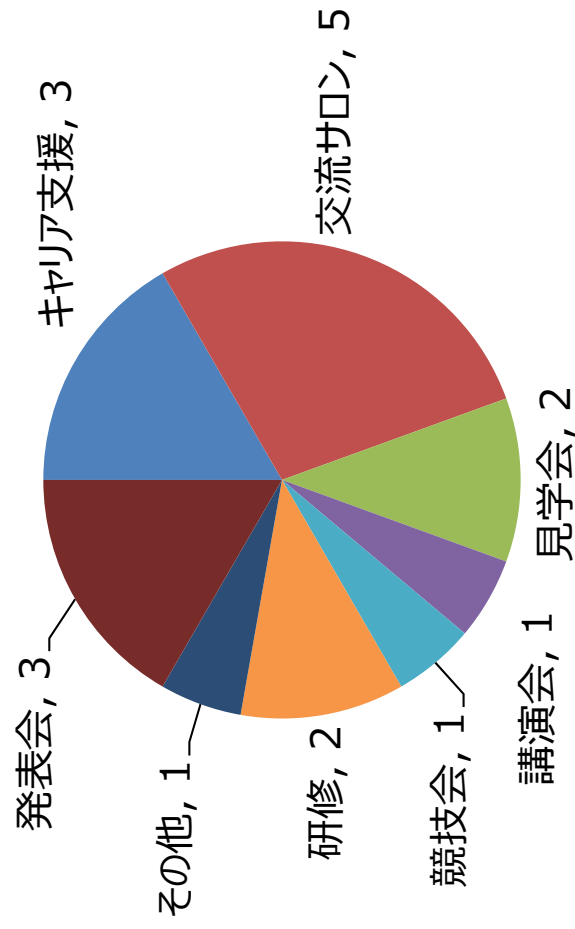
直接的 アップワ―	会員 33,675人	非会員 (現状)
	①本部・支部 のイベントに 参加可能	②本部・支部 のイベントに 参加不可能
		③就職を機に 会員を継続し ない
間接的 アップワ―	④高校生以下の子ども・オカン・高校以下の先生	

※平成27年8月末現在の会員数 8

活性化のために必要なこと

本部・支部活動の把握 ➡ **好事例の展開**

- >> ①本部・支部のイベントに参加可能
- >> ④高校生以下の子ども・オカン・高校以下の先生



(1) 若手会員対象のイベント実施状況 若手交流サロン (四国支部)

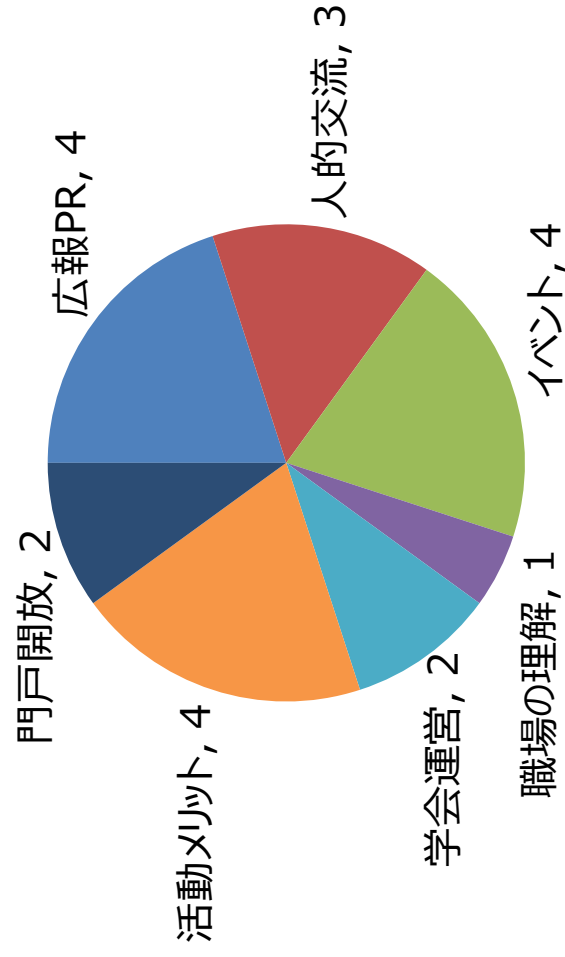
※第1回小委員会アンケート (自由回答, 回答数18件)

活性化のために必要なこと

課題・ニーズの把握 ➡ 対策案の検討・実施

>> ②本部・支部のイベントに参加不可能

>> ③就職を機に会員を継続しない



(2) 若手からの期待

(3) 活動に関する課題・問題点

※第1回小委員会アンケート（自由回答，回答数(2)20件(3)18件） 10

ご清聴ありがとうございました。

まずはここに居るみなさまに
有意義な時間を過ごしてもらえますよう
ご協力をお願いいたします！！



土木学会北海道支部の取組紹介 ～VISIT事業～

若手会員パワーアップ小委員会 北海道支部委員
中山 直智（日本工営株式会社）

0. はじめに
1. VISIT事業とは
2. VISIT事業の特徴
3. VISIT事業のメリット
4. 課題と今後の展開

0. はじめに

発表の経緯

目的

若手技術者の学会活動、学会全体の活性化を目指す



課題

学会に入会することのメリットが伝わっていないのでは？
“学会”とは発表の場があれば良いのでは？



発表

発表の場を提供する以外にも、様々な取り組みを実施
土木学会の活動を知ってもらい、学会活動のメリットを
知ってもらう

1. VISIT事業とは

VISIT事業（学生の職場訪問）の概要

- 各大学や高専の地元企業への訪問や現場見学を**少人数の学生**で実施
- 近年は、参加学生からの要望を受け、見学後**若手社会人との意見交換会**を開催
- 学生会員の活動として**土木学会北海道支部が独自に実施**
- 土木学会の事業だが、参加は非会員でも可能。

事業の目的

- 専門科目選択や就職活動、将来の進路決め、職業意識の向上に寄与
- 土木の魅力や土木学会入会メリットを知ってもらい、学生会員の増加、その後の一般会員の増加につなげる

1. VISIT事業とは

事業開始の流れ

- 学生会員増強は重点課題であるが、土木学会に対する
理解度やニーズが不明
- 北海道支部としても学生会員数が少なく増強が必要
(学生会員比率(H19)：全国2割、北海道1割)
- 平成19年度に学生会員に対してアンケートを実施

アンケートの結果・・・

1. VISIT事業とは

- 学会誌によって他部門の情報を得ることが出来て良い
(情報の入手)
- 研究発表やプレゼンの機会が多く、良い経験となった
(自己研鑽)
- 専門的な研究をしている人々と知り合う機会があって良かった
(人脈形成)

一方で

- 入会するメリットを感じられない
- 会費が高い
- 技術・知識習得・インターンシップ機会を提供してほしい



専門課程で学ぶ科目の選択サポート } が必要
就職活動のサポート



平成20年度よりVISIT事業開始

1. VISIT事業とは

平成27年度の実施概要

実施日：平成27年8月21日（金）
参加者：一般学生13名、学生広報委員6名、広報幹事3名
見学場所：望月寒川、定山溪ダム
交流会参加者：入社・入庁5年目以内を中心とした12名

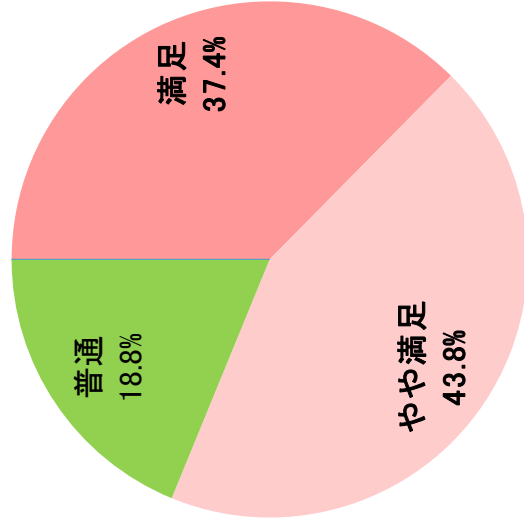


望月寒川改良工事現場

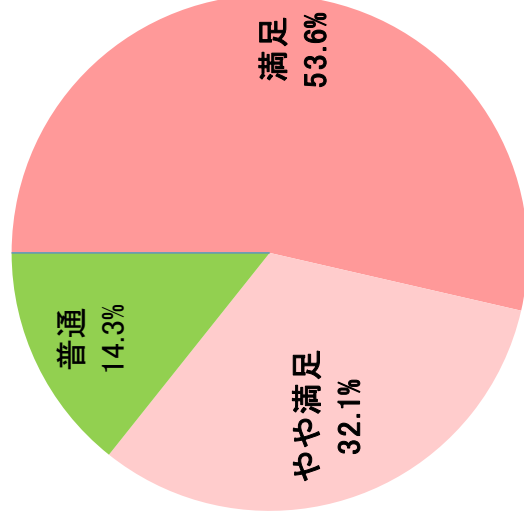


定山溪ダム

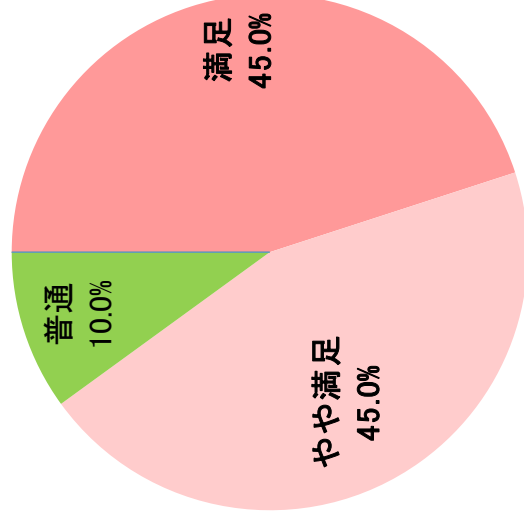
1. VISIT事業とは



▲見学会の総合評価



▲交流会の総合評価



▲VISIT事業の総合評価

1. VISIT事業とは

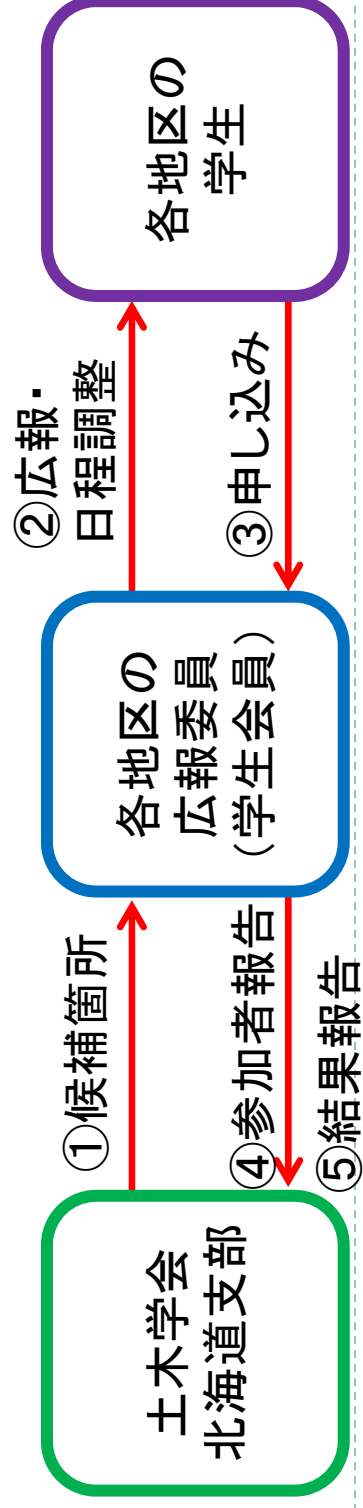
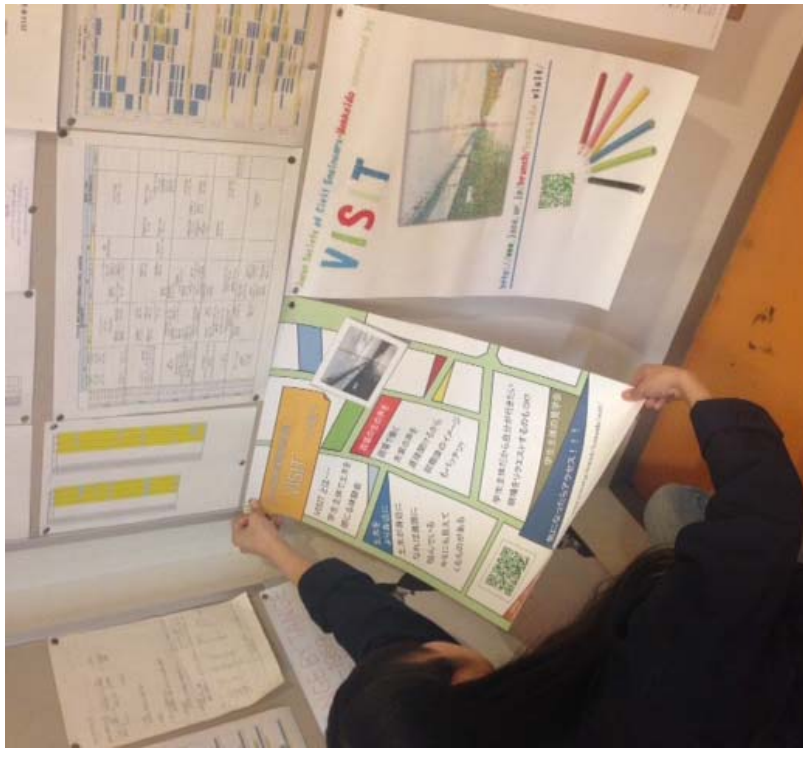
年度	訪問先
20	創成川アンダーパス連続化工事現場 札幌駅前通地下歩行空間整備事業工事現場 札幌市役所、(株)ドーコン
21	札幌駅前通地下歩行空間整備事業工事現場 札幌大橋下部工事現場 豊平川床止工事現場 独立行政法人寒地土木研究所(実験棟の見学)
22	当別ダム建設工事現場 北海道開発技術センター企業訪問 ウトナイ湖野外セミナー参加 新当別大橋(函館江差自動車道)上部工事現場 北見道路における改良工事や橋梁工事現場
23	新送毛トンネル建設工事現場 白川第3送水管新設工事現場 倶多楽湖公園線改築工事現場 北海道新幹線建設工事現場 網走港施設(帽子岩ケーソンドック)

1. VISIT事業とは

年度	訪問先
24	札幌大橋工事現場 倶多楽湖公園線改築工事現場 函館港北埠頭改修工事、函館漁港修復工事 橋梁上部工事現場(北海道横断自動車道)
25	道路交通監理室(国土交通省北海道開発局) 独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 倶多楽湖公園線改築工事現場 北海道横断自動車道工事現場、三豊橋上部工事現場
26	札幌大橋上部工事現場 新石狩大橋下部工事現場 JR北海道ボックスカルバート現場
27	望月寒川改良工事現場、定山溪ダム

2. VISIT事業の特徴

- 土木学会と学生会員が一体となって実施
- 学生会員の中から学生広報委員を選定し、広報や参加者の募集・取りまとめ、結果報告等を実施
- 委員は、参加者募集のためポスターをデザインし学内での掲示、授業や研究室でのアナウンス等を実施



3. VISIT事業のメリット

～企業側～

①企業のPR効果

- 学生は事業への応募と参加を通じて、企業の業務内容や求める人材等を把握可能。
- そのような機会を提供することは企業側の**イメージアップ**にもつながる。

②優秀な人材の発掘

- 学生が興味を持つ点や就業意欲を高める方法等が見出せば、**優秀な人材の発掘**に結びつく採用戦略が可能。

3. VISIT事業のメリット

～学生側～

- ③専門課程の科目選択サポート
 - 専門課程の科目選択において、より**明確なビジョン**が見えてくる。
- ④学生の職業観・就労意識の形成・向上
 - 実務を見学・体験することで**職業観**や**就労意識**を高めることができる。
 - 企業が求める要件と職務内容を明示し、学生と話し合いながら**現場のニーズ**にあった**意見交換**が可能。

3. VISIT事業のメリット

VISIT事業に対する参加者の意見

- 土木系の学問に取り組む意欲が高まった。
- 職業観の形成・就労意識の向上に役立った。
- 現場等で働く若手技術者の話を聞きたい(交流会の開催)。
- 交流会は、将来の進路決定や就職活動、心構え等学生に役立つ場としたい。
- 土木学会から各大学へVISIT事業等に対する協力要請を出して頂けると助かる。
- VISIT事業のHPを見るのは、やる気のある学生だけなので報告書を各学校に配布すれば広報活動になるのではないか。

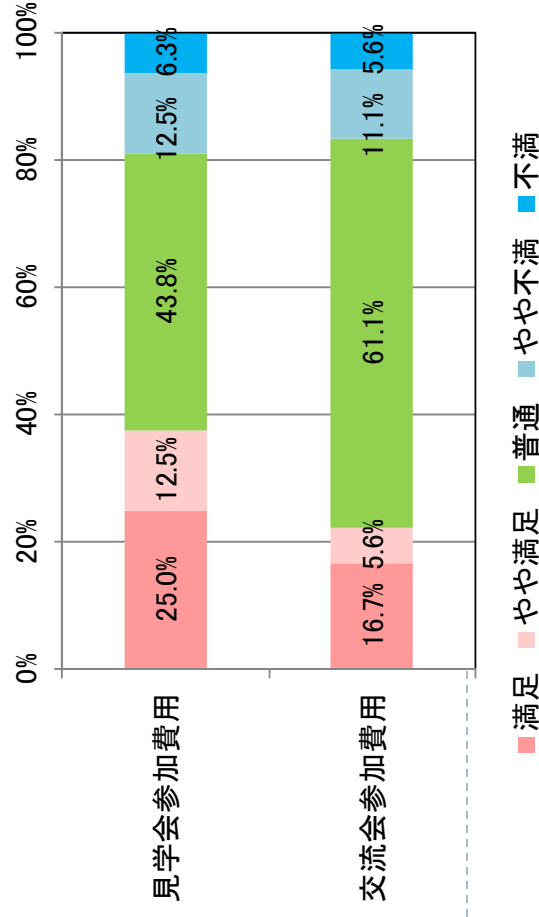
4. 課題と今後の展開

VISIT事業の課題①

- 授業優先のため、授業の多い2・3年生の参加が難しい。
- 授業のある学生は、欠席扱いとなってしまう。
- 交通費等の学生の金銭的負担
- 学校の少ない遠方の地区は学生広報委員の負担が大きい



夏休み期間中、札幌地区1箇所での開催に変更
しかし、交通費負担のため参加者が限られる



4. 課題と今後の展開

VISIT事業の課題②

- VISIT事業のみでの、会員増強は困難

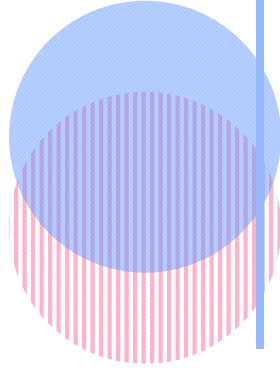


土木学会が**学生のニーズを汲み取って活動**していること、
学会発表以外にも有益な取り組みを実施していることを
広く知ってもらうことで会員増強に繋がるのではないかと

今後の展開

- 引き続き学生広報委員に企画立案してもらおう
- 今年度の社会人との交流会は好評だったので継続する

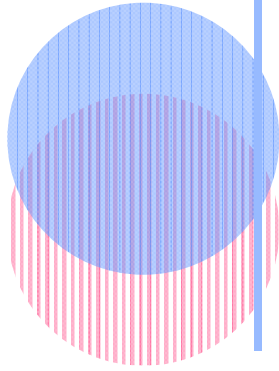
2015年9月16日(水) 平成27年度土木学会全国大会 研究討論会
「『若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進』の展望」



西部支部活動報告 ツタエルドボクCafé

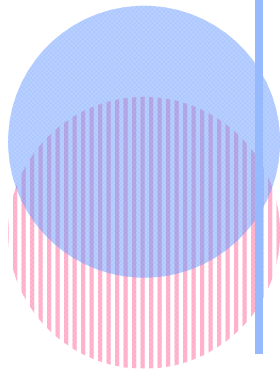
杉田 幸浩

若手会員パワーアップ小委員会 西部支部委員
(西日本高速道路(株) 九州支社)



西部支部活動報告 ツタエルドボクCafé

1. イベントの内容は？
2. 開催したのはどんな人たちか？
3. 活動の原動力は何か？



1. イベントの内容は？

潜入せよ!! 謎の地下神殿

小学生
50名
大募集!

参加無料

キミは知っているか?
山王公園に眠る地下神殿を

この神殿は、ふくおかの人々のいのちを

何度もまもっているらしい

しかし、くわしいことは、だれも知らない...

ついに、ナゾが明かされる時がきた

それを知ることができるのは、たった50名のキミたちだけ

このまちをまもりたいと思う、キミの参加を待っている!!

【開催日時】
平成27年 3月14日 日

【集合・受付】13:00～【開始】14:00【終了】16:00

※雨天の場合は、21日(土)に延期

【場 所】謎の地下神殿(福岡市博多区山王1-9)

【参加条件】小学生とその保護者 ※応募多数の場合は抽選となります。

※小学生1名につき、保護者(成人)1名必ず同伴してください。

【応募方法】公式HPの応募フォームからお申し込みください

【応募期間】平成27年2月11日(日)～2月28日(土)

【公式HP】<http://tsutaerudoboku.jimdo.com/>

【問 合 せ】092-732-3511(平日10:00～18:00)

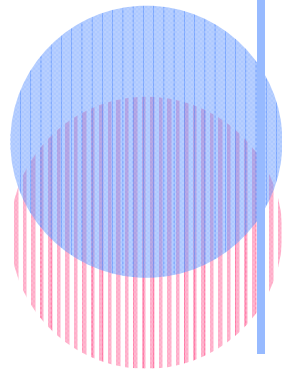
主催:公益社団法人 土木学会西部支部

共催:公益社団法人 九州建築・構造工学研究会(KABSE)

後援:福岡県・福岡市

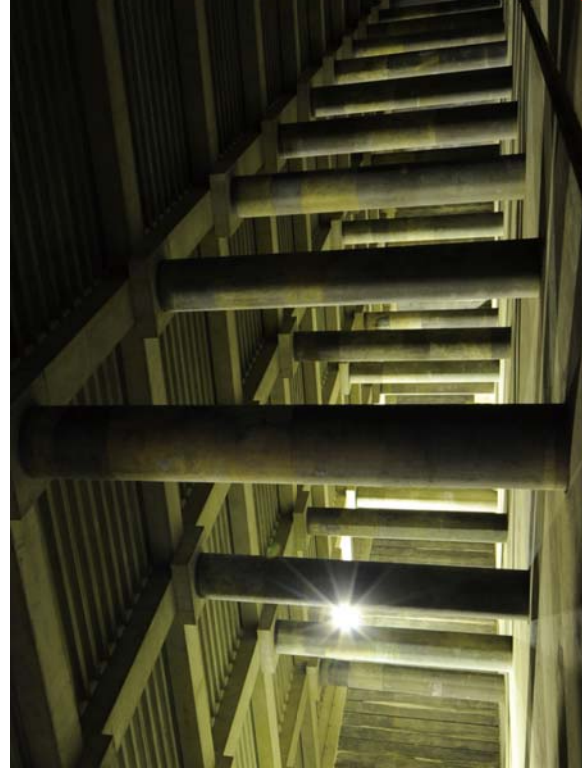
協力:KABSE ツタエルドボク研究分科会、鹿島建設株式会社、株式会社日本ビーエス、竹本湖園株式会社、株式会社特研高所技術

ツタエルドボクCafé



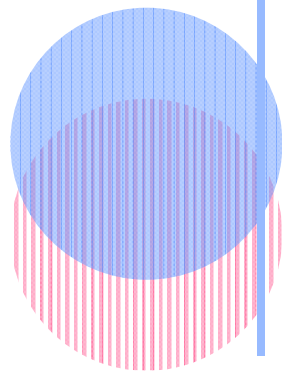
潜入せよ！ いのちをまもる謎の地下神殿

- 平成27年3月14日(土)開催
- 山王公園(福岡市博多区)の地下にある雨水調整池を「地下神殿」に見立て、神殿内で様々な体験イベントを実施
- 対象は小学生とその保護者50組、計100名



「地下神殿」の内部

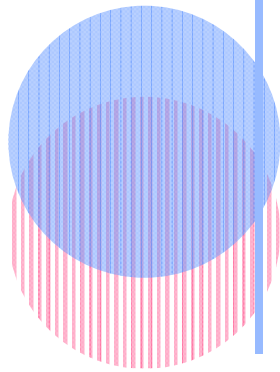




潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿 イベント実施状況①



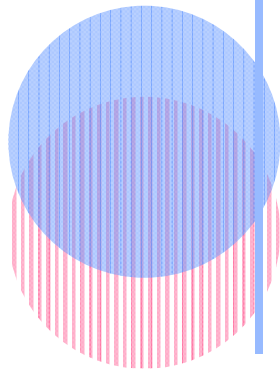
「地下神殿」への潜入
(山王2号雨水調整池の説明)



潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿 イベント実施状況②



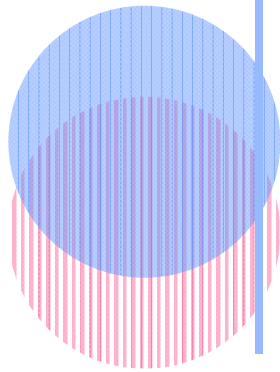
コンクリート板載荷体験
(無筋板、RC板、PC板)



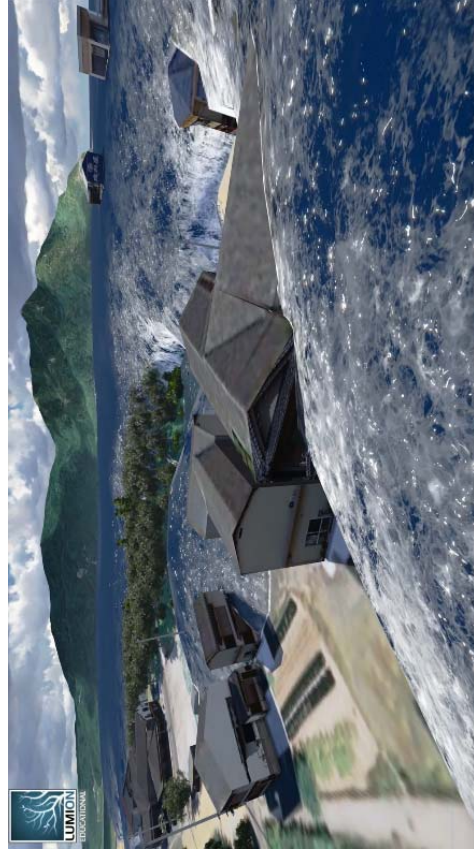
潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿 イベント実施状況③



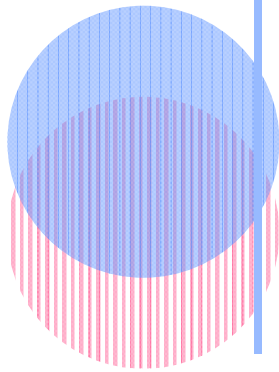
超速硬コンクリート(モルタル)による
モアイ像製作



潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿 イベント実施状況④

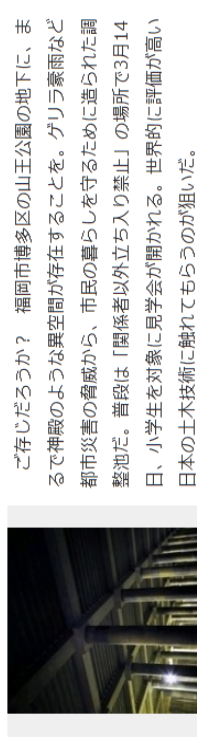


3D映像による津波シミュレーション
(福岡近郊(糸島市)の画像)

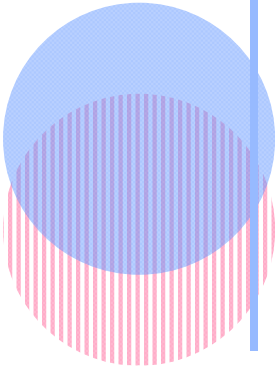


潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿 大きな反響

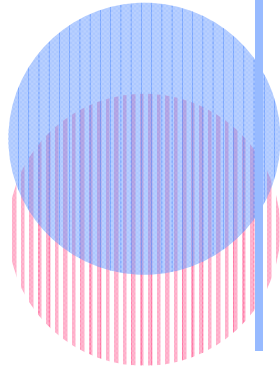
- 50組限定に**529組**の応募（応募倍率10.58倍）
- テレビ**6局**、新聞**4紙**の報道



見学会は題して「潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿」。参加者はヘッドライトを着けて地下空間を目指す。水のとき以外は空の調整池の容量は約1・5万トン。最大で25メートルプール約50杯分の雨水をためることができる。見学会では、コンクリートの強度実験などにも挑戦する。



2. 開催したのは どんな人たちか？



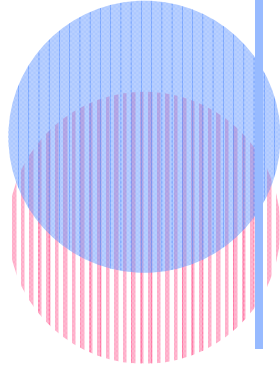
イベントを開催した人たち

- 「地下神殿」イベントは、土木学会西部支部と九州橋梁・構造工学研究会(KABSE)の共同開催

※KABSE : Kyushu Association for Bridge and Structural Engineering

主 催	:	公益社団法人 土木学会西部支部
共 催	:	一般社団法人 九州橋梁・構造工学研究会(KABSE)
後 援	:	福岡県、福岡市
協 力	:	KABSEツタエルドボク研究分科会 鹿島建設株式会社、株式会社日本ピーエス 竹本油脂株式会社、株式会社特殊高所技術

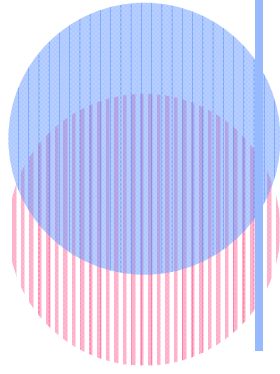
ところで、「ツタエルドボク研究分科会」って何者？



ツタエルトボク研究分科会

- KABSE内の研究分科会で、平成25年に立ち上げ
- 土木技術者が誇りを持って、市民に対しその魅力や意義を「ツタエル」きっかけを創出し、「ツタエル」術(すべ)を学ぶ
- 産官学の土木技術者31名とツタエルプロ4名で構成(当初)
 - ツタエルプロ＝新聞記者、TV制作会社、広告代理店、ソーシャルプランナー
- 分科会設置期間の2年で、7回のイベントを開催
 - 土木学会西部支部と共催した「地下神殿」以外にも、土木および土木技術者の魅力を伝える様々なイベントを開催
 - イベントは気軽に参加できるよう「Café」と命名

ツタエルトボク Café

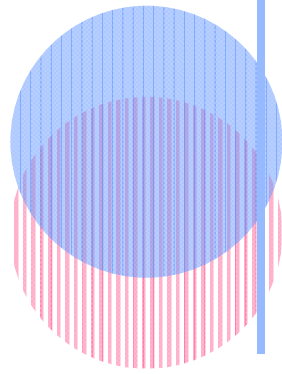


ツタエルドボクCafé (西部支部・KABSE共催)

- 「地下神殿」イベントは、土木学会西部支部とKABSEの共催
- 土木学会100周年の「支部活性化のための新規事業」として位置付けることで予算面の手当てがあり、イベント内容の充実が図れた



「地下神殿」参加者とスタッフ

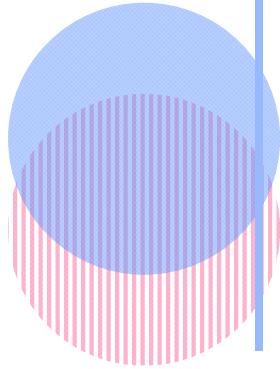


ツタエルドボクCafé (KABSE単独開催)

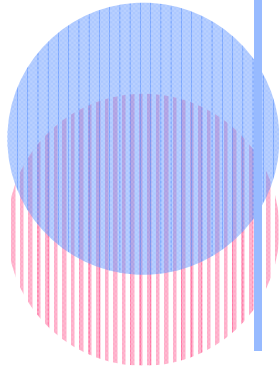
- 「地下神殿」以外にも、土木の魅力伝えるイベントを開催



- (左上) 市民向け交流イベント
- (右上) 高校生と土木技術者の対談
- (左下) 市町村職員向け点検講習会

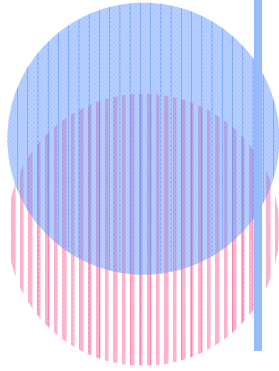


3. 活動の原動力は何か？



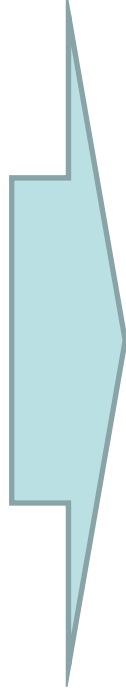
多忙な時期に手弁当で活動

- 「地下神殿」の開催は、**業務多忙な年度末**
 - 防災について考えるイベントのため、福岡県西方沖地震(H17.3.20)から10年の節目となる3月開催とした
- 準備は半年前から
 - 前年9月に地下調整池でのイベント開催決定。その後当日まで・・・
 - 複数回にわたる現地確認
 - 施設管理者との各種調整（雨天延期の判断基準、緊急時対応等）
 - 業務委託先との各種調整（PC工場、イベント会社等）
 - 報道機関への内容説明、ラジオ番組出演による情報提供
 - 3日前～前日のリハーサル
- 土木技術者及びツイッタープロは、すべて**手弁当**で活動

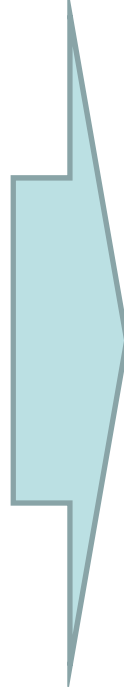


活動の原動力は何か？

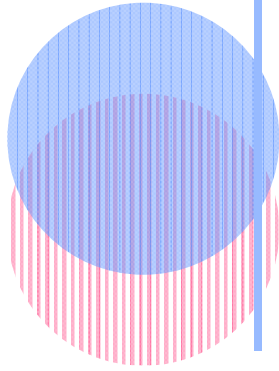
- ツタエルドボク研究分科会の主体は20代後半～40代後半。本業に忙殺される世代が、**なぜそこまで活動できるのか？**



- ツタエルドボク研究分科会の主査及び若手会員に、**分科会活動の原動力**についてヒアリング



- **今後、土木学会の若手会員および学会全体のパワーアップに結び付けられないか？**



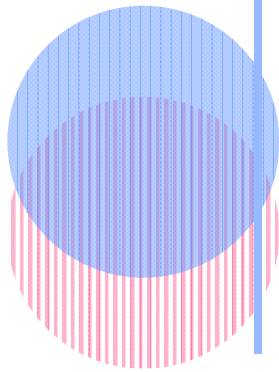
ツタエルドボク研究分科会 主査と若手会員

- 主査 : 片山 英資(かたやま えいすけ)氏
 - 福岡北九州高速道路公社 企画部 調査役(償還計画担当)
- 福岡スマートドライバー代表
- (株)オリエンタルコンサルタンツより現職



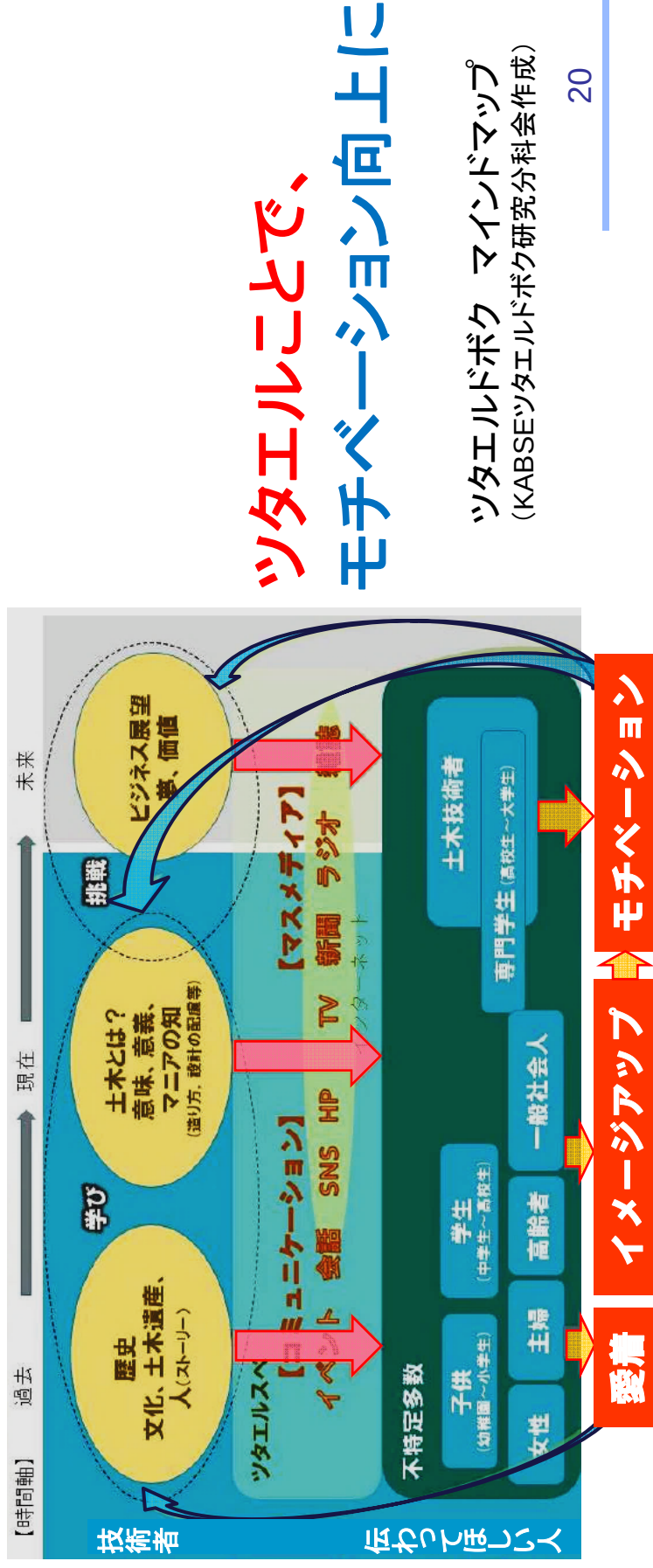
- 若手会員 : M氏
 - 西日本高速道路株式会社の新入社員(当時)
 - 土木職の女性 = ドボジョ
 - 福岡北九州高速道路公社の知り合いに勧められ参加

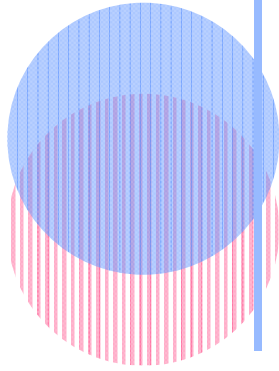




活動の原動力① モチベーション向上

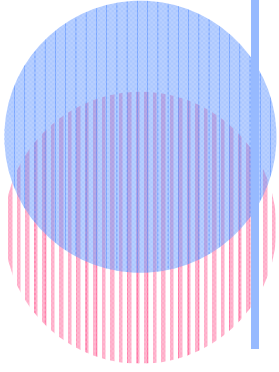
- 土木技術者が土木について「ツタエル」ことで、相手に土木への愛着を持ってもらい、土木のイメージアップにつなげる
- 土木に対する愛着・イメージアップにより、**土木技術者自身**の**モチベーションも向上**する





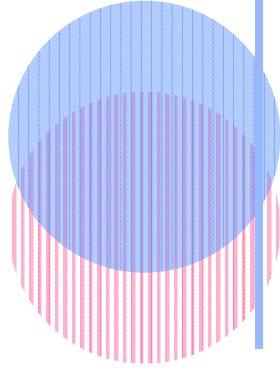
活動の原動力② 分科会活動を「楽しむ」

- 委員自らが企画・運営を行う**自由度の高い活動**
 - 本業の片手間でやる分科会活動は、効率重視で結論ありきになりがち
 - しかし、それではクリエイティビティが低下し、楽しくない
 - 本分科会では、土木について「ツタエル」イベントであれば、自由に企画・運営することが可能
- 少人数のWG活動で、**活躍の機会と成功体験**を提供
 - 分科会を5つのワーキンググループ(WG)に分割することで、各委員にWG内で活躍の機会が存在
 - WGごとにイベントを企画・運営し、他のWGメンバーがスタッフとして協力することで、多くのメンバーが成功体験を共有可能
 - 「先に実施したイベントより完成度を高めたい」というWG間の競争意識により、活動が更に活性化



活動の原動力③ 社外との交流

- 若手会員には、分科会活動での**社外との交流**自体が楽しい
 - 本業が多忙のため、社外での人脈形成が困難
 - 分科会活動に参加することで、考え方の異なる社外の方との交流が可能
- ただし、活動への参加には上司の理解が不可欠
 - 本業に直接関係しない活動のため、休暇を取得して参加する必要がある
 - 業務上、活動に合わせた休暇取得が困難な場合もある
 - 上司から「〇〇学会の活動なら是非行って来い！」と言われるようなブランド化が必要？

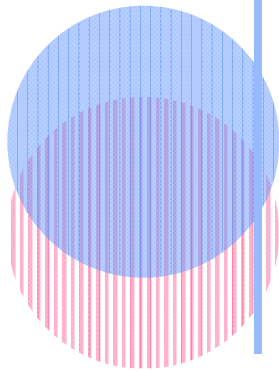


活動の原動力 まとめ

- 土木技術者のモチベーション向上
 - 活動を通じた土木への愛着・イメージアップ向上により、技術者にもメリット
- 楽しめる活動
 - 活動内容を自由に決められる
 - メンバーに活躍の機会があり、成功体験が得られる
- 社外との交流
 - 本業では出会えない方と交流し、人脈を構築できる



土木学会のパワーアップにも
役立てられる内容！



ご清聴ありがとうございました！

風工学と風力エネルギー分野における若手の取り組み

YAMAGUCHI, Atsushi



THE UNIVERSITY OF TOKYO

日本風工学会

風工学が扱う問題

- 構造物・建築物の耐風設計
- 鉄道の風防災
- 空気力学
- 大気境界層内の風の性質

歴史

- 1976年「風工学会」設立
- 1982年「日本風工学会」に改称
- 2009年「若手スクール」開始

関連する学会

- 土木学会
- 建築学会
- 気象学会
- 電気学会
- 機械学会

学会員の所属

- 大学
- 研究機関
- 建設会社
- コンサルタント

主な活動

- 年次大会(毎年5月)
- 若手スクール(毎年5月)
- 風工学シンポジウムの主催・共催(隔年)
- 学会誌・論文集の発行(年4回)
- 研究委員会の開催
- ホームページ
<http://www.jawe.jp/>

2009年より若手会員(厳密な定義なし)の交流を目的として、当時の会長(東大:藤野陽三先生)の発案により発足

- 懇親会(若手会員の話題提供)
- 講義
- 見学会

年次大会の前後に、学会の公式行事として、学会の費用負担で実施

場所	見学場所
2009年 東京大学	レインボーブリッジ
2010年 横浜国立大学	ランドマークタワー
2011年 大阪市立大学/本四高速	明石海峡大橋
2012年 日本大学/鉄道総研	鉄道総研国立研究所
2013年 東北大学	東北大学流体研究所
2014年 東京大学	東京スカイツリー
2015年 神戸大学	理化学研究所「京」

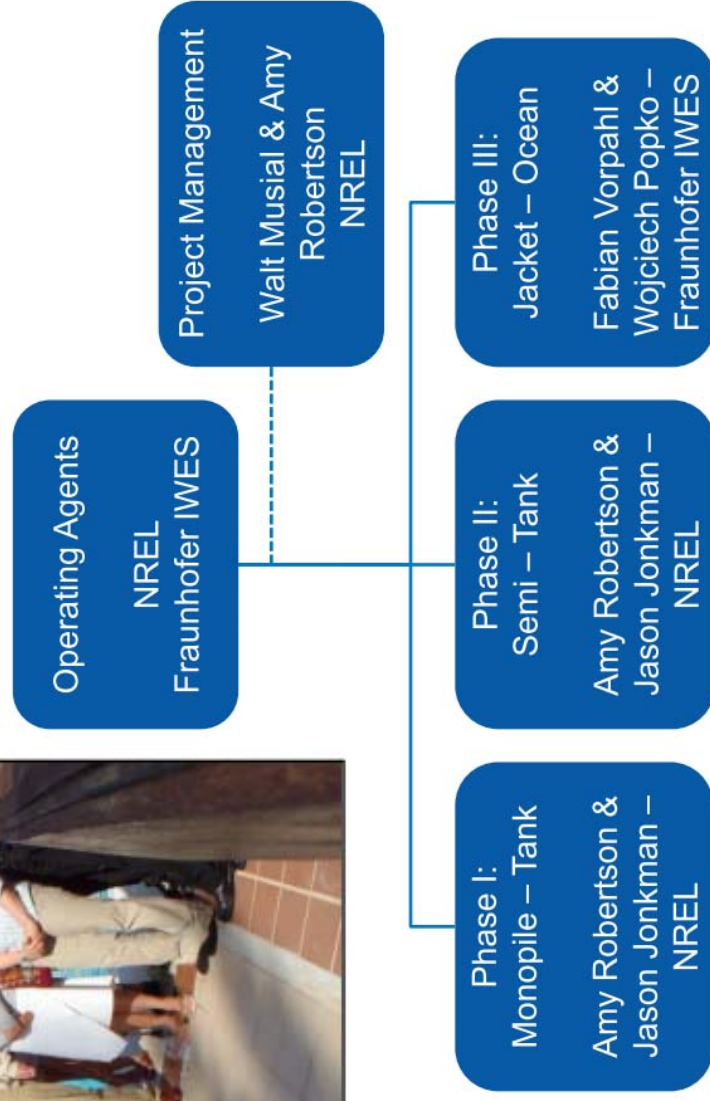






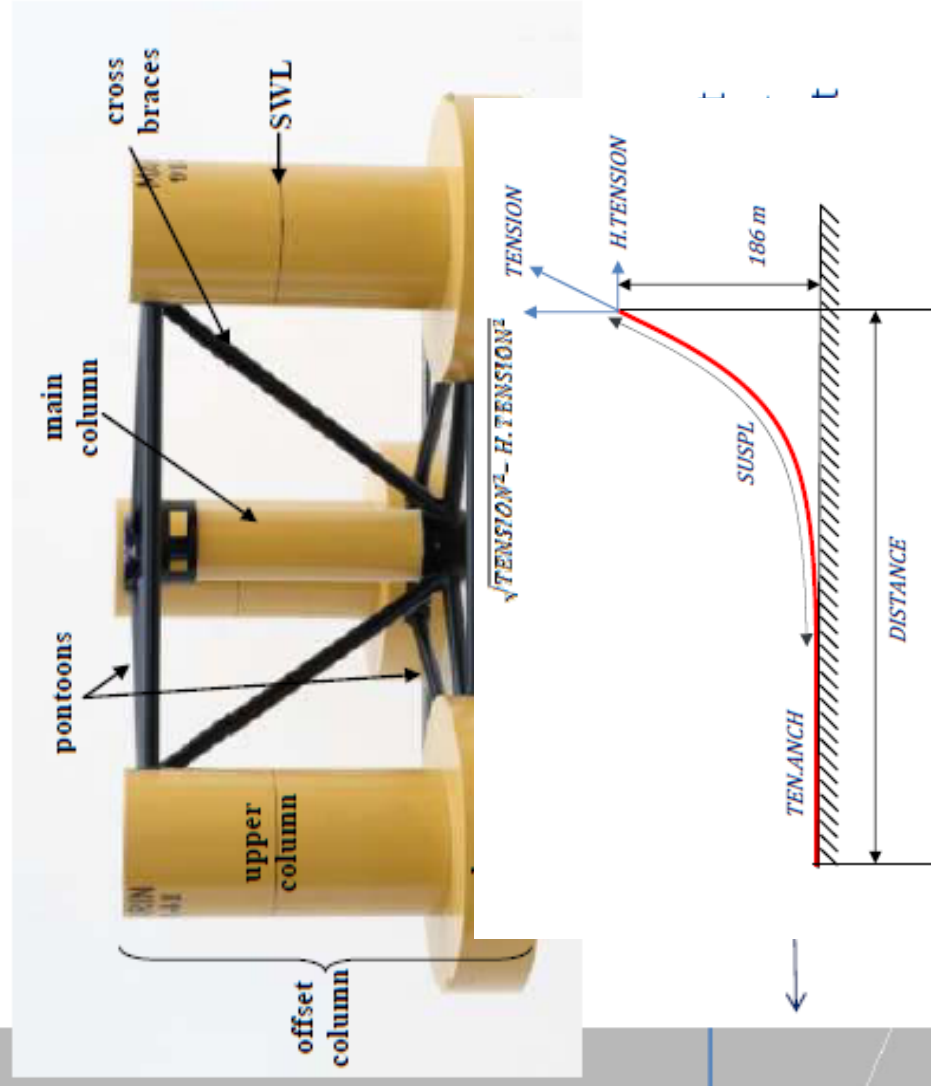
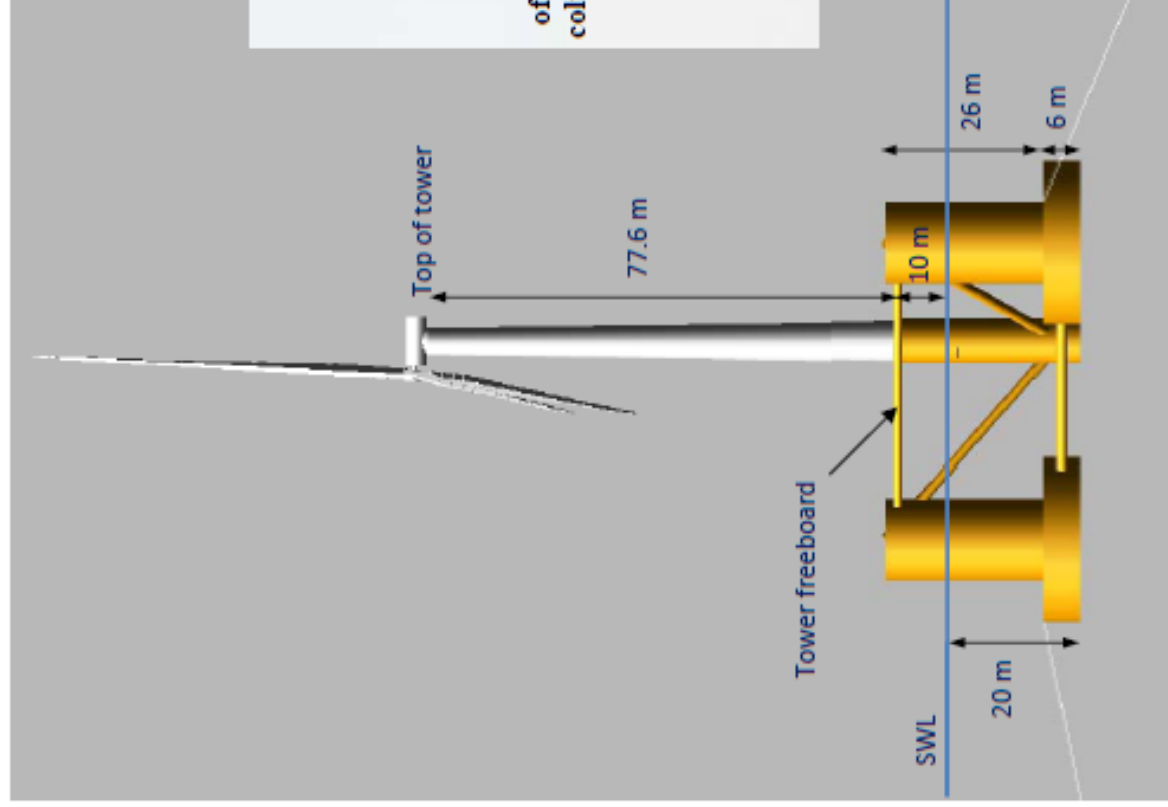
- 普段、交流する機会のない(特に民間企業の)若い会員間での交流の場となった。
- 学術的な内容について、「偉い」先生がいない場で若い会員同士で真剣に議論できる場となった。
- スタートは「上」(会長)からの指示で始まった若手スクールだったが、実施するにつれ、若い会員間の交流が深まり、自主的な研究会、交流会などの動きにつながっている。

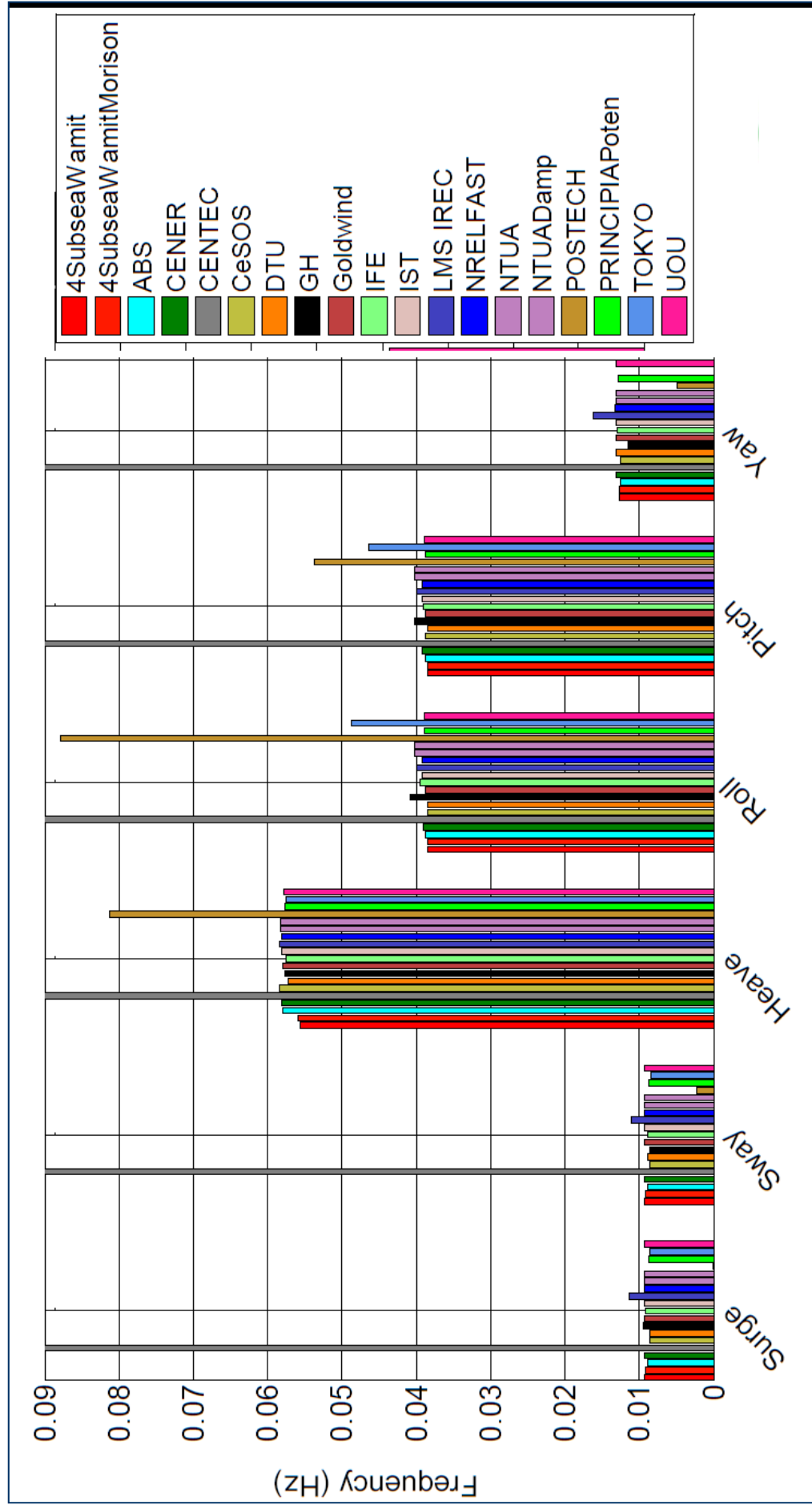
- 世界的にも「若い」分野であり、若い研究者の数も多い。
- IEA (International Wind Agency) wind という機関で多くの国際研究プロジェクトが行われている。
<http://www.ieawind.org/>
- 国際研究プロジェクトについても、20台～30台の研究者が主要な役割を果たしている。



OC4 Phase II 浮体

10/10





- ・6自由度における固有振動数は殆どの値が一致する。
- ・FEMモデルを用いる場合に、コラムの慣性モーメント等を正確に評価する必要がある。

海外学会の取組

— ASCE (American Society of Civil Engineers) の取組例 —

櫻庭 浩樹

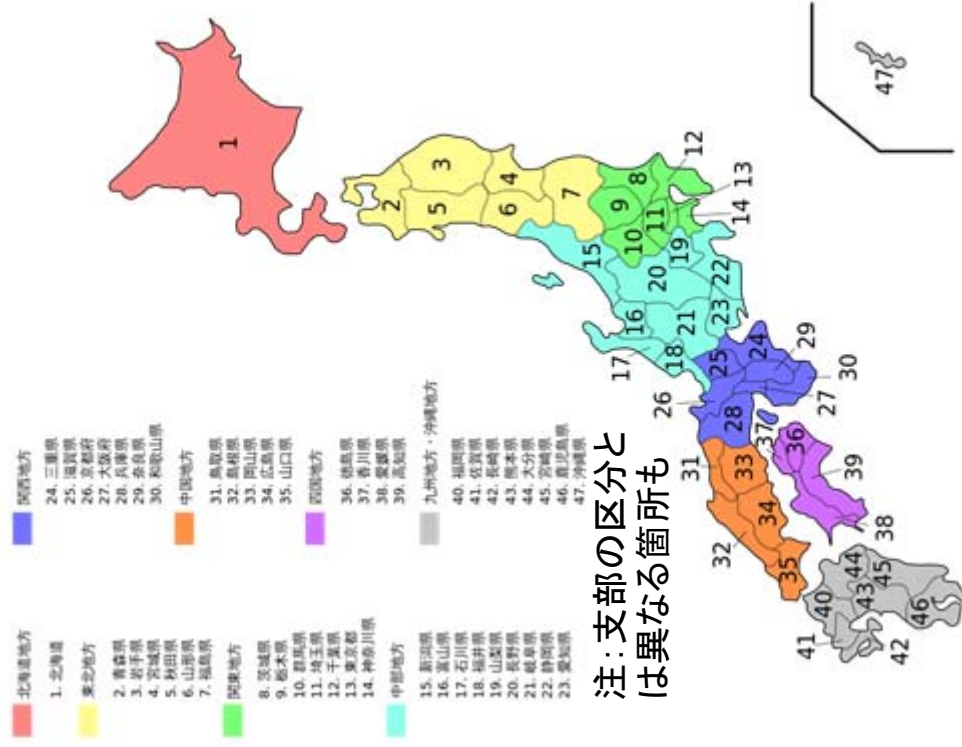
若手会員パワーアップ小委員会 本部委員
(国立研究開発法人 土木研究所)

2015年9月16日(水)第70回年次学術講演会(岡山)

発表内容

1. JSCEとASCEの組織
2. ASCEの若手会員グループ
ASCEのホームページを調査
3. 若手会員グループに関するHandbook
Handbookの概要説明
4. まとめ

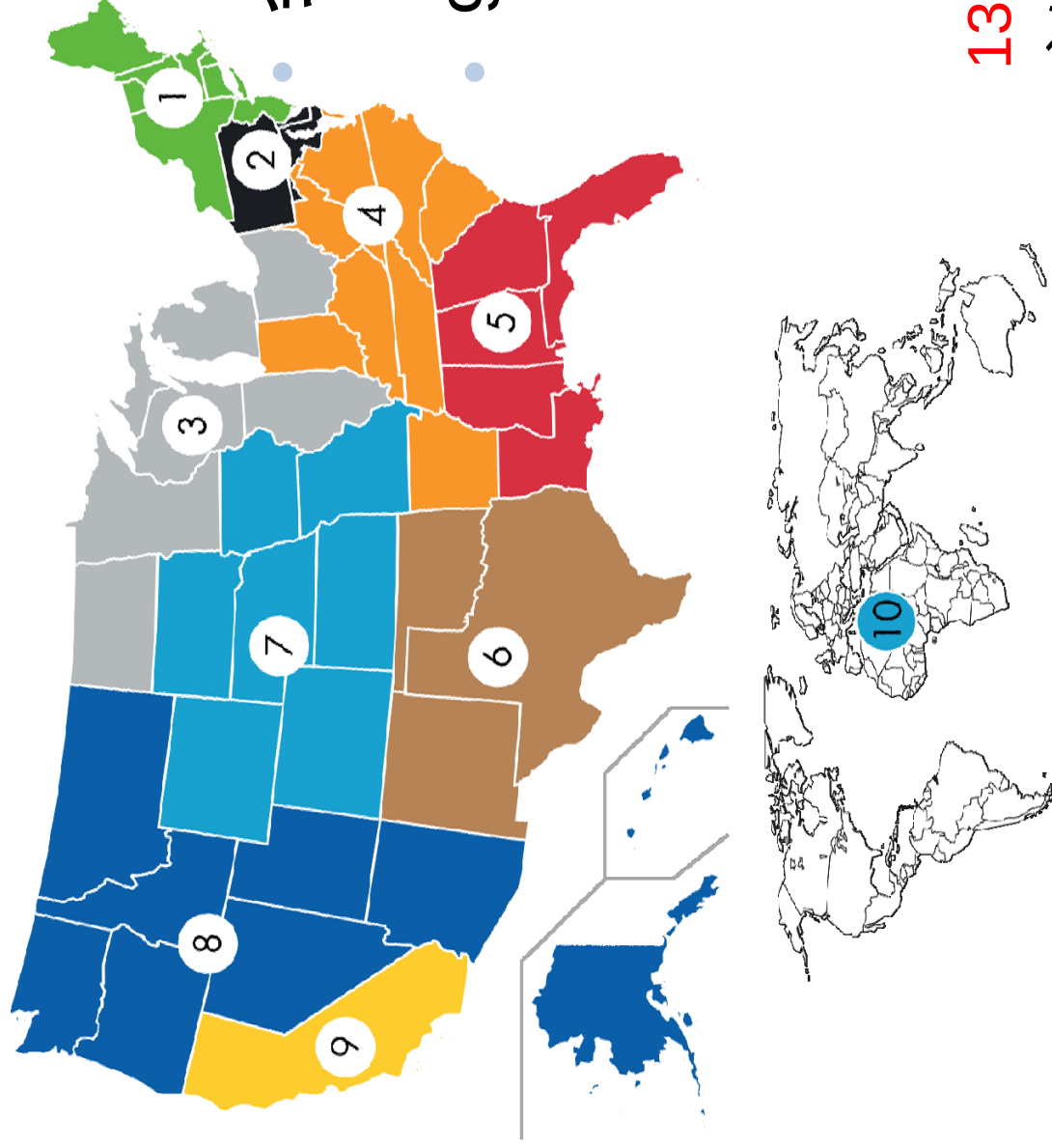
JSCЕの組織



- 会員数：約40,000人
- 各地方で支部が構成：8支部
 - 分会を組織している支部
 - 関東支部、群馬会など8つの分会
 - 中国支部、島根会
 - 西部支部、沖縄会
- 各支部の若手に対する取組の例
 - 北海道支部、Visit
 - 東北支部、若手技術者交流サロン
 - 関東支部、Student Chapter
 - 関西支部、若手交流会
 - 西部支部、ツタエルドボクCafé

引用元：
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%9C%B0%E5%9F%9F>

ASCEの組織



会員数：約146,000人
(国際会員：14,000人)

9 Regions

- 75 Sections
 - 155 Branches
 - 130 Younger Member Groups (YMG)
 - 285 Student Chapters

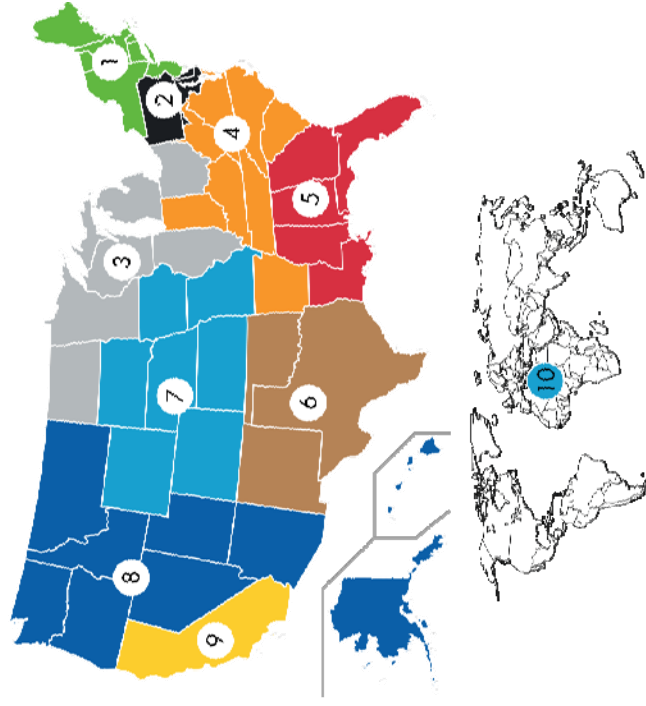
130の若手会員グループ！

主に35歳以下を対象

引用元：

http://www.asce.org/regions_sections_branches/

ASCEの組織



引用元:

http://www.asce.org/regions_sections_branches/

例: Region 7の構成

8 Sections

- Colorado
- Iowa
- Kansas City
- Kansas
- Nebraska
- South Dakota
- St. Louis
- Wyoming



Coloradoの例

5 Branches

- Colorado Spring
- Northern Colorado
- Southern Colorado
- Southwest Colorado
- Western Slope

- Region・Section・Branchで区分
Section/Branchで若手会員グループを組織

若手会員グループ？ (Young Member Group)

YOUNGER MEMBERS

SHARE     

ASCE recognizes that younger civil engineers make up the future of the profession and provides opportunities to help our Younger Members make friends in the profession, grow their careers, and develop as a leaders in their communities.

If you are age 35 or younger, ASCE has unique programming and activities just for you.

Coming up in September - Younger Member Leadership Symposium

- 125 local Younger Member Groups
- 3 Regional Younger Member Councils
 - Regions 1, 2, 4 & 5 - February 12-13, 2016 - Pittsburgh, PA (ERYMC)
 - Regions 3, 6 & 7 - January 15-16, 2016 - Chicago IL (CRYMC)
 - Regions 8 & 9 - January 22-23, 2016 - Anchorage, AK (WRYMC)

- News, events, awards and scholarships for young professionals
- Resources and benefits to help you grow professionally and advance your career

Questions? Contact us at youngermember@asce.org

Join us on [Twitter](#), [LinkedIn](#) or [Facebook](#)

引用元:

http://www.asce.org/younger_members/

目的

- 土木技術への親しみ
- 職業能力の形成
- リーダーの育成
- 学生支部の活動促進



若手会員グループの取組: Facebookの運営

facebook

メールまたは携帯番号

パスワード

ログイン

■ ログインしたままにする

パスワードを忘れた場合はこちら

ASCE Younger Members

さんはFacebookを利用しています。

Facebookに登録して、ASCE Younger Membersさんや他の友達と交流を深めましょう。

アカウント登録

ログイン

ASCE YOUNGER MEMBERS

非営利団体

タイムライン

基本データ

写真

いいね！

もっと見る ▼

ユーザー

いいね！ 3,850件

情報

<http://www.asce.org/Younger-Member-Groups/Com...>

写真

ASCE YOUNGER MEMBERS

9月2日 5:05

The Younger Member Leadership Symposium (YMLS) is a two-day workshop to better prepare Younger Members to lead. Registration ends September 11!

<http://www.asce.org/.../.../younger-member-leadership-symposium/>

Younger Member Leadership Symposium

Hosted by the Committee on Younger Members, the Younger Member Leadership Symposium (YMLS) is a two-day workshop, the main goal of which is to...

ASCE.ORG

いいね！

コメントする

シェア

Florida Board of Professional Engineersさんが「いいね！」と言っています。

ASCE YOUNGER MEMBERS

8月25日 5:13

The 2015 Younger Member Leadership Symposium is filling up fast! Don't wait until the September 11 deadline to sign up.

ASCE ASCE Younger Members

5月20日

Congratulations to this year's winners:

2015 National Champion: 2nd Place: California Polytechnic State University

3rd Place: Ecole do Technico Superior de Engenharia de Lisboa

Full results can be found at: <http://nssbc.info/History>

ASCE ASCE/AISC Student Steel Bridge Competition

History

NSSBC INFO

いいね！

コメントする

シェア

Beat-Rice Areolaさん、Had-Matin-Rouhaniさん、Charlie Mumfordさん、他19人が「いいね！」と言っています。

シェア4件

ASCE ASCE Younger Members

5月20日

On NPR, yesterday, <http://www.madeinplace.com/> /americasinfrastructure-asce.s

引用元:

https://www.facebook.com/pages/ASCE-Younger-Members/121417844537629?sk=timeline&ref=page_internal

127

7

若手会員グループの取組：教育に関する奉仕活動



引用元：

http://www.asceville.org/civil_what.html

What makes ASCEville "Greener"?
Click here to play the SCAVENGER HUNT.

WELCOME TO ASCEVILLE

Find Your Dream Job

Find Your Dream Job

Home | [Site Map](#) | [Labs](#) | [Database](#) | [Glossary](#)

THE BRIDGE CHALLENGE

Building **B**

Bridges
Domes
Skyscrapers
Dams
Tunnels

Buy the DVD

Location 1:
Build a multi-lane bridge for commuters and tourists
Span: 2,000 feet
Crossing: River
Connects: City and major highway

Special Notes:
"I want a one-of-a-kind bridge that will span our beautiful river and welcome visitors from all over the world to our thriving city. Make sure the new bridge leaves enough room for sailboats on the river. Please don't build a bridge that looks like the Golden Gate Bridge in San Francisco or the Brooklyn Bridge in New York."
-- Mayor of Craggy Rock

What kind of bridge should you build?
(Select one)

[Beam](#) [Suspension](#) [Arch](#) [Drawbridge](#)

Home | [Site Map](#) | [Labs](#) | [Database](#) | [Glossary](#)

THE BRIDGE CHALLENGE

Building **B**

Bridges
Domes
Skyscrapers
Dams
Tunnels

Buy the DVD

Location 1: Beam Bridge

Beam bridges rarely span more than 250 feet. You could build a continuous span beam bridge by linking one span after another across the river, but boats would have a hard time fitting between the piers. Plus, the mayor wants a "one-of-a-kind" bridge, and beam bridges are the most common bridges in the world. Try again!

[Try a different solution](#)

- 小中学生を対象とした土木技術の紹介や教育活動
 - － 橋梁形式選定クイズの例

若手会員グループの取組：シンポジウムの開催



- 今年度は2015年9月19-21日開催
- 場所：ASCE本部、ワシントンDC
- 参加人数：48人

引用元：<http://www.asce.org/event/2015/younger-member-leadership-symposium/>

- リーダーシップの向上に関するシンポジウム
 - プロジェクトのマネジメントに関する議論等

若手会員グループの取組：学生支部の活動促進



学会の開催

引用元：
<http://www.engr.colostate.edu/asce/index.html>



コンクリートカヌー



鋼橋のコンペ

- Colorado State Universityの学生支部の例

若手会員の活動に関するHandbook

ASCE
YOUNGER
MEMBERS

**YOUNGER MEMBER GROUP
HANDBOOK**

**A GUIDE TO SUCCESSFUL
YOUNGER MEMBER GROUPS**

Prepared by:

Committee on Younger Members
American Society of Civil Engineers
1801 Alexander Bell Drive
Reston, VA 20191-4400
1-800-548-ASCE

October 2012

Younger Member Group Handbook

ASCE
YOUNGER
MEMBERS

This handbook is published under the supervision of the Committee on Younger Members (CYM). Section and Branches are encouraged to bring specific concerns and suggestions to the attention of CYM.

Foreword

This handbook was prepared by the American Society of Civil Engineers (ASCE) CYM/CYM is the liaison to Younger Member Groups (YMGs). It has been prepared to translate actions and ideas of the CYM into a format that can be used by the YMGs. It also provides guidance on how YMGs may be structured. Sections and Branches need not have a formal YMG to find this handbook useful. For the purposes of this Handbook, the Society's definition of a YMG is a branch/section member 25 years of age or younger in years.

For sections and Branches who wish to have a formal YMG, this handbook will assist in its formation. The handbook will also provide a listing of Younger Members' Group Bylaws for downloading in PDF and Excel for activities. This manual is organized as follows:

- Section I: Outlines the purpose of a YMG.
- Section II: Provides information on YMG activities and committee charts. Sample YMG bylaws are provided.
- Section III: Provides an example of a calendar of organized.
- Section IV: Discusses how YMGs and YMGs can be organized.
- Section V: Describes awards and recognition for organized local awards.
- Section VI: Provides some extra available awards.

The CYM appreciates comments, suggestions or additional experiences. Your comments should be provided to:

Mail: Committee on Younger Members
Attn: Daryl Morales
1801 Alexander Street, Suite 200
Reston, VA 20191-4400

Email: Daryl.Morales - dmorales@asce.org

Specific problems related to Younger Engineers should be addressed to the CYM. Comments, suggestions or email should be sent to the CYM at the same time as the CYM contact information can be found in the CYM Handbook at 1801 Alexander Street, Suite 200, Reston, VA 20191-4400 and a list of the contact information for the CYM members during your

ASCE
YOUNGER
MEMBERS

Younger Member Group Handbook

TABLE OF CONTENTS

Section I: Why Start a YMG?	1
Section II: YMG Activities	2
Potential Other Structures and Outlets	2
Committees and Officers	3
Group Finances	6
Section III: What Activities could YMGs Hold?	7
Planning a Meeting	8
Section IV: How to Start a YMG	9
Section V: What's Beyond the YMG?	13
Section and Branch	13
Section VI: What about awards?	14
Organization of a Technical Paper Contest	14
Section VII: How to Bring Your Own YMG	15

Attachment 1: Sample Younger Member Group Bylaws

October 2012

October 2012

Handbookに基づいて若手会員
グループが組織

Handbookの目次

1. 若手会員グループの設立目的
 2. 若手会員グループの構築
 3. 若手会員グループが行う活動
 4. 年間の活動計画
 5. 若手会員の枠組みを超えた活動
 6. 賞の授与
 7. 体制の維持
- 付録：規約の例

- 若手会員グループの設立から体制の維持まで記載

若手会員グループの設立目的

- 学生支部メンバーからSection/Branchメンバーへの移行支援
- 将来のSection/Branchリーダー育成
- 互いに関心のある話題の収束
- 職業能力に関するプログラム提供による会員の獲得
- 社会問題を議論するフォーラムの開催

若手会員グループの構築

- 規約の制定
 1. グループ設立に対するSection/Branchからの承認
 2. グループの規約作成
 3. ASCE評議会による規約の審査
 4. Section/Branchによる規約の承認
 5. 若手会員委員会への規約の提出
- 役員の選出
 - － 会長、副会長、秘書、出納、前会長による補佐、顧問

若手会員グループが行う活動

- 活動の種類

1. 技術

- 発表会、交流会
- サイトビジット、など

2. ネットワーク

- レクリエーションの実施

3. 実務・体制維持

- Section/Branchの活動支援
- 若手会員の勧誘

4. 社会奉仕

etc.

年間の活動計画

September New Committee/Board members have been established and special task Committee assignments are made. YMG prepares list of goals and objectives for the coming year and presents the list to local president and CYM Geographic Member. Check to make sure your CYM Geographic Member is on the mailing list for the local newsletter. Select representatives to attend Younger Member Leadership Symposium and Multi-Regional Younger Member Council meetings. Section YMGs will prepare a list of Section/Branch contact members for use in mailings. Section/Branch Presidents should also be on the mailing list. Check to make sure your Section/Branch has indicated a YMG contact on their Leadership Report (to help CYM maintain their database). Collect papers and score sheets for Younger Member Technical Paper Award for Fall Section Meeting.	October Advertise the Mead Contest topic in Section and Branch Newsletter. Send a letter to Section and Branch Presidents announcing Mead Paper topic and asking for nominations for Friedman Award. Begin planning field trips and session for Spring Section Meeting, which will be sponsored by your Younger Member Group. Identify YM issues, draft proposed resolutions for Regional Council meeting and forward to Regional CYM representative for review. Solicit nominations for Young Engineer of the Year for the Section/Branch. Attend Annual Conference. Request session time at the Spring Section Meeting and coordinate time for field trips with the Host Committee.
November Organize committees, which will choose Young Engineer candidates for Edmund Friedman Award, Daniel W. Mead Paper Contest, Young Government Civil Engineer, Young Engineer of the Year for the Section and Young Engineer Technical Paper Contest(s). Begin preparation for YMG Award. Awards information: http://www.asce.org/Younger-Member-Groups/CYM-Awards/ Review newsletter to make sure award advertisements were published. Upload Younger Member Group Annual Report and two-page summary to Committee on Younger Members eRoom. Apply for YMC awards. (See YMC websites for details and deadlines.)	December Review progress of field trip and session committees for the Spring Section Meeting events.

- 9月から12月の例
 - － 9月：役員の選出、活動開始
 - － 10月：フィードバック等の企画や学会への参加
 - － 11月：賞を授与する委員会の組織
 - － 12月：フィードバック等の企画の見直し

- 年間の基本的な活動例が記載

引用元：Handbookのp.11

若手会員の枠組みを超えた活動

- Section/Branchの活動への参加
 - 全ての活動において、若手会員の参加が奨励
- ASCEの活動への参加
 - 多くのASCE委員会が若手会員の参画を推奨
 - ASCE Newsへの話題提供、記事の投稿
 - Multi-Region Leadership Conferenceへの参加
 - 受賞ノミネート

賞の授与

- 若手会員を対象とした論文コンテストの企画
- Daniel W. Mead Prize
 - － 優れた職業倫理に関する論文を募集して審査
- Edmund Friedman Young Engineer Award for Professional Achievement
 - － 社会貢献した個人やグループに授与、申請にはSection/Branchの会長の承認が必要

引用元: Handbookのp.14

Instructions for Judging Younger Member Paper Contest:

- The rules for the award are:
 - Best technical paper.
 - Written and presented by a Younger Member of the Section and/or Branch.
- The candidate:
 - Must be the principal author if there are several.
 - Must be a member in good standing of the Section and/or Branch.
 - Must be 35 years of age or younger.
- The judges should use the score sheet provided.
- The score sheets and a copy of the paper should be returned to the Chair of the Younger Member Group.
- All eligible papers submitted will be judged by a committee of at least three (3) members and the final scoring will consist of the average of the Technical Committee chair's scoring and the scoring of the three committee members.
- Judging and Scoring may include:

Possible Points Awarded

Technical Contents of Paper

- | | |
|----------------------------------|----|
| a. Relevance of topic to session | 5 |
| b. Development of new knowledge | 10 |

論文コンテストの説明

体制の維持

役員の不選出

No Elected
Officers
To organize
activities

No Activities
To attract
membership

メンバーを呼び込む
活動の停止

役員候補のメンバー不在

活動が縮小するサイクル

Younger Member Group Handbook

ASCE
YOUNGER
MEMBERS

The list below outlines simple and fundamental building blocks necessary for a YMG to become a healthy and successful organization. CYM is available to guide and assist you through each step.

1. Identify YMG Champion, or Champions
2. Secure support from Section or Branch
 - A. Consider writing a formal proposal, including a preliminary budget to demonstrate commitment and professionalism
3. Elect a minimum of three officers on the board
 - A. President/Chair
 - B. Secretary
 - C. Treasurer
4. Approve YMG Bylaws
 - A. Prepare a Vision, Mission and Goals statement
 - B. Customize based on Society-approved template and process (see Attachment 1)
5. Develop an annual YMG Budget
 - A. Identify Revenue Sources
 - i. Society
 - ii. Region
 - iii. Section
 - iv. Branch
 - v. Company advertisements on Website and/or Newsletters
 - vi. Fundraisers
 - B. Identify Expenses
 - i. YMG Activities
 - ii. Food for Board meetings
 - iii. Travel for Conferences
6. Plan YMG Activities and Events
 - A. Avoid duplication of Section/Branch activities
 - i. Keep YMG Activities separate
 - ii. Co-host of the Section/Branch meetings on a regular basis
 - B. Define major YMG program areas and activities, for example (see also the Younger Member website <http://www.asce.org/Younger-Member-Groups/YMG-Activities>):
 - i. Professional and Technical Development Program
 - a. Resume workshops
 - b. Attend Regional and National conferences
 - c. ASCE webinars
 - ii. Community Service Program
 - iii. Outreach and Public Affairs Program

October 2012

19

健全な活動維持の考え方

引用元: Handbookのp.18-19

まとめ

- ASCEには「若手会員グループ」が各Section/Branchで組織され、若手の活動が奨励されている
- 若手会員グループでは、若手に役立つ話題の収束、職業能力の形成、リーダー育成、学生支部の活動促進などを実施している
- 若手会員グループの活動に関するHandbookが作成されており、若手会員グループの設立から体制の維持まで、グループ活動に必要な情報や考え方が示されている

- ご清聴ありがとうございます！

A-6 理事会テーマディスカッション

日時：平成27年11月20日（金）15:15～17:30（テーマディスカッション 15:30 頃～）

場所：土木学会 講堂

出席者：廣瀬会長、河原、熊本、甲村、田中、前川(宏)各副会長、田代次期会長、塚田専務理事、青木、赤木、石田、久保田、古賀、小林、土屋、飛田、中尾、南荘、野田、橋本、濱田、前川(秀)、松原、水鳥、八嶋、横田、渡邊各理事、廣畑監事、磯部顧問

支部出席者：小林(代・北谷)、川瀬(代・地本)、大嶋、小室、八木、河内、丸山(代・出路)、近藤、北田(代・松田)

◆活動報告

若手会員活性化のための方策 —若手会員パワーアップ小委員会の活動—

企画委員会 若手会員パワーアップ小委員会
委員長 橋本 麻未

2015年11月20日（金）
土木学会 理事会テーマディスカッション



小委員会の目的

100周年記念事業「若手土木技術者の交流サロン」の継続事業として、

**若手土木技術者の学会活動の活性化
→学会全体の活動の活性化**

のため、学会事業の諸策を検討，提案して
具体化を図る。

3



若手会員パワーアップ小委員会とは



小委員会のメンバー構成

1. 執行部（3名）
2. 支部選定委員（8名）
3. 本部委員（5名）

建設コンサルタント	5	JR	1
学校・学会	3	地方公共団体	1
建設業	2	協会	1
高速道路会社関係	2	官庁・独立行政法人	1

4



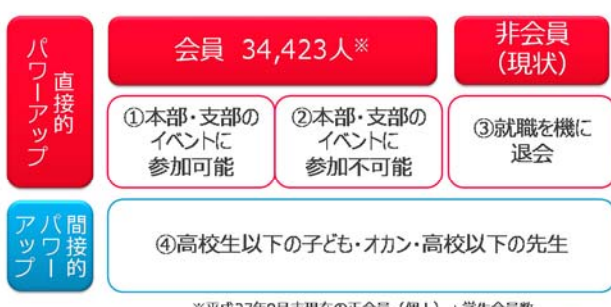
活動計画



5



対象者の分類



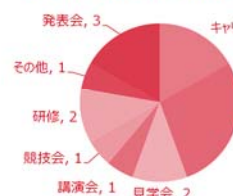
7



本部・支部活動の把握

→好事例の展開

- >> ①本部・支部のイベントに参加可能
- >> ④高校生以下の子ども・オカン・高校以下の先生



若手会員対象のイベント実施状況

若手交流サロン（四国支部）

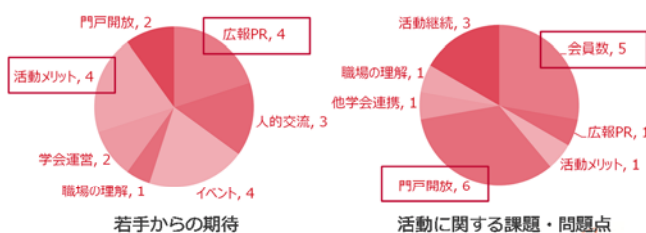
8 ※第1回小委員会アンケート（自由回答、回答数18件）



課題・ニーズの把握

→対策案の検討・実施

- >> ②本部・支部のイベントに参加不可能
- >> ③就職を機に会員を継続しない



9 ※第1回小委員会アンケート（自由回答、回答数20件・18件）



全国大会研究討論会

「若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進」の展望



土木学会全国大会 研究討論会【研03】
「若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進」の展望

【事前】掲示板,Twitter上での意見募集

- 【議 事①】挨拶 (中村企画幹事長)
- 【議 事②】小委員会の活動方針 (橋本委員長)
- 【議 事③】支部活動の報告 (中山委員、杉田委員)
- 【議 事④】他学会の取組 (山口東京大学特任助教)
- 【議 事⑤】海外学会の取組 (櫻庭委員)
- 【議 事⑥】パネルディスカッション

11



【事前】掲示板,Twitter上での意見募集

広く若手土木技術者からの意見を募集するため、インターネット（掲示板、Twitter）を活用しました。

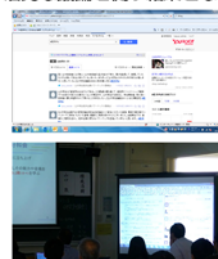
【掲示板】

討論会前から書き込みを多数いただきました。



【Twitter】

討論会中も多くのTweetが飛び交い、活発な議論を促す結果となりました。



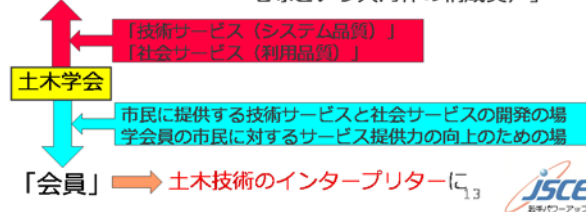
【議事①】挨拶（中村企画幹事長）



- ・当小委員会設立の経緯について
- 土木学会の顧客：市民（地球という共同体の構成員）
- 土木学会員：土木技術のインテプリター（仲介者）

顧客の再定義

「顧客」→「市民（国の境界に無関係であり地球という共同体の構成員）」



【議事③】支部活動の報告（中山委員）



- ・北海道支部「VISIT事業（学生対象の職場訪問・見学会）」
- 正会員と学生会員が一体となった事業実施
- 企業：PR効果、優秀な学生の発掘
- 学生：進路選択サポート、職業観・就労意識形成



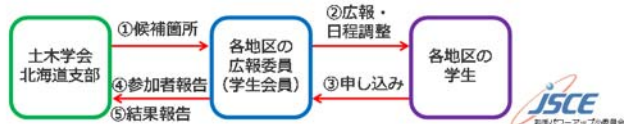
望月寒川改良工事現場



定山溪ダム



学生会員の活躍



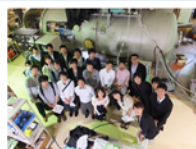
【議事④】他学会の取組（山口東京大学特任助教）



- ・風工学会
- 会員数400人程度
- 若手スクール（2009年より懇親会・見学会の実施）
- 「上」からのスタートが「下」の自主性を生み出す

■若手スクール見学場所一覧

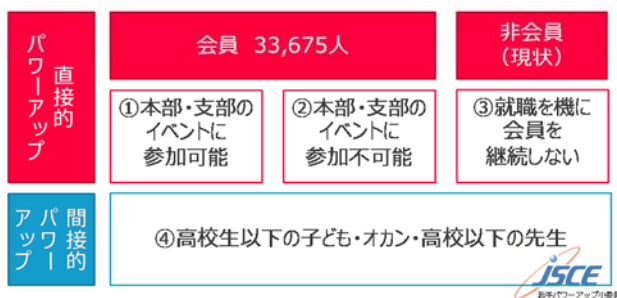
場所	見学場所
2009 東京大学	レインボーブリッジ
2010 横浜国立大学	ランドマークタワー
2011 大阪市立大学/本四高速	明石海峡大橋
2012 日本大学/鉄道総研	鉄道総研国立研究所
2013 東北大学	東北大学流体研究所
2014 東京大学	東京スカイツリー
2015 神戸大学	理化学研究所「京」



【議事②】小委員会の活動方針（橋本委員長）



- ・100周年記念事業「若手土木技術者の交流サロン」より継続
- ・直接的パワーアップと間接的パワーアップ
- ・本部・各支部の好事例の展開
- ・課題・ニーズの把握と、対策案の検討・実施



【議事③】支部活動の報告（杉田委員）



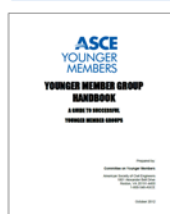
- ・西部支部「ツタエルドホク Café」
- 潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿
- 応募倍率10倍以上、メディアにも多く取り上げられる
- KABSE内研究分科会：土木技術を誇りを持って「ツタエル」



【議事⑤】海外学会の取組（櫻庭委員）



- ・ASCE
- 若手会員(35歳以下)グループ 130
- Student Chapter 285
- Young members Handbookが活動をサポート



ASCEのHandbook
活動目的・計画の立て方等
幅広い内容について網羅する



コンクリートカメラ大会
マネジメントシンポジウム



橋梁クイズHP・facebook

【議事⑥】パネルディスカッション

- ・コーディネーター 中村企画幹事長
- ・パネリスト 橋本委員長、中山委員、杉田委員、山口特任助教、櫻庭委員

「あなたにとって土木学会とは？」

「本部・支部のイベントに参加できない会員や、就職を機に退会する人に対して土木学会が与えられるメリットは？」



【議事⑥】パネルディスカッション



会場からの意見

- ・学会は土木業界内でのネットワークを得られる場である。
- ・支部活動に携わっており、世の中に貢献できる意義を実感している。
- ・一時退会して復会した。非会員の頃があったからこそ重要性がわかる。
- ・公務員も活動に参加したいが、実態として参加できないジレンマがある。
- ・この検討会のように、場を共有できることが素晴らしいと感じる。
- ・土木学会は幅広いつながりができる。隣のドアを叩ける仕組み作りを。
- ・学生時代は学会発表のみであったが、現在の活動を通じて土木学会の活動フィールドの幅広さを実感している。
- ・女性技術者の会のように、つながりが維持される仕組みがあると良い。
- ・土木学会への「愛着」が深まるよう、小さなスケールで継続できれば。
- ・学会活動は人材育成に有効である。若手の技術力向上に活用している。

情報共有体制

活動にご協力をお願いします



情報の共有をよろしくお願いいたします！



30



◆ディスカッション内容

①関西支部 河内支部長

土木学会として、会員を増やすターゲットをどこにするのか？ゼネコンをターゲットとするのであれば、この方法を考えねばならない。ゼネコンは学術とかけ離れているところもあるが、土木は実務と切り離せないため、ゼネコンは無視できない。この点を深掘りして欲しい。

②中国支部 出路幹事長

若手は忙しいという意見が支部から出ているこういった状況でどう活動するか、忙しい人々をどう巻き込んでゆくのか知恵が欲しい。特に公務員は出席できない。遠隔参加も手段の一つではあるが、できれば活動に参加できるような方法を考えるべき。

③北海道支部 北谷幹事長

Visit は企画段階から学生が行っているなので、関心が高くなっている、こうした学生は、卒業後も土木学会に関与する場合が多い。

④田代次期会長

活動を積極化するには、若手の活動を周囲が評価すべきである。活動結果をきっちりと公表してゆくと、忙しくても若手はきっちりとやる。物事を具体化して企画すると若者はのってくる。

⑤廣瀬会長

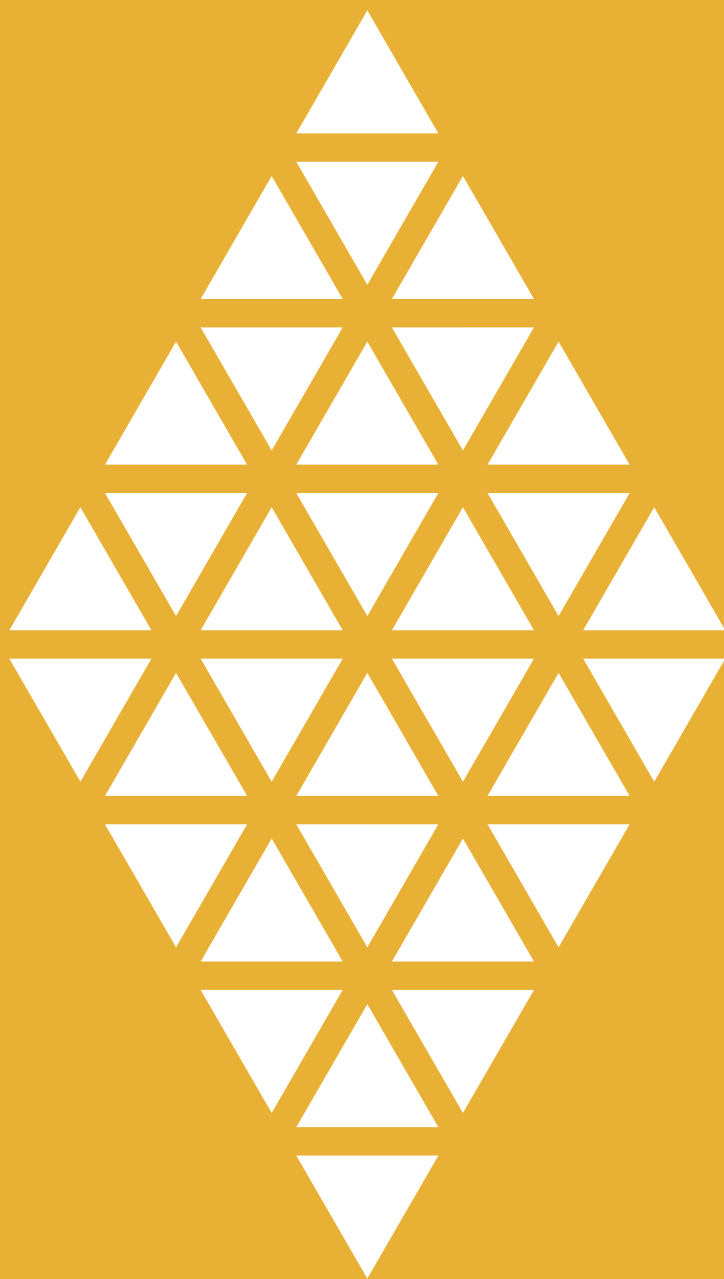
地方の現場から、実務レベルの表現・評価の仕組みをつくるのが良いのではないかと。自分たちがやっていることを世間に知ってもらいたいという人は大勢いる。ITなどを活用して、広く表現できる仕組みを作る必要がある。技術相談コーナーなど、シニアが支援できる仕組みを作る必要もある。

⑥磯部前会長

若手間・支部間の交流は活性化に繋がる。最近高知では日本学術会議主催の市民公開講演会を実施した。若手が高知で何か行うということであれば、私が案内するといったこともやってもよい。

⑦前川（秀）企画担当理事

コンサルの若手会を見ても自主的に参加するのは業務上難しい。上からの発声で仕事の一環として活動してもらうのも、取り掛かりとしては良いのではないかと。



市民普請大賞

SHIMIN BUSHIN

2016

募集期間

2016年**6**月**1**日から**2016**年**8**月**31**日まで(延期・必着)

主催：公益社団法人 土木学会

後援：国土交通省（予定）

市民普請大賞 2016

募集のご案内について

■ “市民普請”とは

『市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共のための取り組み』、それが「市民普請」です。まちづくり、みちづくり、川や湿地・里山・里海の再生等、地域の防災計画の立案等、市民普請の対象は多岐に渡ります。

■ “市民普請大賞”とは

土木学会では、2014年、創立100周年を記念して「市民普請大賞」を創設しました。全国から78件の応募があり、書類選考、プレゼンによる公開選考を経て、グランプリ1団体、準グランプリ2団体、優秀賞2団体を決定しました。

2015年にはグランプリを受賞した「グラウンドワーク三島」の実践地を訪れ「市民普請大賞・全国交流会議2015」を開催しました。そして今年2016年は、市民普請の更なる展開と普及、活動団体の交流を目的に、「第2回市民普請大賞2016」を開催します。

■ こんな取り組みを募集しています

市民主導で、地域を豊かにする公共のための取り組みであれば対象となります。「ものづくり」に近い取り組みだけでなく、地域がよくなるための計画づくり、合意形成のプロセス等、幅広い観点から応募して下さい。

■ 応募資格

応募対象となる取り組みを実施した市民団体、NPO等に加えて行政・企業、各種団体等も含まれます。この場合、市民団体・NPO等団体が主導的に行っていることが条件となります。2014年に応募された団体の再挑戦もお待ちしております。

■ 市民普請をもっと知りたい方は

HP、facebookに市民普請の関連情報を掲載しています。「市民普請大賞」で検索して下さい。2014年のHPは、<http://jsce100.com/shiminbushin/index.html>です。

賞の種類

グランプリ	1本
準グランプリ	2本
優秀賞	2本

選考の視点

「地域への貢献」「持続性・発展性」「人材育成・協働・資金調達などの仕組み」「夢や希望を抱く活動」などの観点から総合的に評価します。

選考スケジュール

[一次選考] 2016年8月上旬

・選考委員による書類（応募用紙）選考

[最終選考（表彰）] 2016年11月23日（水・祝）

- ・会場：土木学会講堂（東京都新宿区四谷）
- ・時間：午前10:00～午後17:00
- ・一次選考通過者によるプレゼンテーションと質疑応答の上、選考会場参加者も交えた公開選考とします。
- ・土木の日公開イベントとの共催で行います。

応募方法

● 募集期間

2016年**6**月**1**日（水）から

2016年**8**月**31**日（水）まで（必着・延期しました）

● 応募方法

土木学会ホームページ（<http://committees.jsce.or.jp/cprcenter0101/>）から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、土木学会へ提出してください。

● 提出方法

土木学会土木広報センター宛にメール（『お問い合わせ先』参照）にて提出してください。※ファイルの容量は10MB以下としてください。

応募にあたっての留意点

- ・応募にあたり提供された個人情報は、応募内容への問い合わせ、選考結果の通知として利用し、それ以外に無断で他の目的に使用することはありません。提供された個人情報は、土木学会「個人情報保護方針」により管理します。
- ・市民普請事例として応募用紙をHP等に掲載することを計画しています。

お問い合わせ先

公益社団法人 土木学会 土木広報センター
〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
メールアドレス bushin@jsce.or.jp
電話 03-3355-3448（9:00-17:00）

土木の日シンポジウム2016 演者紹介

市民普請大賞2016 選考委員



木村 亮
Makoto KIMURA

選考委員長

京都大学大学院 教授 社会理工学研究科
工学博士 土木学会正会員

1960 年京都府生まれ。専門は地盤工学。京都大学大学院工学研究科（土木工学専攻）修士課程修了後、京都大学工学部助手、同 助教授を経て、2006 年より現職。地盤工学の一線の研究者として活躍される一方、世界の貧困に地盤工学の面から貢献するため、「道直し」と称しアフリカを中心とした途上国にて道路整備・補修技術をつたえる活動を長年続けている。



島谷 幸宏
Yukihiko SHIMATANI

九州大学大学院 教授 工学研究院 環境社会部門
博士（工学） 土木学会フェロー会員

1955 年山口県生まれ。専門は河川工学、河川環境。九州大大学院を修了後、建設省土木研究所、国土交通省武雄河川事務所長を経て、2003 年より現職。住民参加の川づくり、多自然川づくり、トキの野生復帰、自然再生、川の風景デザイン、流域全体の治水、技術者の技術力向上などに取り組んでいる。国土交通省多自然川づくり研究会座長、土木コレクション委員長などに参加。



真田 純子
Junko SANADA

東京工業大学大学院 准教授
博士（工学） 土木学会正会員

1974 年広島県生まれ。東京工業大学卒。1996 年 ヴルカヌスプログラム（日欧産業協力センター）にてイタリア留学（1 年）。2005 年に博士（工学）を取得し、2007 年 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教、2015 年より現職。石積み技術に注目し、石積みの技術継承をしながら修復する「石積み学校」を設立、運営するなど、地域景観保全再生に精力的に取り組んでいる。著作に、『都市の緑はどうあるべきか』（技報堂出版 2007 年）、『ようこそドボク学科へ!』（編著 学芸出版社 2015 年）など。



橋本 麻未
Mami HASHIMOTO

鹿島建設株式会社 土木設計本部 設計主査
土木学会若手パワーアップ小委員会委員長
土木学会正会員

1981 年兵庫県生まれ。京都大学大学院工学研究科修了。2006 年鹿島建設入社、土木設計（都市土木・山岳トンネル）、現場（北海道新幹線 津軽蓬田トンネル）、東京大学大学院インフラ事業戦略学寄付講座への出向を経て、現職。2015 年に新設された若手パワーアップ小委員会では、土木界のパワーアップのため、土木の魅力発信や労働環境改善などをテーマに活動している。ランニングや海外放浪で街なかの土木を見つけるのが趣味。

阿部 悟
Satoru ABE

国土交通省大臣官房技術調査官
土木学会正会員

1959 年秋田県生まれ。東洋大学卒。建設省入省。国土交通省高崎河川国道事務所長、道路局交通安全対策室長を経て、2015 年より現職。道路環境や交通安全など、道路行政に携わる。

土木映像偉人展



高橋 裕
Yutaka TAKAHASHI

東京大学名誉教授

1927 年静岡県生まれ。東京大学第二工学部土木工学科卒。専門は河川工学。東京大学教授、芝浦工業大学教授を経て東京大学名誉教授、国際連合大学上席学術顧問。河川審議会委員、水資源開発審議会会長、中央環境審議会委員、ユネスコ IHP 政府間理事会政府代表、WWC（世界水会議）理事、IWRA（世界水資源学会）副会長などを歴任。2015 年、Japan Prize 受賞。主な著書としては、『国土の変貌と水害』岩波新書、『河川工学』東京大学出版会、『都市と水』岩波新書、『川に生きる』山海堂などがある。

(公社)日本技術士会北陸本部「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」
及び「(公社)土木学会企画委員会若手パワーアップ小委員会」連携公開会議

**建設関連産業の活性化へ向けてのロードマップ
～中堅技術者が建設関連産業の魅力と将来を語る～**

1. 日 時 : 平成 28 年 1 月 13 日(金) 14:30～17:00 (受付 14:10～)
2. 会 場 : 新潟大学駅南キャンパスときめいと 講義室 A
(新潟市中央区笹口 1 丁目 1 番地 プラール 1 の 2 階)
3. 参加費 : 無 料

4. プログラム

- | | |
|--|------------------|
| ①開会挨拶..... | 14:30～14:35 |
| 大谷 政敬 (公社)日本技術士会北陸本部長 | |
| ②講 演..... | 14:35～14:45 |
| 「大学からみた現状の課題、そして魅力と将来への期待」
大竹 雄 氏 新潟大学工学部社会基盤工学科准教授 | |
| ③発 表..... | 14:45～15:45 |
| 第一部「建設関連産業の課題と取り組み」 | |
| 1) 嶋澤 隆介氏 | 土木学会若手パワーアップ小委員会 |
| 2) 瀬戸 民枝氏 | 新潟県土木部 |
| 3) 生越 直人氏 | 建設業協会十日町支部 青年部会 |
| 第二部「現状の課題、そして魅力と将来への期待」 | |
| 4) 江川 千洋氏 | 株式会社キタック |
| 5) 高野 陽平氏 | 株式会社ナルサワコンサルタント |
| 6) 堀 万葉香氏 | 株式会社村尾技建 |
| ④休 憩..... | 15:45～16:00 |
| ⑤パネルディスカッション..... | 16:00～16:55 |
| 「建設関連産業の活性化へ向けてのロードマップ」
コーディネーター：大竹 雄 氏 新潟大学工学部社会基盤工学科准教授 | |
| ⑥閉会挨拶..... | 16:55～17:00 |

本セミナーは、継続教育(CPD)制度の認定プログラム 2.0 単位です。



現在、建設関連産業においては、「給料アップ」、「休暇取得率向上」、「将来への希望が持てる」という新3Kを目指した生産性革命が、今まさに起ころうとしています。そのためのツールとして、測量・設計から、施工、さらに管理にいたる全プロセスにおいて情報化を前提とした「i-Construction」を国土交通省では、2016年度より導入しました。

そこで、日本技術士会北陸本部では、新潟県内の建設関連産業の若手技術者の皆様を対象に、『「i-Construction」とは、何なのか』、『「i-Construction」で、私たちの仕事はどう変わるのか』等をメインテーマに、将来への「希望」について考える場として、今回の技術研修会および交流会を下記の通り開催することといたしました。どうか奮ってご参加下さいますようお願いいたします。

開催日 2017年
3月4日(土)

受付 13:30 ～ **講演** 14:00 ～ 17:40

開催場所 技術士センタービルⅠ
8F AB 会議室

〒950-0965 新潟市中央区新光町10番地2
TEL 025-281-2009

交流会 18:00 ～

技術士センタービルⅠ 8F C 会議室
交流会参加費：3,500円(当日徴収します)

ご参加の方は**2月22日(水)**迄に、裏面FAX
用紙またはE-mailでご返送をお願いします。

主催：公益社団法人 日本技術士会北陸本部
共催：新潟大学工学部社会基盤工学プログラム
協力：公益社団法人 土木学会

講演プログラム (持ち時間には質疑応答を含みます)

参加無料

- | | |
|-----------------|---|
| [14:00 ～ 14:10] | 開会挨拶
大谷 政敬 (公社)日本技術士会北陸本部長 |
| [14:10 ～ 14:30] | 土木の未来・将来を考えるきっかけに
大竹 雄氏 新潟大学 工学部 准教授 |
| [14:30 ～ 15:00] | 国土交通省生産性革命プロジェクト
～本格的なi-Constructionへの転換～
藤木 裕二氏 北陸地方整備局 企画課 企画課 課長補佐 |
| [15:00 ～ 16:00] | 建築・土木の未来のカタチ
高橋 修氏 伊藤忠テクノソリューションズ |
| [16:00 ～ 17:00] | i-Constructionの適用工事全国第一号
として行ったICT土工
宮井 隆利氏 会津土木株式会社技術管理部長 |
| [17:00 ～ 17:30] | 若手が支える地域インフラの維持管理
(ME新潟の取り組みと今後の展開)
荒木 克氏 ME 新潟の会 会長 |
| [17:30 ～ 17:40] | 閉会挨拶
大高 章氏 (公社)日本技術士会北陸本部 青年技術士交流委員長 |

研修会参加申込書 裏面 ➡

投稿案	文字数
今後、さらに変革し続けるグローバル社会において、土木技術者に期待される活躍の場は、職能などの役割分化や海外展開を含め、ますます拡大していくものと確信する。【土木学会誌論説2015.9 日野伸一氏】#若手PU #土木の日	110
同時に、高い倫理観と広い知識を持ち、俯瞰的なものの見方や課題解決能力を備えた人材の育成が求められる。【土木学会誌論説2015.9 日野伸一氏】#若手PU #土木の日	83
今や土木技術者のカバーすべき領域が拡大し、工学系分野の中でも最も産官学、様々な職域で活躍する人材を育成しなければならない土木工学系教育に関しては、学部4年間で従前の知識レベルの教育を完結するのはもはや困難である。【土木学会誌論説2015.9 日野伸一氏】#若手	140
所長クラスの世代は、長時間勤務が当たり前という環境で育ってきたこともあり、部下に対して同様の価値観を求める傾向があるかもしれないが、時代の変化に即した対応が必要である。【土木学会論説2015.9 柿谷達雄氏】#若手PU #土木の日	117
ものづくりの最前線である現場で、担い手が増え、生産性向上のさらなるアイデアが生まれ、官民協力が一層進めば、建設業は活気に満ち溢れ、魅力ある職場となるに違いない。そしてその結果、国も豊かになるものと確信している。【土木学会論説2015.9 柿谷達雄氏】#若手PU #土木の	138
土木学会の会員構成は産官学のバランスがとれており、様々な委員会活動や研究も産官学が共同で進めている。それは、土木工学の本質が社会実装であるからである。【土木学会論説2015.10 福士謙介氏】#若手PU #土木の日	109
土木技術者が今まで行ってきた産官学連携による社会実装の経験を顧みると、ショーケースとなるべき活動が多くあると思う。【土木学会論説2015.10 福士謙介氏】#若手PU #土木の日	91
新しい動きに土木技術者は積極的に参加し、世界の研究のブレークスルーを推進し、さらに科学と社会の新しい関係を構築する役目を担うことができると考えている。【土木学会論説2015.10 福士謙介氏】#若手PU #土木の日	109
厳しい労働環境への適合性が高い人だけではなく、働く意思を持った人が働き続けられる職場、つまり労働環境のユニバーサルデザインが必要である。【土木学会論説2015.112 松井弘氏】#若手PU #土木の日	102
個人のライフスタイルを尊重しながら仕事をして行くには、自分の裁量で仕事ができること、つまり従属型労働から独立型生産に転換することが必要であり、これができて初めて、自由度が高く柔軟な働き方が実現できる。【土木学会論説2015.112 松井弘氏】#若手PU #土木の日	134
若者の育成には、一人で投げ出し悩みながら覚えさせる教育ではなしに、原理原則を教え、自ら考えさせる、時には痛みと苦しみを体感させる、優しい中にも時には厳しい人材教育が必要ではないだろうか。【土木学会論説2015.112 松井弘氏】#若手PU #土木の日	127
若い時の成功体験や失敗体験は、実際に経験した者しか得られない宝物であり、決して忘れることの無い、教科書となる。【土木学会論説2016.3 柿谷達雄氏】#若手PU #土木の日	88
現場における技術者として、様々な人との出会いが、マネジメント力を培い、仕事を面白くした。多くの学生の皆さんが、現場技術者のやりがいと面白さを理解し、魅力を感じ、将来の建設業を担ってくれることを心から願っている。【土木学会論説2016.3 柿谷達雄氏】#若手PU #土木の日	138
自身の寿命を遥かに超えた未来において人々の命と暮らしを守り続けるという観点で次世代育成をとらえるべきであると考えます。その意味で次世代育成は土木技術者の最も大切な仕事と言えます。【土木学会論説2016.3 須田久美子氏】#若手PU #土木の日	123
女性に限らず男性にも言えることですが、多様な働き方への対応などの遅れにより、やる気のある人材が他分野に流動している事態を止めることができません。【土木学会論説2016.3 須田久美子氏】#若手PU #土木の日	106
人々の命と暮らしを守るという使命感や情熱は、人の役に立ちたいという素朴な思いが種となり、土木の恩恵を自覚したり、尊敬できる土木技術者に出会うことで若い世代に受け継がれ、土木に関わりたいという願望につながります。【土木学会論説2016.3 須田久美子氏】#若手PU #土木の	139
日本の高い技術を習得したいと希望する学生は決して少なくはないはずである。しかし一方で、この分野で我々の存在感を、土木技術の水準の高さ(そう信じているのだが)をどのような形でアピールできているのだろうか?【土木学会論説2016.7 小長井一男氏】#若手PU #土木の日	135
専門知識の裏付けがあって、その上で数十や百を超えるようなカッコ書きの分野を跨ぐ問題を広い視野で議論できる、あるいはしなければならぬのが“土木”の世界であり、私たち会員にはその自負があるのだと思う。【土木学会論説2016.7 小長井一男氏】#若手PU #土木の日	133
現在は異なる業界で大変に活躍している知人がいる。会社を辞めることになった当時、土木の「ド」の字も、大学の名前も見たくない状況でいたと聞いた。私がその時期を経験しただけに大変に悲しく思う。【土木学会論説2016.8 山田菊子氏】#若手PU #土木の日	126
様々な理由で土木を離れる人が、いつかまた土木の近くで活躍する姿を見たい。土木学会がまわり道のキャリアを歩む人を支援するために、私は何をすべきなのかを、日々、考えている。【土木学会論説2016.8 山田菊子氏】#若手PU #土木の日	117
我々が現在築いている「人工環境」は次世代への贈りものであると同時に、現在我々が利用している「自然環境」は未来の世代からの預かりものである。【土木学会論説2016.9 依田照彦氏】#若手PU #土木の日	102
現実をつぶさに観察すると数多くの課題が見出せることを実感した。本物を見る必要性を感じた瞬間でもあった。さらに、実現可能な解を見つけ出す訓練は、課題発見方法の延長線上にあった。【土木学会論説2016.9 依田照彦氏】#若手PU #土木の日	120

E-5 土木の日 2016 企画② 輝く若手と作業着



添付資料

掲載日	紹介文(掲載案)
11/11 金	福岡市役所(入庁??年目)工学部 水工土木学科卒 「土木は将来の仕事に直結する学び。ぜひ土木の道を志して欲しい。」 福岡市役所の制服は男女共通で、環境にやさしい再生PET繊維50%以上で作られています。 #土木の日 #若手PU
11/12 土	(株)キタック 渋谷卓見さん(入社6年目)工学部 土木工学科卒 「土木で人々の生活を豊かにし、安心な街づくりに貢献したいです」 #土木の日 #若手PU
11/13 日	(株)キタック 蓮池響子さん(入社3年目)工学部 建設工学課程卒 「構造物を維持管理することの重要性や難しさを日々実感しています」 #土木の日 #若手PU
11/14 月	東京工業大学 阿久津 絢子さん(大学院博士2年生)工学研究科土木工学専攻 「橋の点検ロボットを開発してます！名前はRobinです。」 #土木の日 #若手PU
11/15 火	東京工業大学 富永理史さん(大学院修士2年生)工学研究科土木工学専攻 「大好きな橋を安全に使うための研究で土木に貢献します！」 #土木の日 #若手PU
11/16 水	戸田建設(株) 畑 朋宏さん(入社10年目)工学研究科 土木工学専攻修了 「土木の仕事には、多くの人の知恵と工夫と情熱が詰まっています。」 #土木の日 #若手PU
11/17 木	戸田建設(株) 一藤雪乃さん(入社3年目)工学研究科 建築都市環境学修了 「施工管理をしています。あと少しで地下駐輪場が出来上がります！」 #土木の日 #若手PU
11/18 金	(株)安藤・間 天童涼太さん(入社4年目)理工学部 土木工学科卒 「情熱と誇りを持ち、これからの土木建設業界を盛り上げます。」 #土木の日 #若手PU
11/19 土	(株)安藤・間 スエ ズインユさん(入社4年目)工学部 社会環境工学科卒 「技術・人との繋がり・協力があって、完成の喜びを味わえるのは土木の魅力」 当社の作業着は白に近い色なので、女性も着用しやすいものとなっています。 #土木の日 #若手PU
11/20 日	清水建設(株) 牛田洋介さん(入社10年目)情報理工学研究科 情報環境学専攻修了 「土木の仕事は、未来を創造する誇りある仕事です。子供・孫世代につながるよう頑張ります。」 今年から新ヘルメットに変わり、通気性が向上・軽量化しました。 #土木の日 #若手PU
11/21 月	国土交通省 田中 収さん(入省10年目)工業高校 土木課卒 「私たちの生活に欠かすことのできない道路。その整備や管理に携わる仕事をしたいと、国土交通省を選びました。今は皆様が安心して道路を利用できるよう、毎日道路パトロールに励んでいます。」 #土木の日 #若手PU
11/22 火	国土交通省 甲斐田 千枝さん(入省8年目)高専 環境都市工学科卒 「河川の維持管理、改修の現場で日々奮闘中です！！」 作業着(TEC服)を着用して現場に行くと、気が引き締まります！ #土木の日 #若手PU
11/23 水	三井住友建設(株) 金子桃枝さん(入社2年目)工学部 建設工学科卒 「橋の現場で仕事をしています。いつもは何気なく通っている橋やトンネルなどに、少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。」 2年目にしてなんとなく作業着に愛着がわいてきています(笑) #土木の日 #若手PU
11/24 木	(株)奥村組 住友千紘さん(入社3年目)工学部 都市デザイン工学科卒 「工業高校時代からモノ造りの面白さを学び、建設業界に入りました」 作業着は2007年の創業100周年を機に現在のデザインに。生地には服やペットボトルの再生品を使用しています。 #土木の日 #若手PU
11/25 金	(株)奥村組 辻 清仁さん(入社7年目)工学研究科 ソーシャルデザイン専攻修了 「豊かになった時代だからこそ、土木の必要性をアピールしたい。」 作業着は吸湿性・速乾性に優れ、ズボンのウエストは±3cmの調節ができます(大変ありがたい)。 #土木の日 #若手PU

掲載日	紹介文(掲載案)
11/26 土	東日本旅客鉄道(株) 久保木 利明さん(入社15年目)生産工学部 土木工学科卒 「“きのうのすごいをあしたのふつうに。”変えていく仕事に魅力とやりがいを感じています。皆様に安心して使っていただける鉄道を目指してこれからも真摯に取り組んでまいります。」 #土木の日 #若手PU
11/27 日	東日本旅客鉄道(株) 鈴木 綾さん(入社5年目)理工学研究科 土木工学専攻修了 「活気のあるまちをつくりたいと思い土木を志しました。まちの顔である『駅』をより魅力的なものにするため日々努力しています。」 #土木の日 #若手PU
11/28 月	東京急行電鉄(株) 須藤晋介さん(入社4年目) 「かねてより憧れていた鉄道土木工事に携わっています。安全に工事を進めていきます。」 作業着には反射材が織り込んであり、夜間でも目立つ工夫がされています。 #土木の日 #若手PU
11/29 火	番外編！自民党 参議院議員 佐藤 啓さん 「土木工事は、大きく言えば、「大地の彫刻」。地球に作品を残す気持ちで、安全で強靱な“作品”をお造り下さい。」 参議院から貸与される防災服は、災害視察の時などに着用します。 #土木の日 #若手PU
11/30 水	鹿島建設(株) 畑中昭人さん(入社4年目)理工学部機械工学科卒 「ダイナミックな機械で構造物を作る、毎日が刺激的な環境です。」 作業着はDCブランド“PASHU”の細川伸氏によるデザインで、機能性・安全性に優れ、オフィスや通勤でも違和感なく着用できます。 #土木の日 #若手PU
12/1 木	パシフィックコンサルタンツ(株) 勝木安美さん(入社1年目)社会理工学研究科 社会工学専攻修了 「多くの人に愛される公共空間をデザインしたいと思います！」 作業着は機能性が高く、現場作業に最適の作業着です。 #土木の日 #若手PU
12/2 金	パシフィックコンサルタンツ(株) 野村直人さん(入社1年目)創造理工学研究科 建築学専攻修了 「既存の土木の枠組みを超えていく仕事を創り出せるよう精進します！」 #土木の日 #若手PU
12/3 土	清水建設(株) 内田加苗さん(入社8年目)工学研究科 土木工学専攻 「土木に入職する女性の数が年々増えてきているので、嬉しいです！」 女性用の作業着(透けない!)や安全帯(軽量!)等あり、快適な作業服と装備になっています。 #土木の日 #若手PU
12/4 日	三井住友建設(株) 川根昌也さん(入社4年目)農学研究科卒 「橋梁の設計・施工を担当しています。現場のスケールの大きさが土木の魅力の一つです！」 作業着は動きやすさ抜群。現場での仕事を支えてくれる強い味方です。 #土木の日 #若手PU
12/5 月	首都高速道路(株) 吉川真央さん(入社3年目)理工学部 都市環境学科卒 「日本の素晴らしい土木技術に携われていることを誇りに思います。」 #土木の日 #若手PU
12/6 火	首都高速道路(株) 高島知之さん(入社8年目)工学研究科 市民工学専攻修了 「私が土木に興味を持ったきっかけは、渋滞や交通の流れといったソフト面からでした。ハード面(構造物)だけでなく土木の魅力も広めていきたいです！」 #土木の日 #若手PU
12/7 水	東日本高速道路(株) 松本綾佳さん(入社2年目)都市イノベーション学部卒 「東北の厳しい冬に備え、準備万端です！」 作業着は、複数の候補の中から社員の投票で決まりました。ポケットが多く、背面には安全のため反射材が付いており、機能的なつくりとなっています。 #土木の日 #若手PU
12/8 木	東日本高速道路(株) 小泉公佑さん(入社1年目)都市環境科学研究科 都市基盤環境学域修了 「土木の日を通して土木事業への理解をさらに深めていきたいです。」 ブランドカラーであるネクスコグリーンが印象的な落ち着いた雰囲気の作業着です。 #土木の日 #若手PU

掲載日	紹介文(掲載案)
12/9 金	(独)鉄道・運輸機構 高橋 悠一郎さん(入社11年目)生産科学研究科 環境システム工学専攻修了 「建設コンサルタントに勤める父の影響で土木業界に。ありがとう、父と土木。」 #土木の日 #若手PU
12/10 土	大阪府 永江秀充さん(入社10年目)工学部 地球総合工学科 土木工学コース卒 「府民生活が豊かになるインフラ整備を行っていきたいです。」 #土木の日 #若手PU
12/11 日	大阪府 児島直美さん(入社14年目)建設システム工学科卒 「府民のみなさまに笑顔を届けます。」 #土木の日 #若手PU
12/12 月	(株)日本ピーエス 松浦 葵さん(入社2年目)工学部 環境建築工学科卒 「歴史と心に残る橋づくり。今日も元気いっぱい頑張ります！」 夏用の作業着は通気性がよく、涼しくて着心地がよいです。 #土木の日 #若手PU
12/13 火	(株)日本ピーエス 野末雄也さん(入社7年目)理工学部 建築学科卒 「地図にのるとても誇りあるお仕事です」 現場作業では持ち物がいっぱいです。野帳(ノート)、電卓、カメラや携帯電話など。それに対応すべく 上着にはポケットが5つもあり、収納便利です！！ #土木の日 #若手PU
12/14 水	国立研究開発法人 土木研究所 百武壮さん(入所8年目)理工学研究科 応用化学専攻修了 「土木構造物の点検に役立つセンサー材料を開発しています」 #土木の日 #若手PU
12/15 木	国立研究開発法人 土木研究所 川島陽子さん(入所3年目)生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻 「アスファルト&コンクリート舗装の長寿命化のため研究しています」 #土木の日 #若手PU
12/16 金	(株)村尾技建 五十嵐 真さん(入社1年目)環境土木科 都市工学コース卒 「人々の生活を豊かにする‘土木’の仕事が私の誇りです。」 #土木の日 #若手PU
12/17 土	(株)村尾技建 草野 亘さん(入社3年目)理学部 地質科学科卒 「地質調査を行っています。これからも土木分野で地域・社会に貢献するため日々精進しています。」 #土木の日 #若手PU
12/18 日	(独)鉄道・運輸機構 小松 有由美さん(入社3年目)理工学部 土木工学科卒 「無事故無災害！」 作業着は紺色ですが、袖口の裏もポケットのフタの裏も、実はエンジ色です。 #土木の日 #若手PU
12/19 月	東京都庁(入都3年目)工学部市民工学科卒 「安全で暮らしやすいまちづくりのため、開発事業に関して、現場を調査し、事業者や関係部署と調整して、審査基準により審査しています。教科書に載っていない、生のまちづくりの過程を実感しています。」 #土木の日 #若手PU
12/20 火	太平洋セメント(株) 井口 舞さん(入社2年目)工学研究科 地球環境デザイン学専攻修了 「土木は私達の生活を支える縁の下での力持ち的存在。技術開発を通じ、その魅力をアピールしていきたい。今はコンクリート舗装普及に向けた技術開発をしています。」 #土木の日 #若手PU
12/21 水	太平洋セメント(株) 落合昂雄さん(入社3年目)工学研究科 創成シミュレーション工学専攻修了 「日常生活を支える社会インフラのスケールの大きさに魅力を感じ、土木のみちを志しました。」 作業着は機能性が高く、現場・オフィスと場所を選ばずに着用できます。 #土木の日 #若手PU
12/22 木	(株)大林組 竹之内 佑太さん(入社2年目)工学部 土木工学学科卒 「陸と海の工事を経験し、土木工事のスケールの大きさを肌で実感した一年目でした。」 カジュアル性や若いイメージを重視してデザインされた作業着です。 #土木の日 #若手PU
12/23 金	長崎県 本嶋太博さん(入庁3年目)工学部 構造工学科卒 「『夜景に負けない若手の輝き』をモットーに下水道事業推進のため日々尽力しています。」 #土木の日 #若手PU

掲載日	紹介文(掲載案)
12/24 土	鹿島建設(株)(入社6年目)工学部 土木工学科卒 「安全と品質を守るため、今日も頑張ります!」 2010年に男女兼用サイズ(主に女性向け)が3種類追加されました。従来サイズよりもウエストが細く、ストレッチが効いて、動きやすいです。 #土木の日 #若手PU

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：北海道支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・特に若手会員（正会員）を対象とした活動やイベントは支部として行っていない。
（一般会員向けに講習会や論文発表会は毎年開催）
- ・支部の活性化に向け、学生を対象とした「VISIT（職場訪問）事業」を毎年開催している。
ただし、参加者は学生会員に限定していない。学生会員は、現場見学後若手技術者との意見交換を特に希望しており、今年度から実施する。
- ・2013年度より若手技術者の交流を目的とし、「若手技術者の交流サロン」を開催している。
サロンは支部の年次技術研究発表会において開催し、学生・若手・中堅技術者がファシリテータとともに共通の話題についてWSにより議論する。2014年度は懇親会も開催した。
参加者は会員に限定していないが、研究発表会の参加者がほとんどである。

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。

- ・若手会員（正会員）の予備軍となる学生会員が全会員の約1割と少なく、人数は横ばい傾向。
- ・学生会員を増やし、学生会員から正会員への移行を促すことで若手の正会員を増やしていきたいが、PRが上手くいっておらず土木学会会員となることのメリットが十分に伝わっていないと感じている。
- ・会員メリットが十分に伝わって無いこともあり、就職後会員を継続する学生会員が少ない。

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・土木学会会員になることのメリットをよりPRして頂きたい。
- ・「若手技術者の交流サロン」でのアンケート調査では、学校と実社会の接点の場となること、社会人と学生など様々な人の交流の場を作ること、学生を巻き込んでイベントを実施すること、学会活動への参加が所属組織から評価されるようにすることなどの要望があり、対応を検討頂きたい。

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・特にありません。

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・支部として各委員の活動状況が把握できていないため、本部から支部の方にも情報提供頂けると委員の活動を支援できる部分もあるかもしれません。

参考：平成 26 年度北海道支部活動内容

開催日時	内容	開催場所
6月17日	講演会	北見工業大学
6月24日	講演会	函館工業高等専門学校
7/3日～6日	土木コレクション2014	札幌駅前地下歩行空間
7月5日	土木カフェ	札幌駅前地下歩行空間
7月5日	映画会	札幌駅前地下歩行空間
7月15日	札幌市生涯学習講座[市民カレッジ]共催	札幌市生涯学習センター
7月26日～27日	体験学習(共催)	苫小牧工業高等専門学校
7月29日	市民のための見学会(共催)	
7月31日	親子で土木の現場めぐりバスツアー	白川浄水場 送水管新設工事、定山溪ダム、北海道横断自動車道余市～小樽間建設工事現場
8月2日	おもしろ科学実験(後援)	北見工業大学
8月9日～10日	体験学習会(共催)	函館工業高等専門学校 函館市内近郊
8月31日	オープンラボin伊達(共催)	伊達市防災センター
9月中旬	河川環境学習体験フェスタ2014(共催)	室蘭市内河川
9月20日	オープンラボin室蘭(共催)	室蘭工業大学
10月中旬	PRイベント・現場見学会(市民対象)(共催)	北見市芸術文化センターホール 近隣工事現場
10月17日	VISIT(職場訪問)事業	札幌大橋、新石狩大橋
10月18日	東日本大震災調査成果の講演会	函館工業高等専門学校
10月18日～19日	土木に関する展示(共催)	苫小牧工業高等専門学校
10月18日～19日	土木技術体験講座 土木技術紹介+「ドボククイズ」(共催)	函館工業高等専門学校
10月18日	土木学会北海道支部選奨土木遺産見学会	【見学場所】張碓橋、小樽港/斜路式ケーソンヤード、小樽港北防波堤、小樽市総合博物館、奥沢水源 地、北海道横断自動車道「余市～小樽間」天狗山トンネル工事、北の釐酒造・酒泉館
10月26日	科学実験教室(共催)	苫小牧市
11月上旬	映画会(高校生対象)(共催)	北見工業高校
11月上旬	エコツアー2014(共催)	室蘭市日本製鋼所 PCB情報センター
11月中旬	トラスコンテストin室蘭(共催)	室蘭工業大学
11月12日～18日	書道展(小中学生対象)(共催)	展示: NHK北見放送局 表彰会場: 北見工業大学
11月16日	公開講座「橋を作ってみよう」(共催)	函館工業高等専門学校
11月15日	「土木の日」映画会	札幌駅前地下歩行空間
11月16日～18日	「土木の日」映画会	札幌駅前地下歩行空間
11月18日	選奨土木遺産認定書授賞式	ホテル札幌ガーデンパレス
11月18日	「土木の日」講演会	ホテル札幌ガーデンパレス
1月31日～2月1日	年次技術研究発表会	室蘭工業大学
1月31日	若手土木技術者交流サロン	室蘭工業大学

※ハッチは問 1 で記載したイベント

締切：7月17日(金)18時 事務局 勝濱(katsuhama@jsce.or.jp)までお送りください。

※ 第一回委員会で配布します。問1～2を中心に、6分程度でご説明をお願いします。

※ 支部としての意見をお願いいたします。また問3以降は各委員の個人意見も歓迎です。

その場合、支部全体の意見と区別できるよう、意見の最後に(委員)とご記載ください。

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名： 東北支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・実施しています。2013 年は 11/27, 2014 年は 3/6, 4/18, 10/10-11 (土木技術者女性の会と共催), 2015 年は 7/10 (土木技術者女性の会と共催) に実施。また 10/9-10 には日建連・土木技術者女性の会共催で見学会を実施予定です。
- ・100 周年事業「若手土木技術者の交流サロン」は東北支部より「若手土木技術者の交流カフェ」の展開」として提案して採択されたものです。

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。

- ・どのセグメントを対象にするかについては支部内でも色々な意見があります。(自由応募などとはしにくい、現状では支部幹事などに出席者を推薦していただく事が多い。)
- ・若手会員が少ないと感じています(根拠資料は見つかりませんでした)。会員増加や活動の活発化の為には他の学協会との連携が必要と考えている。
- ・

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・支部の人的・経済的なリソースや歴史・経緯に培われたスタイルに基づいた活動にご理解頂くとともに、ご協力いただけると大変助かります。
- ・企画などの実施に当たり、事前・事後の PR にご協力いただけると助かります(Facebook や土木学会誌などの独自メディアや報道機関等への連絡・周知など)。
- ・

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・
- ・
- ・

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・問2の回答と関連しますが、土木技術者女性の会との共催とするととても良い活動となると感じています。女性の会の会員の方々は非常にパワフルでまとまりのあるセグメントで、プラス学生、プラス他学協会若手、などとするとも良いかもしれません(委員)
- ・

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：関東支部

問１ 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・「若手交流サロン」
- ・「土木カフェ」
- ・「コンクリートカヌー大会」

問２ 問１の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点がありますか。

- ・開催部会（広報部会、交流部会）に参加している先生の所属する学校からの参加者に偏る。
- ・もっと多くの大学からの参加を促す必要がある。

問３ 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・若手会員に上記、活動内容を広くPRする役割を担って頂きたい。

問４ 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・若手技術者のネットワークを構築する方法について（委員）

問５ その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・
- ・
- ・

締切：7月17日（金）18時 事務局 勝濱（katsuhama@jsce.or.jp）までお送りください。

※ 第一回委員会で配布します。問１～２を中心に、６分程度でご説明をお願いします。

※ 支部としての意見をお願いいたします。また問３以降は各委員の個人意見も歓迎です。
その場合、支部全体の意見と区別できるよう、意見の最後に（委員）とご記載ください。

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：関西支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・ぶら土木（学生・若手技術者対象）
- ・キャリア支援（学生対象）
- ・大規模土木プロジェクト実地研修 ―構想から設計・施工まで体感する―（学生対象）
- ・コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本に関する研修会（若手技術者対象）

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。

・講習会等は業務として参加できるが、ぶら土木やキャリア支援は職場や授業を休んでとなるので、参加しにくい。

- ・
- ・

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・若手公務員が会員であるメリットを感じられる活動の実施→発注者と受注者との関係から交流することが厳しく制限される中で、土木学会を介しての交流、共同勉強会等の実施
- 【委員】

- ・

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・
- ・
- ・

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・全国大会等に自己啓発のために参加するにも、参加費用が高すぎる。【委員】

- ・
- ・

締切：7月17日（金）18時 事務局 勝濱（katsuhama@jsce.or.jp）までお送りください。

※ 第一回委員会で配布します。問1～2を中心に、6分程度でご説明をお願いします。

※ 支部としての意見をお願いいたします。また問3以降は各委員の個人意見も歓迎です。
その場合、支部全体の意見と区別できるよう、意見の最後に（委員）とご記載ください。

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：中国支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・若手技術者交流サロン(平成 26 年度支部研究発表会)「次世代の土木技術者が未来社会と“私の貢献”」 パネルディスカッションを実施。
- ・企業による技術紹介(平成 27 年度支部研究発表会) 学生向けの中国地方を拠点とした企業による技術・企業紹介
- ・今年度若手交流行事(企画中)

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点がありますか。

- ・パネルディスカッションは、話題設定や事前準備に時間と労力を要するため、パネリストの選定を含め、毎年の実施は、運営が難しい。
- ・継続的な運営を行うための、中心となる若手会員による活動が必要である。

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・各支部の若手会員の活動について、学会誌を中心として広報し、情報共有を図る必要があると考える。
- ・主体的な学会活動(講習会参加を除く)に参加するための窓口の提供。(委員)

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・報告事項：若手技術者交流サロンの実施内容
- ・議論したい事柄：若手会員の人的ネットワークの形成について(委員)

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・若手会員の活性化は、まずは懇親会的な会員同士の交流からスタートするのではないかと(委員)

締切：7月17日(金)18時 事務局 勝濱(katsuhama@jsce.or.jp)までお送りください。

※ 第一回委員会で配布します。問1～2を中心に、6分程度でご説明をお願いします。

※ 支部としての意見をお願いいたします。また問3以降は各委員の個人意見も歓迎です。その場合、支部全体の意見と区別できるよう、意見の最後に(委員)とご記載ください。

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：四国支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・「若手技術者の交流サロン」を平成26年5月31日に徳島大学にて実施。
- ・「若手技術者の交流サロン」を平成27年5月23日に香川大学にて実施。
- ・

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。

- ・活動、イベント等へ参加していない若手会員に対しての取り組み方。
- ・
- ・

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・活性化を促進する活動。(個人の意見)
- ・四国支部に集まった意見は【別紙1】に記載。
- ・

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・土木学会若手会員パワーアップ小委員会の活動報告と課題について。(個人の意見)
- ・四国支部に集まった意見は【別紙2】に記載。
- ・

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・参加させていただくことを楽しみにしております。
- ・
- ・

締切：7月17日(金)18時 事務局 勝濱 (katsuhama@jsce.or.jp) までお送りください。

※ 第一回委員会で配布します。問1～2を中心に、6分程度でご説明をお願いします。

※ 支部としての意見をお願いいたします。また問3以降は各委員の個人意見も歓迎です。
その場合、支部全体の意見と区別できるよう、意見の最後に(委員)とご記載ください。

【別紙 1】

問 3 に対して、四国支部に集まった意見

- ・外国への派遣事業の実施。(新旧の社会基盤施設の見学)
- ・土木学会の若手会員の活性化を通じて、土木全般のイメージアップを図り、土木に関わる人材の増加や、若手会員の確保に繋げてもらいたい。
- ・若手会員の増強や学会離れを抑制する必要がある、若手技術者が学会へ加入することへのメリットやインセンティブをPRすること。
- ・「土木」の魅力、将来性についてのPRし、若手自らが積極的に活動していくようにその意義を示すこと。
- ・産官学の若手が集える場の提供。スポーツ大会でも可。
- ・土木学会は、「選奨土木遺産」「どぼくフェスタのイベント」など、広報ツールを多数所有しており、若手会員によって、これらの広報ツールが活用されること。
- ・中学生、小学生向けの活動を若手会員が行い、理工学離れを止める。また、女性の理工学への勧誘。
- ・インフラ施設（構造物）の建設又は維持管理の実際の現場を活用した、工事等の発注者・施工者と学会との協同研究または学会継続教育（CPD）等を推進して欲しい。
- ・民間企業所属の若手会員の増加策。委員会などの活動の場がほぼない 20 代から 30 代前半にかけては、学会に所属することのインセンティブがほとんどない状況にある。実質的に会費＝学会誌購読料となっているわけだが、毎月 1000 円は少々高すぎる。既に検討されていると思うが、会員企業所属者に対する割引や、最新号の電子書籍化（スマホ or タブレット配信）などの施策により学生会員レベルかそれ以下の負担にできないだろうか。既存若手会員の活動活性化も重要であるが、会員確保の方が活性化には効果的と思う。
- ・工業高校教員は昨今の増加策から比較的若手が多いので、彼らの情報発信機会の拡大。
- ・建設業（土木工事）のおもしろさ・やりがいを若手会員が積極的に教宣する。
- ・会員を増やすこと。
- ・若手会員を対象とした会費の値下げ。
- ・月刊誌のデータ化による、経費の削減。
- ・若手会員が興味を持つようなイベントの開催。
- ・学・官・民の若手技術者の連携・交流を深める場の提供（現場見学会、サロン、懇親会）
- ・建設産業の魅力の発信と入職者を増やすこと。
- ・土木の将来性、重要性のPRが必要。
- ・学生、一般市民の土木業界に対するイメージアップ施策の強化。
- ・若手会員の興味を引く話題や情報の提供。（例：資格取得に関する情報）
- ・講習会、現場見学会の更なる充実。
- ・メールマガジンやSNSなどを活用した様々な情報発信。

【別紙 2】

問 4 に対して、四国支部に集まった意見

- ・ 女性技術者を増やす方策について。
- ・ 若手会員の教育方法について。
- ・ 情報交換や相談等で全国の若手技術者のネットワークは必要と思われ、これをどう負担無く持続していくかについて。
- ・ インフラ施設の老朽化対策、施設改造、再開発に関する技術の動向について。
- ・ 女性技術者支援、子育て世代の若手技術者支援について。
- ・ 若手技術者の土木離れへの歯止めについて。
- ・ 土木業界全体へ入職が増えるような対策について。

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 第一回委員会
各支部における活動および課題・問題点アンケート

支部名：西部支部

問1 支部で若手会員を対象とした活動・イベント等を実施していますか。

- ・西部支部が開催している若手会員向けの活動・イベントは以下のとおり。
 - 日本－韓国－台湾ジョイントセミナー
 - 西部支部研究発表会
 - 西部支部奨励賞
- ・また、土木への関心を高め、将来の若手会員確保につながる子供向けのイベントも開催
 - おでかけ講座
 - 土木の日イベント
 - 親子現場見学会
 - 支部活性化のための新規事業（ツタエルドボク café）

問2 問1の活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。

- ・問1の活動に関して
現在の活動を継続することには特に問題なし。ただし、更なる活性化のために活動の規模・回数を増やすことは、費用及び業務量の増加を伴い困難。
- ・若手会員全般について
学生会員数は西部支部管内で全国大会が開催された平成21年までは増加していたが、それ以降は減少傾向にある。

（問3以降の回答は委員個人の意見）

問3 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

- ・多忙な若手会員に学会活動に携わってもらうために、何らかのメリットを提供できないか。（やりがい、技術者としての評価等）
- ・支部長・幹事長を当社から出しているが、本部との連絡調整、会議資料準備等の実務を行う担当者（若手会員）の負担が大きい。

問4 全国大会研究討論会で、報告および議論したい事柄を教えてください。

- ・所属組織のバックアップのあり方（全国大会参加費・論文投稿費用の負担など）

問5 その他ご意見等ありましたらお願いします。

- ・特になし

第 1 回若手会員パワーアップ小委員会 ～若手に対する北海道支部の活動内容及び問題点・課題～

1. 若手に対する北海道支部の活動

- 北海道支部として特に若手正会員に限定した活動やイベントは行っていない。一般会員向けに講習会や論文発表会は毎年開催している。
- 平成 25 年度より若手技術者の交流を目的とし、「若手技術者の交流サロン」を開催している。サロンは支部の年次技術研究発表会において開催し、学生・若手・中堅技術者がファシリテータとともに共通の話題について WS により議論する。2014 年度は懇親会も開催した。参加者は会員に限定していないが、研究発表会の参加者がほとんど。
- 会員のみを対象とした事業ではないが、北海道支部では Visit（訪問）事業を平成 20 年度より実施している。

1) Visit（訪問）事業とは？

学生会員の増強を目指し、平成 19 年度に学生会員を対象としたニーズ調査を実施した結果、土木学会に対する感想や期待することが明らかとなった。それら課題・ニーズに対応し、学生会員を増強することを目的として平成 20 年度より企業訪問や就業体験事業を開始した。広報用のポスターも学生広報委員がデザインし、北海道支部が印刷、学校等へ配布している（巻末参照）。

<H19 年度アンケート結果概要(土木学会に対する感想や期待)>

- 学会誌によって他部門の情報を得ることができてよい。
- 研究発表やプレゼンの機会が多く、良い経験となった。
- 専門的な研究をしている人々と知り合う機会があつて良かった。
- 入会するメリットが感じられない。
- 会費が高い。
- 技術・知識習得・インターンシップ機会を提供してほしい。

- 専門課程で学ぶ科目の選択サポート
- 就職活動のサポート

2) Visit 事業の意義と目的

北海道支部として Visit 事業実施における学生と企業側のメリットを以下のように考えている。

- ① 企業の PR 効果：学生は事業への応募と参加を通じて、企業の業務内容や求める人材等を把握できる。また、そのような機会を提供することは企業側のイメージアップにもつながる。

- ② **優秀な人材の発掘**：学生が興味を持つ点や就業意欲を高める方法等が見出せれば、優秀な人材の発掘に結びつく採用戦略が構築可能となる。
- ③ **専門課程の科目選択のサポート**：専門課程の科目選択において、より明確なビジョンが見えてくる。
- ④ **学生の職業観・就労意識を形成・向上**：実務を見学・体験することで職業観や就労意識を高めることができる。企業が求めるよう建と職務内容を明示し、学生と話し合いながら現場のニーズにあった意見交換が可能となる。

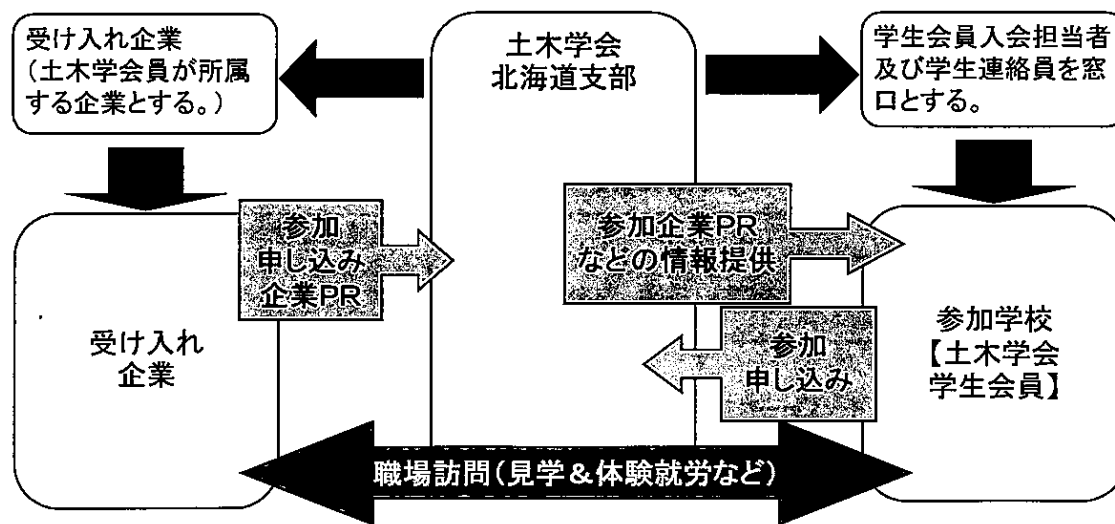


図 Visit 事業の概念図

3) Visit 事業の実施状況

見学箇所は、北海道支部で候補箇所を学生に提供し、選んでもらっている。日程調整や参加者募集、名簿作成等は学生が企画・実施している。各年度の Visit 事業実施状況は、下表の通り。

表 Visit 事業実施状況 (1/2)

	訪問先
20 年度	市役所、ゼネコン、コンサル
21 年度	札幌駅前地下通路現場 札幌大橋下部工事現場 独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所 豊平川床止工事現場
22 年度	函館江差自動車道現場見学 ウトナイ湖野外セミナー 北海道開発技術センター会社訪問 当別ダム建設工事現場
23 年度	北海道新幹線建設現場 倶多楽湖公園線改築工事現場 白川第 3 送水新設工事現場 新送毛トンネル施工現場 網走港ケーソンドッグ及び網走港湾

※ゴシック：現場

表 Visit 事業実施状況 (2/2)

	訪問先
24 年度	札幌大橋工事現場 倶多楽湖公園線改築工事現場 函館港北埠頭改修工事、函館漁港修復工事 北海道横断自動車道橋梁上部工事現場、土の安定処理工施工、排水性舗装施工
25 年度	道路交通監理室（国土交通省） 独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所 倶多楽湖公園線改築工事現場 北海道横断自動車道工事現場、三豊橋上部工事現場
26 年度	札幌大橋上部工現場 新石狩大橋下部工現場 JR 北海道ボックスカルバート現場

※ゴシック：現場

学生委員や参加学生からは、これまで以下のような意見が得られている。

- 土木系の学問に取り組む意欲が高まった。
- 職業観の形成・就労意識の向上に役立った。
- 現場等で働く若手技術者（社会人 1～2 年目）の話を聞きたい（交流会の開催）。
- 交流会は、将来の進路決定や就職活動、心構え等学生に役立つ場としたい。
- 土木学会から各大学へ Visit 事業等に対する協力要請を出して頂けると助かる。
- Visit 事業の HP を見るのは、やる気のある学生だけなので報告書を各学校に配布すれば広報活動になるのではないか。

2. 北海道支部における問題点・課題

- 若手会員（正会員）の予備軍となる学生会員が全会員の約 1 割と少なく、人数は近年横ばいで推移している。
- 学生会員から正会員への移行を促すことで若手の正会員を増やしていきたいが、PR が上手くいっておらず会員となることのメリットが十分に伝わっていないと感じている。
- 会員となるメリットが十分に伝わっておらず、就職後継続する学生会員が少ない。

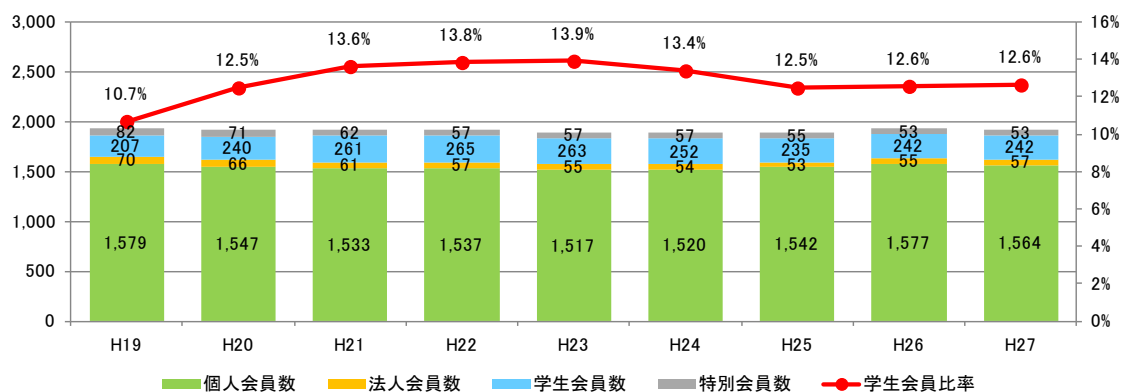


図 北海道支部会員数と学生会員比率の推移

※各年 3 月 31 日時点

【参考】Visit 広報ポスター

土木学会北海道支部主催
VISIT …って何？

VISIT とは…
学生主体で土木を
感じる体験会

土木を近
よい身近に
土木が身近に
なれば道路に
関心も湧いて
くるものがある

現場の生の声を
現場で働く
先輩の声を
直接聞けるから
就職後のイメージ
もバッチリ!!

学生主体だから自分が行きたい
現場をリクエストするのも OK!!
学生主体の見学会

QR コード
からも

気になったらアクセス!!!
<http://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/visit/>



Japan Society of Civil Engineers-Hokkaido sponsored by
VISIT



<http://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/visit/>



土木学会 若手会員パワーアップ小委員会

第1回委員会資料

平成27年7月22日
西部支部委員 杉田 幸浩
(西日本高速道路(株)九州支社)

1

西部支部の若手会員向け行事

- 日本・韓国・台湾ジョイントセミナー
 - 西部支部と大韓土木学会釜山支部間の技術交流協定に基づき、2006年から隔年開催
 - 2012年からは台湾公共工程学会も加入
 - 昨年のセミナーでは日本から学生13名が参加し、英語による発表・討論を行った
- 西部支部研究発表会
 - 大学等の研究成果を発表するもので、発表件数は例年400編程度
 - 発表者は学生会員・若手会員が中心。規程上、優秀論文賞の対象は35歳以下
- 西部支部奨励賞
 - 土木工学に関連した学術研究・技術開発等において優れた活動を行った若手研究者・技術者を表彰するもので、対象は35歳以下



2014年ジョイントセミナー（釜山市 釜慶大学校）



2014年研究発表会（琉球大学）

2

西部支部の未来の？若手会員向け行事

- おでかけ講座
 - 大学の先生方が小学生～一般向けに土木について分かりやすく解説
 - 西部支部では、土質・構造・河川・環境など15講座を用意
- 親子見学会
 - 小学生と保護者を対象に、夏休みに日帰りの見学会を開催（倍率2～3倍）
- 土木の日イベント … 別紙参照
- 支部活性化のための新規事業（ツタエルドボクcafé）
 - 九州橋梁・構造工学研究会 ツタエルドボク研究分科会と共同で、インフラの重要性を一般市民に広くツタエルための取組みを実施
 - 今年3月には福岡市の雨水貯留池を「地下神殿」に見立て、小学生が探検するイベントを開催（親子50組の募集に対し529組の応募があり、倍率は約10倍）



親子見学会（九州新幹線 俣坂トンネル）



ツタエルドボクcafé（山王公園地下貯留池）

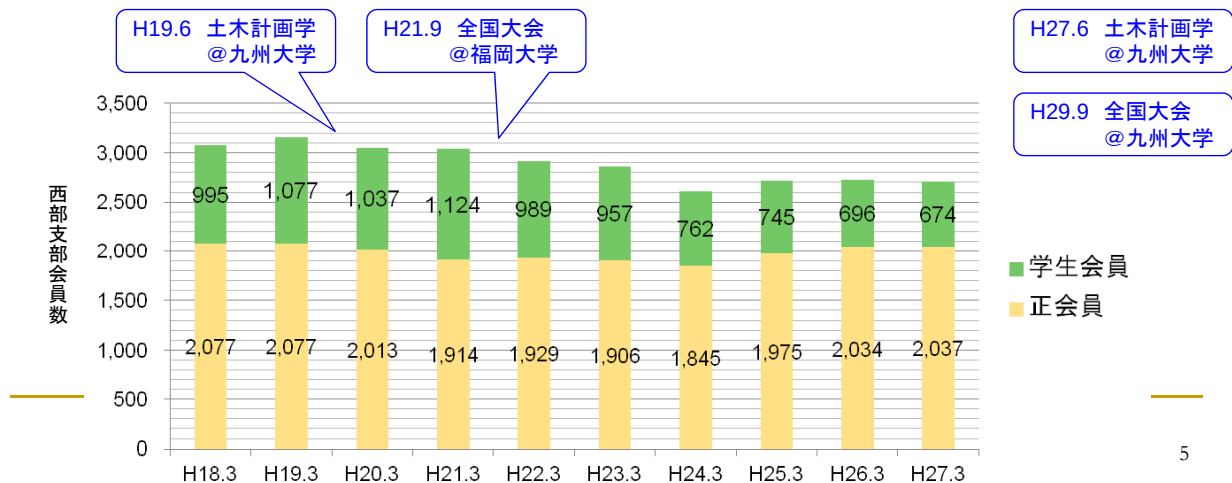
3

土木の日関連行事

福岡地区	10/19	土木の日ファミリーフェスタ
北九州地区	10/25	建設業のおもしろさを伝える講演会
	11/16	「強い橋を作ってみよう！」 in 九州工業大学
	11/24	公共工事現場見学バスツアー
佐賀地区	10/25-26	土木フェア2014
長崎地区	11/8,15,16,22	DOVOCフェア2014
熊本地区	7/21	熊本港フェスティバル
	11/2	みなと八代フェスティバル
	11/8-9	デザコン2014 in やつしろ
		その他：プロカメラマンと巡る土木の魅力発見！親子バスツアー、土木遺産歴訪バスツアー、絵画・写真コンクール、化石発掘ツアー
大分地区	11/15	親子と土木のふれあい見学会
	11/21-22	写真展示会
宮崎地区	11/21	土木の日ミニ講演＆現場見学
	11/29-30	土木の日パネル展
鹿児島地区	11/15	'14 土木フェスタ
沖縄地区	11/19	「土木の日」シンポジウム

更なる活性化のための課題

- 財源の確保
 - イベント開催に要する費用（研究発表会：365万円、ツタエルドボクcafé：60万円）
 - 支部協賛企業の減少（H18.3 118社 → H27.3 58社）
- スタッフの負担軽減
 - 西部支部では、約50名の幹事が通常業務の合間に学会活動をしている
 - 更なる活性化のため活動を追加する場合は、幹事の負担軽減が不可欠
- H21全国大会後の学生会員の減少傾向



5

所属組織による学会活動のバックアップ (西日本高速道路㈱の例)

- 技術立社を目指すために、土木学会などの学会活動を奨励
- 論文投稿・発表に対する補助
 - 論文の投稿・発表を奨励するため、論文投稿料および学会の年会費を会社負担（筆頭著者のみが対象）
- 社内発表会の内容を土木学会全国大会と統一
 - 社内の研究発表会の論文様式・発表時間等を土木学会全国大会と統一
 - 全国大会でも同様式の論文・発表資料を使用できるため、参加が容易となる
- 資格取得時の奨励金
 - 土木学会技術者などの資格取得時に、受験費用を負担し奨励金を支給
- 全国大会研究討論会において、他組織の事例を含め整理・報告することで、組織に所属する若手会員の活動活性化につなげられないか？

6

■ 支部活動リスト(2015年度)

No.	実施日	実施時間	支部名	タイトル	概要	場所	情報リンク先	記入者
1	2015/5/23	13:10～14:50	四国支部	四国支部 若手技術者の交流サロン	子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法	香川大学	四国支部HP	佐竹委員
2	2015/7/9		中部支部	イブニングサロン	社会人と学生のワークショップ ・講演「土木技術者に求められるもの」-何を学び、何を専門にするのか- ・学生の意見聴取	東海工業専門学校	中部支部HP	菅原（事務局長）
3	2015/10/26	14:40～17:00	中部支部	中部支部「土木技術者と学生の交流会」	社会人と学生のワークショップ ・講演 ・パネルディスカッション	愛知工業大学	中部支部HP	菅原（事務局長）
4	2015/12/3		中部支部	イブニングサロン	社会人と学生のワークショップ	名城大学	中部支部HP	菅原（事務局長）
5	2015/12/7	16:40～18:50	中部支部	中部支部「土木技術者と学生の交流会」	社会人と学生のワークショップ	名城大学	中部支部HP	菅原（事務局長）
6	2015/12/8		中部支部	イブニングサロン	社会人と学生のワークショップ	名電高等学校	中部支部HP	菅原（事務局長）
7	2015/12/8	17:00～19:00	関東支部	関東支部若手交流サロン	社会人・若手技術者の相談会	土木学会本部	関東支部若手交流サロンfacebookページ	菅原（事務局長）
8	2015/12/15		中部支部	イブニングサロン	社会人と学生のワークショップ	中部大学	中部支部HP	菅原（事務局長）
9	2016/1/29	15:00～17:30	中国支部	中国支部若手交流サロン	①若手技術者による講演 15分(質疑込み) ②若手会員との座談会 1時間	広島市内	中国支部HP	佐竹委員
10	2016/1/30	15:00～17:00	北海道支部	北海道支部若手交流サロン	若手技術者とのワークショップ	北海道大学	北海道支部HP	中山委員
11	2016/3/14	12:00～13:40	関東支部	関東支部若手交流サロン	社会人・若手技術者の相談会	東京都世田谷キャンパス	関東支部HP	菅原（事務局長）

■支部活動リスト(2016年度)

No.	実施日	実施時間	支部名	タイトル	概要	場所	情報リンク先	記入者
1	2016/7/20~2016/7/22		北海道	土木コレクション2016 in Sapporo HANDS+EYES	明治から昭和にかけて近代 日本を築いてきた土木エン 지니어たちの魂が込められ た貴重な手書きの原図複写 パネル展示を通じて、広く 市民の皆さんに土木（公共 事業）が果たしてきた社会 的・歴史的役割や土木の仕 事の面白さをアピールし、 産学官関係者や一般市民に 土木に関する理解を深めて 頂きたい。	札幌地下 歩行空間		中山
2	2016/7/28		北海道	親子現場見学会	親子で現場めぐりバスツ アー「建設中の大規模施 設」をテーマに各現場の施 設を見学する。	四ツ日 地下歩道 工事、南 早来変電 所大型蓄 電ステ ム、千歳 川根志越 遊水地工 事、NE XCOの 雪氷作業 基地		中山
3	2016/8/20~2016/8/21		北海道	体験学習	中学生を対象に、身近な テーマで測量や構造力学を 利用したものづくりを体験 させ、土木への興味を高め る。	苫小牧工 業高等専 門学校		中山

4	2016/8/25		西部	親子見学会	夏休み期間中に、生活を支える「土木」への理解を深めてもらうことを目的に、小学生とその保護者を対象とし「親子見学会」を開催	佐賀、唐津市、佐賀市	http://www.wjsce.or.jp/branch/seibu/西部支部HP	岩村
5	2016/8/26		北海道	VIST 現場見学会	学生を対象にした広報活動	札幌、江別		中山
6	2016/8/28		北海道	オーブンラボin伊達	「伊達市消防・防災フェアー」において、地震、津波、洪水及び地盤崩落に関する体験学習を実施する。	伊達市防災センター		中山
7	2016/9/3		北海道	市民のための見学会	土木関連施設の見学を行う。	日高自動車道工事現場		中山
8	2016/9/24		北海道	オーブンラボin室蘭	「工大際」において、室蘭市内の一般市民を対象に、海岸構造物に係わる造波・津波の模擬実験に関する体験学習を実施する。	室蘭工業大学		中山
9	2016/10/10		北海道	科学実験教室	小学生に土木に関する科学実験を体験させ、土木への興味を高める。	イオンモール苫小牧店		中山
10	2016/10/16		西部	土木の日ファミリーフェスタ2016	「土木」とのふれあいを目的にキッズ等を対象に建設機械乗車体験等イベント開催	福岡市	http://www.wjsce.or.jp/branch/seibu/西部支部HP	岩村
11	2016/10/18		北海道	河川環境学習体験フェスタ2016	①若手技術者による講演 15分(質疑込み) ②若手会員との座談会 1時間	室蘭市内河川		中山
14	2016/10/22		北海道	さっぽろ市民カレッジ	一般の人を対象にした工事現場めぐり、講義	札幌		中山

15	2016/10下旬		北海道	PRイベント・現場見学会 (市民対象)	土木に関するPRのため、 パネル展示や子供向けの縁 日や記念品を配布する。各 分野の専門家が土木に関す る相談に応じアドバイスす る。また同時に北見近隣の 現場見学会を開催する。 一般市民を対象に、室蘭市 内にある環境産業に関わる 施設を見学し、環境への産 業による取り組みを知る機 会を設ける。	北見芸文 ホール		中山
16	2016/11上旬		北海道	エコツアー2016		室蘭市日 本製鋼 所、P C B情報セ ンター		中山
17	2016/11/18		西部	土木の日見学会	土木の日である11月18 日に小石原川ダム建設工事 等現場見学会を開催	福岡、朝 倉市	http://www.wjsce.or.jp/branch/seibu/ 西部支部HP	岩村
18	2016/11中旬		北海道	トラスコンテストin室蘭	5,6名のグループで木材を用 いてトラス橋を製作し、そ の耐力およびデザイン性を 競う。	室蘭工業 大学		中山
19	2016/11中旬		北海道	映画会（高校生対象）	土木と日常生活との密接な 関わりについて、認識さ せ、土木への関心を高める ため映画会を行う。タイト ル：未定	北見工業 高校		中山
20	2016/11下旬		北海道	PRイベント・現場見学会 (市民対象)	土木に関するPRのため、 パネル展示や子供向けの縁 日や記念品を配布する。各 分野の専門家が土木に関す る相談に応じアドバイスす る。また同時に北見近隣の 現場見学会を開催する。	近隣工事 (未 現場 定)		中山

21	2016/11/12		北海道	公開講座「橋を作ってみよう」	小中学生を対象にした模型橋の強度・デザインコンペティション、力学離れの小中学生に興味を持たせることを目的とした講座。	函館工業高等専門学校		中山
22	2016/11/18		北海道	選奨土木遺産認定書授賞式、「土木の日」記念講演会	選奨土木遺産授賞式（札幌）未定、土木の日記念講演会：演題 未定	ホテル札幌ゲアデンプレス		中山
23	2016/11/22		北海道	講習会「施工性能にもとづくコンクリートの配合設計・施工指針（2016年版）に関する講習」	コンクリートの施工性能とコンクリートの施工性能の関係をわかりやすく解説すること、製造者や施工者のみならず、発注者や設計者への浸透を図っておりま	札幌		中山



平成27年度土木学会四国支部 若手土木技術者の交流サロン

テーマ：子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法
～イクメン・イクボスも集まれ！～

主旨：日本は、出産で仕事を辞める女性が50%以上います。女性はライフステージがキャリア形成に大きくかかわっています。しかし、結婚しても出産しても、仕事を辞めなくていい生き方、仕事のスタイルがあります。女性技術者がこれから社会に出たとき、そして立ち止まったとき、どのようにすればよいのかについて情報を共有し、女性だけでなくイクメン・イクボスとの交流も深めたいと考えています。

日程：2015年5月23日（土）

時間：13:10-14:50

会場：香川大学工学部6号館2階6202教室

（〒761-0396 香川県高松市林町2217番20 TEL：087-864-2000）

受付：香川大学工学部3号館1階正面入口

参加自由、無料のオープン形式

サロンは女性男性、若手・ベテラン問わずどなたでもご参加いただけます。一般の方もご参加ください。

プログラム：

13:10-13:15 趣旨説明（内田由理子（香川高専））

13:16-13:56 子育てと仕事の体験談

講演者：（1人8分×5名）≒40分

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 子育て中の若手女性技術者 | （高松市役所 國田様） |
| 2. 子育て中の若手女性技術者 | （香川県庁 村川様） |
| 3. 子育て中の若手女性技術者 | （(株)四電技術コンサルタント 甲斐様） |
| 4. 子育て中の若手女性技術者 | （復建調査設計(株) 岩井様） |
| 5. イクメン | （香川高等専門学校 大賀様） |

13:57-14:34 フリートーク

14:35-14:45 ベリーショートスピーチ（1人1分×10人予定）

～次世代を担う工学女子達が発信！～

参加校：高知高専、香川高専、徳島大学、愛媛大学、香川大学

1組織2名まで（1人1枚ポスター）、12時までに掲示しておく。

発表内容：研究成果発表

研究計画、夢や野望、土木女子の活動など

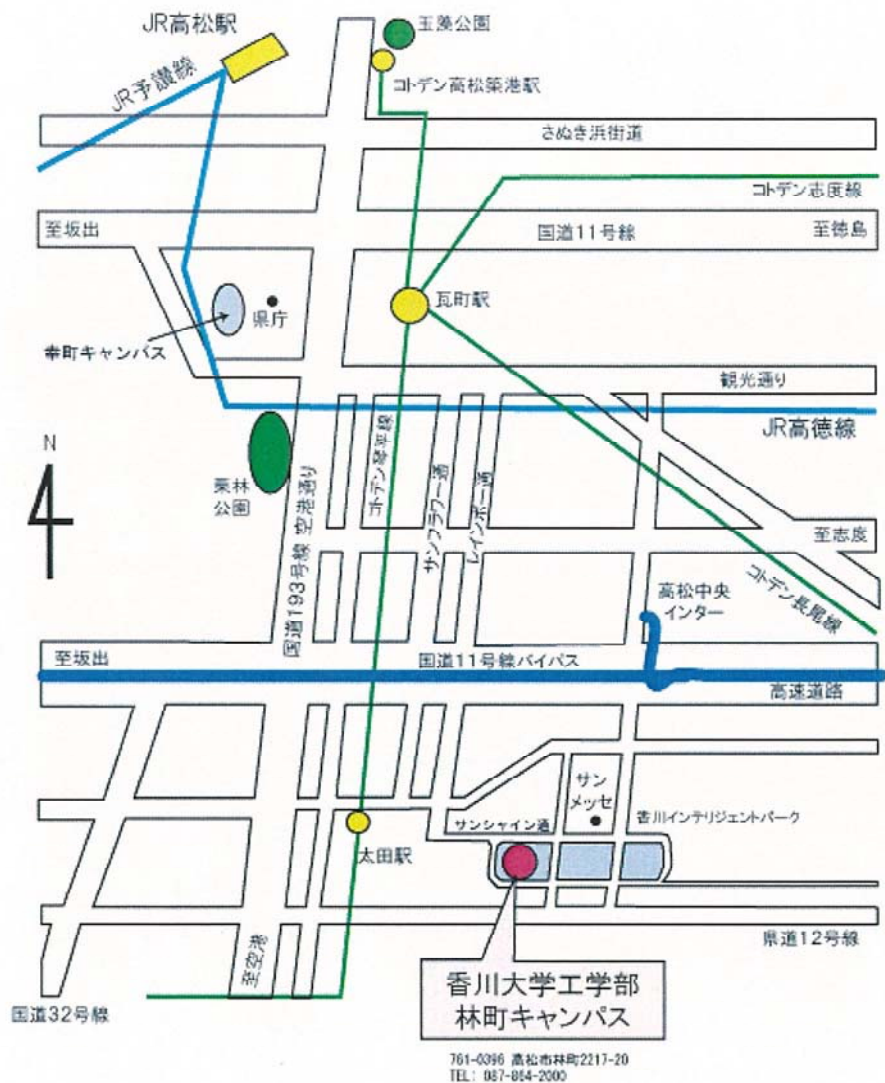
14:45-14:50 終了の挨拶

後は、自由時間。教室は開放します。

託児所があります（事前申し込み必要）。申込は、平成27年度土木学会四国支部技術研究発表会HPよりお願いいたします。当日利用の方は、学会受付までご相談ください。キャンパス内の駐車場は無料でご利用いただけます。



工学部へのアクセス方法：



地図デザイン：重水教授

http://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_eng/hayashi/access/access_info/

キャンパス会場マップ：

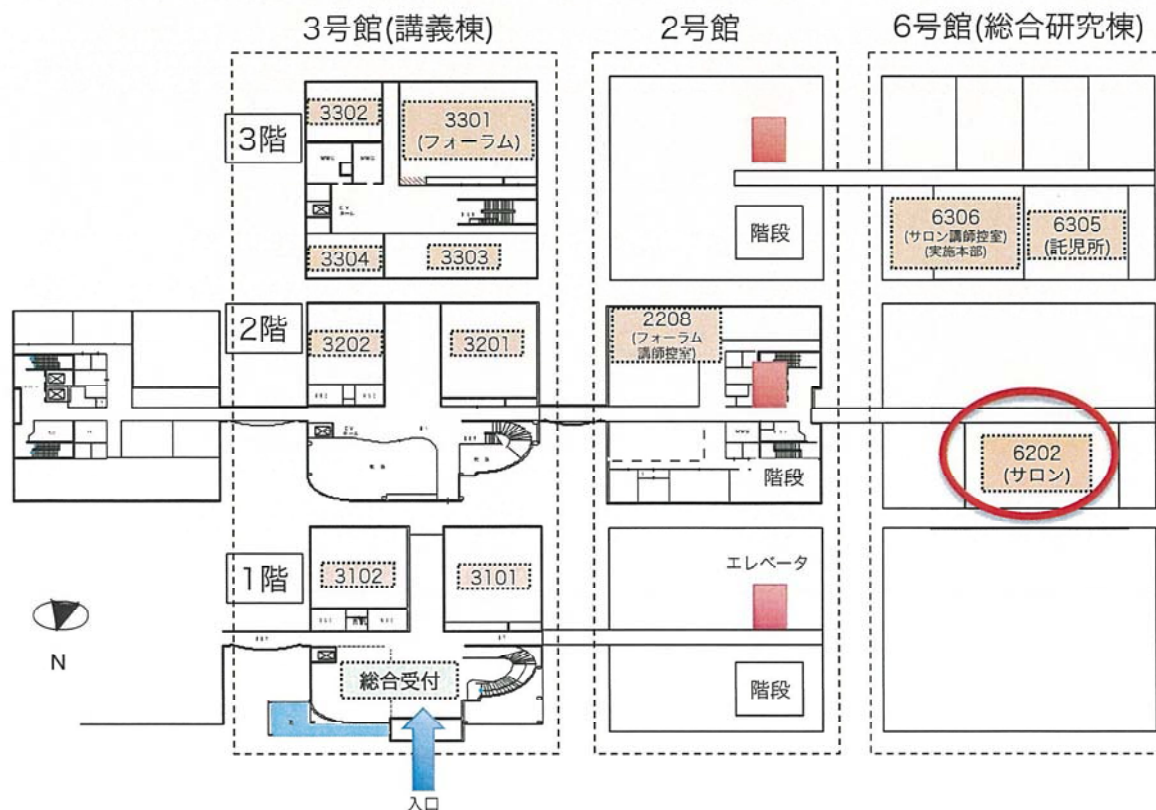
(3号館1階で受付後、6号館の2階にお進みください)



http://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_eng/hayashi/access/campus_map/

講演会場マップ：

(6号館2階まで、1号館もしくは2号館の階段をご利用ください)



テーマ：子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法
～イクメン・イクボスも集まれ！～

日程：2015年5月23日（土）13:10-14:50

会場：香川大学工学部6号館2階6202教室

参加人数：62名（女性：46名、男性：16名（60歳前後：2名、50代：4～5名、
40代：3～4名、20代：4～5名））（ただし、途中退出含む）

講演内容：

1. 「子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法」
（高松市役所 國田真紀代さん）
市役所の子育て休暇制度やご自身のキャリア形成、仕事と家庭との両立に必要なこと、考え方をご講演いただいた。
2. 「子育て女性技術者の働き方実践法」
（香川県庁 村川景子さん）
現在の仕事内容、女性が土木で働いて苦勞する点、出産してよかったこと、仕事と家庭の両立とは具体的にどのようなことかをご講演いただいた。
3. 「子育て中の若手女性技術者」
（(株)四電技術コンサルタント 甲斐佳子さん）
妊娠から出産までの仕事の調整・割り振り、出産から育児休暇中の職場復帰の準備、復職後の仕事の調整（会社・家族）、仕事と家庭の両立のポイントをご講演いただいた。
4. 「子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方実践法」
（復建調査設計(株) 岩井綾さん）
女性が仕事を続けるために必要なこと、独身時代から現在（子育て中）までの経緯、仕事との家庭との両立のために必要な協力体制をご講演いただいた。
5. 「私の育休体験」
（香川高等専門学校 大賀祐介さん）
育休取得体験、取得してよかったこと、取得にあたり苦勞したこと、男性がスムーズに育児休業を取得するための考え方や準備等をご講演いただいた。

出された意見：

子育てを通じてどのような仕事への変化やメリットがあったか、女性土木技術者が出産後も働くための土木系職場への要望とは、などの来場者との意見交換が行われた。

総括：

会場は来場者で満席、男性の参加者も多数確認でき、土木業界における本テーマの関心の高さがうかがえた。

また、女性技術者、イクメン・イクボスとともに、四国圏内からの土木系女子学生の参加があった。高知高専、香川高専、徳島大学、愛媛大学、高知工科大学、香川大学の女子学生達が研究内容や各自の活動を発信して、女性技術者と次世代を担う工学女子達との交流も行われた。

参加者の感想：

- ・ 同じ女性としての立場から話を聞けたので、共感しやすいところがたくさんあって、身のためになることがとても多かった。女性が社会進出して、日本でも、もう数十年が経過していると思うが、まだまだ「女性だからいい。」といったような偏見が残っているのには正直驚いた。
- ・ 話にもあったが、自分がどうしたいのかしっかり考えて、自分なりの軸を持つことが大事だと思った。どういう仕事に就きたいかだけでなく、将来の生き方も含めて考えていかなければならない。
- ・ 男性の理解が問題とよく耳にするので、職場の女性同士で助け合うという考え方は新鮮で大切だと思った。
- ・ これまでは、子供ができたなら仕事に集中することができず、育児中心でキャリアアップは不可能、というイメージがあったので、自分がどうしたいか、どうなりたいか、仕事を続け、将来ビジョンを持つことが最も大切なことであるという考え方は大変驚きであった。
- ・ 私たちの先輩方からとても貴重な話を受けた。共通していたことは、自分の周りの人の理解ということだった。家族、そして、職場の理解だ。しかし、それを得るには、出産に至るまでに自分が仕事で培ってきた信頼が必要だということがわかった。
- ・ まだまだ、土木の女性技術者に対する理解は少なく、たくさんの苦労をされたことも聞くことができとても良い経験であった。
- ・ 日頃から急な事態に対処できるように、工夫して仕事をされているという行動は、今からでも見習うことができると感じた。
- ・ 私が印象に残っているのは「仕事をしながらも、出産してよかったと思うこと」についてであった。それは、時間の有効利用、朝型生活での体調改善、現場での視点の変化である。仕事を続けながらも、出産することのメリットや感じる喜びなどの話を聞くことができ、よかった。
- ・ 女性の技術者だから苦労することもあったが、現在では、女性であることのメリットが多いという話も聞いた。
- ・ 今回のように、イクメンの方が話す機会がもっと多く設けられれば、多くの人が子育てについて知ることができると感じた。
- ・ 今回の講義では、職業のことだけでなく、子育てのこと、周りの人との関係のことなど学ぶことがたくさんあった。ありがたい機会だったと思う。
- ・ 女性の育休だけでなく、男性の育休も興味深かった。男性ならではの視点や考え方はとても勉強になったし、育休の制度に関する話も聞けてよかった。
- ・ 今回、お話を聞いた方々は、どなたも充実した毎日を送っているように思えた。男女関係なく、働く社会の実現にはまだ改善点があるものの、実現に向けて、着実に進んでいるように思えた。
- ・ 家庭内のことをうまくまわすためにも、職場での育児休暇が認められ、働きやすい環境を提供すべきであると思った。
- ・ 四国の各大学・高専の先輩方から、今度の取組に対する意気込みを語ってもらったが、私たちにとって、身近な存在の方々のお話を聞くことで、私自身もこれから頑張っていこうという良い刺激をもらった。
- ・ 土木関係で女性が少ないからといって尻込みするのではなく、女性の方々のお話にもあったように、女性であることを武器にして、将来、仕事と向き合うようにしたいと思った。
- ・ 育児休暇をとる際に、技術職は代わりの人を探すことが難しいため、自分が今

している仕事はいつでも誰かに代わってもらえるように効率よく、分かりやすいように作業を行うことが重要であると知った。

- ・とにかく、妊娠中でも働くことができるうちは働き、助けが必要なときはとにかく人を頼ることで、仕事を円滑に行うことができるのだと思う。
- ・働く女性をサポートするためには周囲の人の協力がとても重要であることが、今回の講演で知ることができた。
- ・私もいずれ技術職で働くことになると思うが、女性だからと言われられないような技術者になりたいと思った。そして、社会への認知をもっと拡大していくべきだと思う。
- ・女性にしか分からない悩みなどがあって、すごくためになった。
- ・実際に、産休や育休をとって、仕事に復帰なさっている女性の技術者の方が、実体験を元に講義してくださり、自分の将来と関連づけながら聴くことができ、とても参考になった。
- ・男性の育休など、まだ知られていないからこそ、自分が細かく勉強し、説明できるようにして戦えるまで知識を取り入れ、育休をとるといのはすごいと思った。
- ・私も将来、仕事と家庭を効率よくこなせる女性になりたいと思った。
- ・最後にあった、先輩方や他県から来られた学生の方々のスピーチを聞いて、私たち以上に、活動的に動いている同世代の女性がいるんだなと思った。もう3年生になるので、自分も今日スピーチされた方々のように、研究をしたり、活発に、活動するべきだなと、再認識させられた。
- ・今日の講義のように貴重な機会を設けてくださって、学ばせていただき、ありがとうございました。

サロンの様子：



「土木技術者と学生の交流会」実施報告書
(平成27年度 愛知工業大学開催)

●開催内容

- ・日 時：平成27年10月26日（月）14：40～16：10
- ・場 所：愛知工業大学八草キャンパス 1号館2210号室
- ・出席者：1年次学生 **164名**（対象科目：「土木工学セミナー」）
- ・講演者：中村吉男（㈱アイコ代表取締役社長）
- ・講演題目：「土木技術者に求められるもの」－何を学び、何を専門とするのか－

●実施報告

- ・講演趣旨：土木構造物が計画され出来上がるまで、どれだけの人がその事業に関わるのか、行政（計画・予算措置）、コンサル（調査・設計）、ゼネコン（施工）の各役割と職種的な特徴はなにか、大学で学修する事柄がどのような形で実務に活かされるのか等を、ダム建設を中心に語り、討論する。
- ・実施状況：以下のような項目の流れ（A4紙1枚に話題項目を整理して配布）に沿って、1年生にも理解できる程度に、噛み砕いた調子で、パワーポイントによる解説がなされた。
 - ① 理学（真理の探究）と工学（ものづくり）
 - ② 工学の源流（Engineering, Civil Engineering, Military Engineering）
 - ③ 土木事業（良質な生活空間を構築・整備する仕事、様々な土木構造物）
 - ④ 土木工学と社会（社会基盤の整備の程度が文明度の尺度）
 - ⑤ 公共事業（税金＝公共投資による社会基盤整備）
 - ⑥ ものづくりの順序・工夫・方法（事業者→測量→地質調査→建設コンサルタント）
 - ⑦ ものづくり（ゼネコンの様々な）
 - ⑧ ものの値段＝積算（土木構造物は現地一品生産、積算手順）
 - ⑨ 土木工学科で学ぶこと（自然現象と対峙する実学）
- ・意見聴取：講演の最後に下記の質問票を渡し（出席確認含む）、学生の意見を聴取した。
 - ① 将来展望：将来の仕事（希望する職種）について、優先順位を付けて三つ挙げなさい。

【 1)官公庁、2)測量会社、3)地質調査会社、4)建設コンサルタント
5)建設業者、6)資材メーカー、7)その他 】
 - ② ①の選定理由：どのような観点で選定したか、または選定したいと思っているか？

以上、報告いたします。

報告者：土木学会中部支部幹事 成田国朝（愛知工業大学，地域WG）

追記：

本講演会は土木学会中部支部・地域WGが企画する「土木技術者と学生の交流活動事業」のうち“学校の授業の一環として実施する活動”として開催したものである。授業の一環であり、かつ時間的・場所的な制約から、聴講者は本学の学生（1年次）のみであり、果たして学会の企画趣旨に沿っているか、いささか疑問に思うが、実施した大学からすれば良い機会を与えて頂いたようにも思う。と言うのは、本学では（どの大学も似たり寄ったり？）初年次学生に対し、土木へのモチベーションを高めるために、何かにつけて“土木とは、土木の職種は、土木で何を学ぶか”などをセミナー等の時間を使って訴えているが、やはり“実務経験が少ない”教員の話だと、説得力とか重みに欠ける部分が有り、現業の方々の生の声を聴いてもらうチャンスは貴重である。ただし、「交流会」と称する限り対話型の企画が望まれるが、今回は打ち合わせの時間が限られていたことや、聴講生が約170名と多く対話型が困難な面もあり、「講演会」という形式をとった。それでも何か学生の意見を聞こうと言うことで、最後に出席替わりのアンケート調査を行ったが、こういった実施方法・手順は、経験を積みばより良い方向に改善されるのだろうから、次回への反省として、ここに書き留めておきたい。

(2015. 10. 28 成田)

●写真：中村氏の講義を熱心に聞く1年次学生



H27 年度土木技術者と学生の交流会 実施報告書 (平成 27 年 12 月 7 日 名城大学開催)

地域 WG

1. 開催内容

- ・ 日 時：平成 27 年 12 月 7 日（月） 16:40～18:50
- ・ 場 所：名城大学天白キャンパス 共通講義棟南 101
- ・ 出席者：236 名
内訳：名城大学 151 名（1 年生 33 名，2 年生 96 名，3,4 年生 22 名）
愛知工業大学 22 名
名古屋工業大学 60 名
岐阜大学 3 名
- ・ 講演内容
国土交通省中部地方整備局：国土の基盤を支える土木技術者国土の基盤を支える土木技術者
（企画，発注，維持管理について）
中日本高速道路㈱：高速道路の計画～維持管理
（株）オリエンタルコンサルタンツ：国土の基盤を支える土木技術者 ー設計についてー
（株）大林組：「橋梁」の設計と施工について
ショーボンド建設(株)：社会基盤構造物の維持管理 ～施工者の立場から～

2. 実施報告

- ・ 目 的：一つの社会基盤構造物を例（橋）に，その企画から発注，設計，施工，補修，維持管理まで，一連の業務・役割分担を詳しく説明していただく。各業種で活躍している土木技術者に現在携わっている仕事を紹介していただくことで，学生に土木への理解を深めていただくと同時に，土木の魅力を伝えるため。
- ・ 配布物：交流会プログラム，アンケート（別添）
- ・ 実施状況：所定のスケジュール（交流会チラシ）に沿って，各講師により橋づくりにおける各業種の分担および各々会社の業務内容について説明がなされた。（実施中の様子は写真を参照）
- ・ 実施感想：本交流会は，土木学会中部支部・地域 WG が企画する「土木技術者と学生の交流活動事業」の中，「垣根を超える」ことを趣旨に，複数の大学で共同開催した初めての試みである。結果的に，開催校である名城大学から 151 名，名古屋工業大学から 60 名，愛知工業大学から 22 名，岐阜大学から 3 名の参加があり，4 校の共同開催となった。交流会後学生に実施したアンケート結果を見ると，約 80%の学生が講演内容に満足，約 80%の学生が土木技術者の魅力を感じており，さらに，約 70%の学生が今回の開催形式である，「同時に各業種を聞くこと」および「他大学との共同開催」，すなわち，業種および大学間の垣根を超えた行事に好感を示している結果となった。ただし，講演時間が予定より大幅に長引くゆえに，最後の質疑応答の時間が短くなるなど現場では少し混乱があったため，プログラム構成や時間配分等について否定的な意見も多かった。さらに，同様な理由により質疑応答が二問で終わり，学生間および学生と講師間では，十分な交流ができていない。企画者としては，講演が密過ぎたこと，講演内容に対し時間は十分でなかったこと，講演内容の依頼が曖昧であったため，講演内容に統一感が欠けるなど反省すべき点は多々ある。講演会後は，講師や来賓，関係者からもアンケートを取っている。アンケートの分析および今後の改善点等については別途提出する予定である。



写真1 忽那副幹事長による開会の挨拶



写真2 コーディネーターによる講演流れの説明

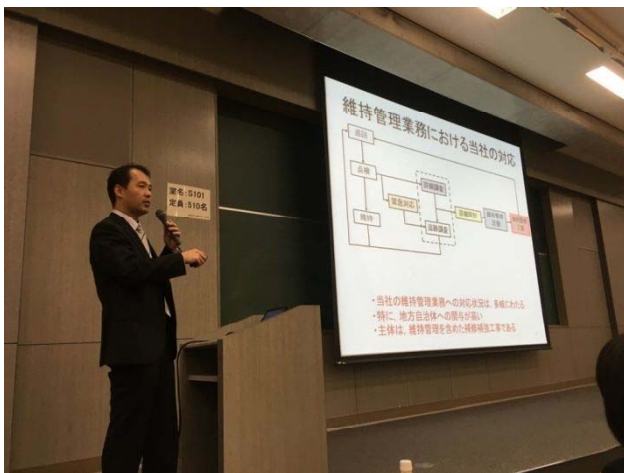


写真3 ショーボンド建設(株)平塚様のご講演



写真4 講演を熱心に聞く参加学生



写真5 パネルディスカッション1



写真6 パネルディスカッション2

平成 27 年度 イブニングサロン実施状況／愛知県

(1) 実施状況

○第 1 回：平成 27 年 7 月 9 日（木）

- ・場 所：東海工業専門学校
- ・参加者：22 名（学生 12 名、社会人 10 名）

○第 2 回：平成 27 年 12 月 3 日（木）

- ・場 所：名城大学
- ・参加者：36 名（学生 26 名、社会人 10 名）

○第 3 回：平成 27 年 12 月 8 日（火）

- ・場 所：名電高等学校
- ・参加者：21 名（学生 12 名、社会人 9 名）

○第 4 回：平成 27 年 12 月 15 日（火）

- ・場 所：中部大学
- ・参加者：31 名（学生 20 名、社会人 11 名）



(2) 主な話題

○第1回

- ・ 社会資本の老朽化対策について
 - ー近年、社会資本の適切な管理に向け、スクラップ&ビルドではなく、計画的に維持補修を行い施設の長寿命化を図ることでトータルコストを抑える方向となった。今後、維持補修の仕事が増加すると考える。
- ・ 転勤について
 - ー会社によって異なるが、海外も含め転勤はあり、現場によっては単身赴任になることも。中には地域密着で転勤のない会社もある。
- ・ 資格の取得について
 - ー資格を取得しないと仕事の幅は広がらない。大きな仕事をしたければ1級土木施工管理技士、測量士は必須。資格により携われる仕事が変わってくるため自ずと給料（手当）にも影響する。

○第2回

- ・ 仕事のやりがいについて
 - ー地元の方に直接感謝をしてもらえる仕事にやりがいを感じる。多くの関係者と協力し、新しい技術の開発やものづくりに携わり、完成した時の達成感は格別。
- ・ 勤務先（転勤）について
 - ー希望は聞いてくれるが叶うかどうかはその時の状況次第。結婚や介護など家庭の事情を考慮してくれることもある。配属先は転勤なし（支店なし）～県内～国内～海外など職種や企業規模によって異なる。
- ・ 資格の取得について
 - ースキルアップする上で、資格を取得することは非常に大切。技術士、土木施工管理技士、コンクリート診断士など社会ニーズに応じた資格を取得することにより、仕事の幅が広がり、給料（手当）も含め評価される。

○第3回

- ・ 社会に出る前にやっておくべきことについて
 - ー学校で学ぶことは社会に出てから役に立つ。目の前にあることを一所懸命に取り組むこと、大切な仲間を沢山つくることは社会に出ても活きる。
- ・ 土木と建築の違いについて
 - ー構造物を築造するという基本は同じ。建築は公共工事が1割、民間工事が9割、土木はその逆。今後、土木は構造物の老朽化対策など維持・修繕工事が、建築は高齢社会への対応、空き家対策などが重要となる。
- ・ 語学（英語）の必要性について
 - ー英語論文の解読や、海外での仕事も増えグローバル化に対応するため、コミュニケーションがとれる程度の英語力は取得した方が便利。

○第4回

- ・ 仕事のやりがいについて
 - ー沢山の人（仲間）と苦労しながら完成させた時の良い3K（感動・感謝・貢献）は悪い3K（きつい・汚い・危険）を忘れさせてくれる。
- ・ 社会人1年目の仕事について
 - ー覚えることは沢山あるが、上司に教えてもらいながらこなしていく。現場の管理・監督の方法やCADなどのスキルは、仕事に携わりながら身につけていく。
- ・ 資格の取得について
 - ー技術士、土木施工管理技士、コンクリート診断士などの資格を取得することにより、仕事の幅が広がり、給料（手当）も含め評価される。

土木学会北海道支部
第3回 若手技術者の交流サロン ワークショップ実施記録

公益社団法人 土木学会 北海道支部
岩田圭佑・田口伸吾・中山直智・山田菊子

実施概要

名 称：土木学会 北海道支部 第3回 若手技術者の交流サロン
日 時：2016年1月30日（土）15:00～17:00
会 場：北海道大学工学部 N201 号室（札幌市北区）
内 容：ファシリテータを中心にグループごとにワークショップ形式にて議論した。
各グループは業種別とし、それぞれに若手技術者も配置した。
議論のテーマは「土木の世界で働くとは」である。
主 催：（公社）土木学会 北海道支部
共 催：（公社）土木学会 企画委員会 若手会員パワーアップ小委員会
参加者：28名（学生14名、若手技術者4名、ファシリテータ4名、北海道支部4名）
A グループ：行政・研究職、B グループ：建設会社、
C グループ：コンサルタント、D グループ：海外勤務

プログラム

15:00 開会
15:00～15:05 開会挨拶：北海道支部長 小林敏克
15:05～15:15 実施要領説明：山田・田口
15:15～16:20 ワークショップ
16:20～16:50 結果の共有
16:50～17:00 閉会挨拶：北海道支部幹事長 北谷啓幸
終了後、懇親会を開催した。

報告（総括）

第3回となる当サロンは、初めて土木学会の若手会員パワーアップ小委員会の共催をいただいで開催した。第2回同様、職域別（行政・研究職、建設会社、コンサルタント、海外勤務）にグループを分け、それぞれにファシリテータと若手技術者を1名ずつ配置した。女性技術者のみのグループは設置せず、目的別に配置されるようにした。また、若手会員パワーアップ小委員会には企画段階から関与いただき、当日は若手技術者、ファシリテータとし

て参画いただいた。また、チラシの作成（図1）もいただいた。また、昨年度の参加者である学生の参画も得て、就職活動を控えた学生を対象として、仕事を具体的に考える機会とすることを決定した。ファシリテータと若手技術者には「進行のヒント」（岩田作成）を提供した上で、進行は各グループのファシリテータに一任した。また、最後に懇親会を開催した。

終了後のアンケート調査では5段階評価で4.68点（7割が5点）をつけるなど、今回も高い評価を得た。話しやすい雰囲気を用意できたこと、現実的な話題を提供することができたこと、他のグループの話題を共有できたことなどがよかったこととしてあげられている。他のグループとの交流の機会を増やすこと、もっと多くの方に参加いただくこと、継続することの必要性が今後に必要な対応としてあげられた。また、運営側からは、議論を助ける「若手技術者」は、ベテランの技術者や行政の方々など支部の幹部に依頼すること、普段会わないメンバーでの会話ができるよう、グループ分けを工夫することなどが提案された。

企画・運営側としては労力も大きいですが、普段会わない方々との会話ができることなど、喜びも大きい企画となった。

第3回

土木学会北海道支部

若手技術者交流サロン

参加無料

テーマ: 土木の世界で働くとは？

今年も土木学会北海道支部 年次技術研究発表会に合わせて、若手技術者交流サロンを開催します。今回も若手・中堅技術者を招き、「土木の世界で働くとは？」をテーマとして参加者とワークショップを開催します。ワークショップでは、行政・研究職、建設会社、建設コンサルタント、海外勤務の4つのグループに分かれて議論する予定です。

土木の仕事が知りたい人、就職先に悩んでいる人、海外の仕事に興味のある人、この機会に先輩や他の参加者と考えてみませんか。

2016年1月30日（土）
時間：15時00分～17時00分
（終了後は懇親会17:30～を開催予定）
場所：北海道大学工学部 N301号室
主催：土木学会北海道支部

対象：高専・大学の学生（学年を問わず）
土木学会北海道支部 年次学術講演会への登録は不要です。
ファシリテータ、若手・中堅技術者：
行政・研究職、建設会社、建設コンサルタント及び海外勤務経験者（予定）

※若手技術者交流サロンはCPD対象です。




参加方法：下記URLよりお申込み下さい **※要事前申し込み**

<http://goo.gl/forms/9qSRyJhGK>

締切予定：2016年1月中旬

参加費：無料

定員：学生16名（定員になり次第締め切ります）

問合せ先：公益社団法人 土木学会 北海道支部
011-261-7742 / hjsce@olive.ocn.ne.jp




図1 告知チラシ



写真1 グループディスカッション



写真2 議論の報告

報告（各グループ）

以下、各グループの議論について報告する。下線は報告の執筆者である。

A グループ：行政・研究職

【ファシリテータ：岩田圭佑、若手技術者：阿部孝章、学生3名】

A グループでは、自分が将来何の仕事に就きたいか、その仕事で何を大切にして働きたいかを自由に語ってもらった。

参加した学生からは、「市役所の職員として、市民に寄り添って働きたい」「道庁マンとして、全道を飛び回って社会を変える仕事をしたい」「ゼネコンの技術者として現場のものづくりに直接携わりたい」と、将来にかけるアツい思いを語ってもらった。これに負けじと、若手技術者やファシリテータも、研究者として働くことのおもしろさを語った。

一方で、参加した学生は「市民の役に立ちたいが、苦情が怖い」「就活が不安」といった、率直で素直な悩みも抱えているようだった。

このように、様々な思いや悩みを持っているメンバーが集まって有意義な議論ができた。最後には、「社会のニーズに応える仕事をしていきたいが、ニーズは時代とともに変化する。例えば、新しいモノをつくる時代から、維持管理が重要視される時代になってきているように。そのような時代に私たちが成すべき事は、常に市民の声に耳を傾け、解決しなくてはならない新たな課題を見いだすことや、課題を解決する新たな政策や技術開発を提案できることであり、そのためにはときに常識を覆すような勇気も必要ではないか」という結論に至った。

ファシリテータとしては、「土木の世界で働くうえで大切なことは、自分が大切にしたい何か（“市民”“社会”“現場”）がある」ということに気づくことができ、非常に楽しい時間だった。

B グループ：建設会社

【ファシリテータ：田口伸吾、若手技術者：嘉屋健司、学生 3 名】

まず各自に、自己紹介を兼ねて、「就職に関しての悩み」「最近の話題について」等についてそれぞれ発表していただき、話し合いの雰囲気を高めた。次に建設会社の良い、悪いイメージについて話し合った。その後、建設会社の役割について意見交換を行い、ファシリテータや若手技術者から、建設会社での日常業務や体験談、将来のキャリアパスについて説明を行った。それに対する学生からの疑問や悩みについて回答する形で話し合いを進めていった。最後に学生には「自分の将来像」をイメージして書き出してもらった。

就職を間近に控えた学生であっても、建設会社、業界のことは、ニュースや報道などからくるイメージが先行していて、深く理解できていないことを感じた。最後の自ら描く将来像については、将来の業務や結婚(?)に対する希望や強い意志を見ることができた。短い時間だったが、WGを通して建設業界への理解を深めてもらうことや、将来を考える上での助けになれたのではないかなと思う。

ファシリテータや若手技術者として参加させていただいた我々にとっても、学生の新鮮な発想や希望に満ちた発言と触れ合うことによって、エネルギーを分けてもらうことができた。

C グループ：コンサルタント

【ファシリテータ：橋本麻未、若手技術者：中山直智、学生 4 名】

メンバーの自己紹介とともに、自らのやりたいことを発表してもらった。近年頻発している災害を受け、人命や人々の生活を守りたいという意見や自らの経験から海外の発展に貢献したいという意見があった。そのような想いを実現するため、今の土木業界が抱えている問題点を話し合い、働きたいと思う会社像とそれを実現するための方法を取りまとめた。

議論の中では、土木業界に関する「きつい」「汚い」「古い」等の意見があり、土木に関連する学生においても未だネガティブなイメージが持たれていることがわかった。また、コンサルタントの仕事内容に対する疑問もあり、将来を担う若者に業界に対する正しい認識を持ってもらうことが業界全体にとって非常に重要なことではないかと思われる。

しかしながら、若手交流サロンの参加メンバーは、土木という仕事に対する自分の考えを持っており、土木学会としても若手の夢や想いの実現の手伝いがいできれば素晴らしいことだと感じた。

D グループ：海外勤務

【ファシリテータ：山田菊子、若手技術者：納 弘、学生 4 名】

自己紹介を兼ねて、「海外勤務」に興味を持ったきっかけの情報を共有した。高校、大学時代に留学や旅行で海外の文化に触れて興味を持った人や、「平凡は嫌だ」と考える人もい

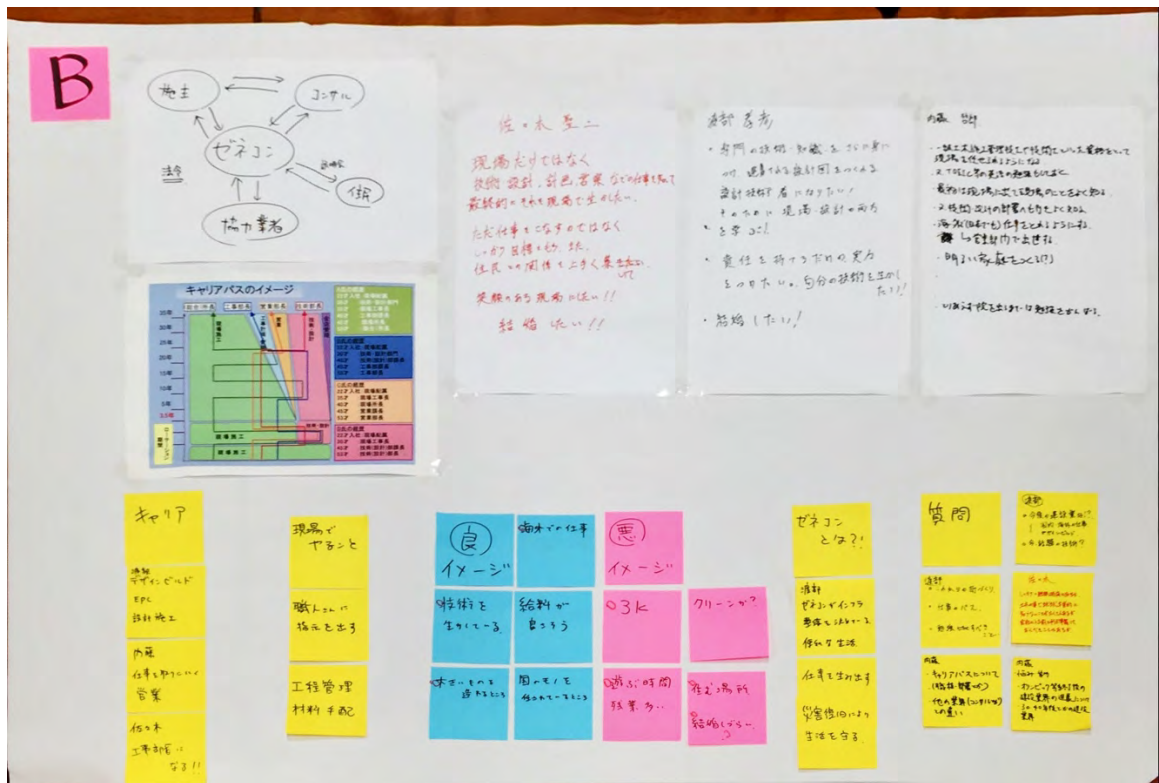


写真 4 議論の出力 (B グループ : 建設会社)

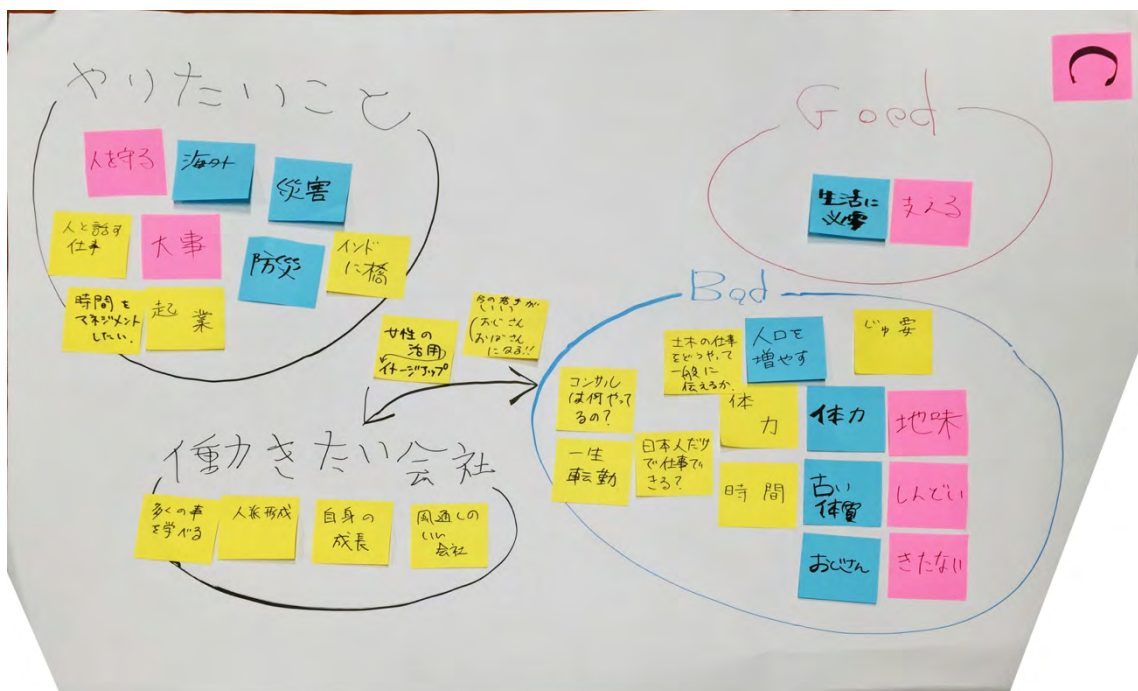
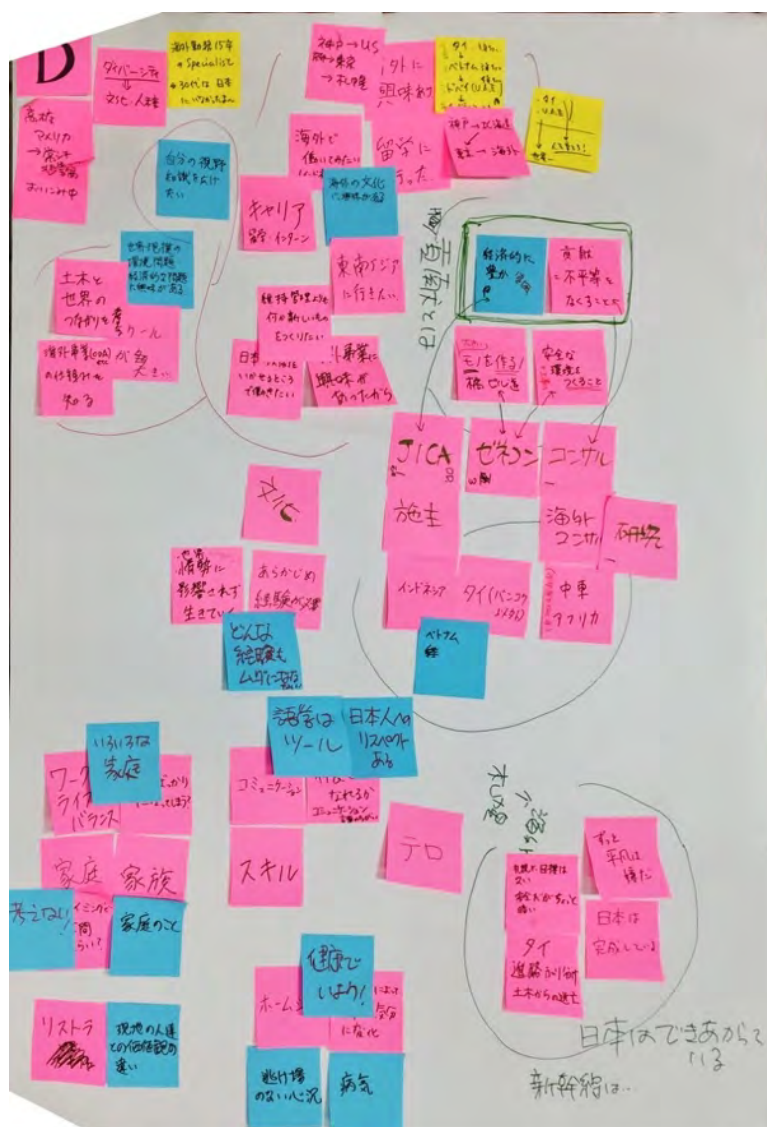


写真 5 議論の出力 (C グループ : コンサルタント)



以上

「平成 27 年度 若手技術者交流サロン」開催のご案内

若手土木技術者の交流と情報交換のため、若手技術者交流サロンを開催いたします。若手とは、概ね 35 歳以下の方を対象とし、技術力向上や学会活動を通じた交流についての意見交換を行います。是非多数のご参加をお待ちしております。

お気軽に
ご参加ください

記

日 時：平成28年1月29日(金) 15:00～17:30

場 所：広島マツダビル 第3会議室（広島市中区幟町13番4号）

http://www.hiromaz.co.jp/kaigishitsu/img/pic_index06.gif



参加費：無料

プログラム

14:30～ 開場

15:00 開会

15:00~15:45 講演①

題 目：経路探索システムのログデータを用いた交通特性分析

講演者：鳥取大学 桑野 将司 准教授

15:45~16:15 講演②

題 目：常時微動計測によるダムの振動特性評価について

講演者：中国電力株式会社 仁科 晴貴 氏

16:15~16:20 休憩

16:20~16:40 講演③

題 目：学会活動を通じた若手土木技術者の活躍フィールド開拓に向けて

講演者：東日本旅客鉄道株式会社（土木学会若手会員パワーアップ小委員会） 伊東 佑香 氏

16:40~17:30 若手技術者座談会

若手技術者間の情報交換によるネットワーク形成を目指していませんか？

18:00~19:30 交流会 会費 3,500 円程度

(別会場、会費は当日会場にて徴収いたします。)

参加ご希望の方は、下記申込書にて、1月26日(火)までにご連絡ください。

《問合せ先》 公益社団法人土木学会中国支部

〒730-0011 広島市中区基町 10-3 広島県自治会館 3 F

TEL : 082-222-2376 FAX : 082-222-2496 E-mail : jsce-chugoku@citrus.ocn.ne.jp

F-5-2 若手サロンへの参加

事業名称	平成 27 年度 若手技術者交流サロン				
実施時期	平成 28 年 1 月 29 日 (1 日間)				
実施場所	広島マツダビル 第 3 会議室 (広島市中区幟町 13 番 4 号)				
支部関与	共催	参加人数	21 名	CPD	2.5 単位
事業内容	15:00 開会 15:00～15:45 講演① 題 目：経路探索システムのログデータを用いた交通特性分析 講演者：鳥取大学 桑野 将司 准教授 15:45～16:15 講演② 題 目：常時微動計測によるダムの振動特性評価について 講演者：中国電力株式会社 仁科 晴貴 氏 16:15～16:20 休憩 16:20～16:40 講演③ 題 目：学会活動を通じた若手土木技術者の活躍フィールド開拓に向けて 講演者：東日本旅客鉄道株式会社(土木学会若手会員^{パワーアップ} 小委員会) 伊東 佑香 氏 16:40～17:30 若手技術者座談会 18:00～ 懇親会 若手技術者の研究事例について講演いただき、会場から活発な質疑応答があった。専門分野外の内容も多くあったが、初歩的な質問も遠慮なくできる雰囲気があったと感じた。 座談会では、参加者同士の自己紹介・土木学会とのかかわりについて意見交換を行った。若手技術者が参加したいと思う交流サロンのあり方について、多くの要望を頂いたため、今後の活動に生かすことができると考える。座談会テーマに学会活動を挙げたため、議論に十分な深まりがなかった、今後は若手同士の交流機会が普段少ないことを踏まえ、よりフランクな内容について活発に意見交換できる場にしたいと思う。 企画後の懇親会では、講師を交え活発な交流が行われた。若手同士の交流として大変有意義な機会であると考えている。				

実施状況



講演(鳥取大学 桑野 准教授)



質疑応答



座談会

F-8 支部講習会の企画

事業名称	若手技術者交流講演会				
実施時期	平成 29 年 1 月 25 日（水）（1 日間）				
実施場所	サテライトキャンパスひろしま（広島市中区大手町 1 丁目 5-3）				
支部関与	共催	参加人数	27 名	CPD	1.5 単位
事業内容	18:00 開会 18:00～18:20 講演① 題 目：私の失敗談と教訓 講演者：一山コンサルタント 山下祐一 18:20～18:40 講演② 題 目：私の転機 講演者：広島大学 土田 教授 中国支部支部長 18:40～19:00 講演③ 題 目：土木学会における若手技術者の活性化について 講演者：中電技術コンサルタント(株)(若手パワーアップ小委員会) 佐竹 亮一 19:00～19:30 若手技術者座談会 19:30～懇親会 先輩技術者の経験と転機となった事柄について講演をいただいた。普段聞くことのできない貴重な講演を頂けた。若手にとって何気ない日常業務も積極的な姿勢で技術者としての技術力向上につなげていけるのではないかと感じた。 座談会では、初対面の参加者同士の自己紹介から、土木学会での活動等について意見交換を行った。参加者の感想として、同世代で意見交換等をする機会は少ないため、有意義であったとのことで、限られた時間であったが交流することができた。今後の活動として、集まりやすい実施時期・現地見学会実施などの提案があった。例えば、現地見学会は施工前・施工中・供用後のような、シリーズでの実施提案があり、固定メンバーで実施するでより理解・交流が深まると考えられる。 今後とも、若手同士の交流の機会を提案することで、学会活動の活性化に寄与したいと思う。				

実施状況



講演(山下 氏)



聴講・質疑応答



(右)座談会、(上)講演会にて新たな出会い





「平成 28 年度若手技術者交流講演会」開催のご案内

若手
UP!

若手土木技術者の交流と情報交換のため、若手技術者交流講演会を開催いたします。

若手とは、概ね 35 歳以下の会員・学生会員を対象とし、技術力向上や学会活動を通じた交流についての意見交換を行います。ぜひ多数のご参加をお待ちしております。

記

**会員以外でも
お気軽にご参加ください**

日 時：平成 29 年 1 月 25 日(水) 18:00～19:30

場 所：広島県立大学サテライトキャンパスひろしま 502 会議室(広島県民文化センター 5 F)
広島市中区大手町 1 丁目 5-3



土木学会 CPD プログラム



参加費：無料

プログラム

17:30～

開場

18:00

開会挨拶（土木学会中国支部 支部長 土田 孝（広島大学））

18:00～18:45

講演①

題 目：先輩技術者からの技術継承・失敗談と教訓・業界のうら話

講演者：先輩技術者諸氏

18:45～19:00

講演②

題 目：学会活動を通じた若手土木技術者の活性化に向けて

講演者：中電技術コンサルタント株式会社

（土木学会若手パワーアップ小委員会） 佐竹 亮一 氏

19:00～19:30

座談会

若手技術者間の情報交換によるネットワーク形成を目指してみませんか？

19:30～21:00

交流会 会費 3,500 円程度

（別会場、会費は当日会場にて徴収いたします。）

参加ご希望の方は、下記申込書にて、1 月 20 日(金)までにご連絡ください。

《問合せ先》 公益社団法人土木学会中国支部

〒730-0011 広島市中区基町 10-3 広島県自治会館 3 F

TEL：082-222-2376 FAX：082-222-2496

E-mail：jsce-chugoku@citrus.ocn.ne.jp